

326
109

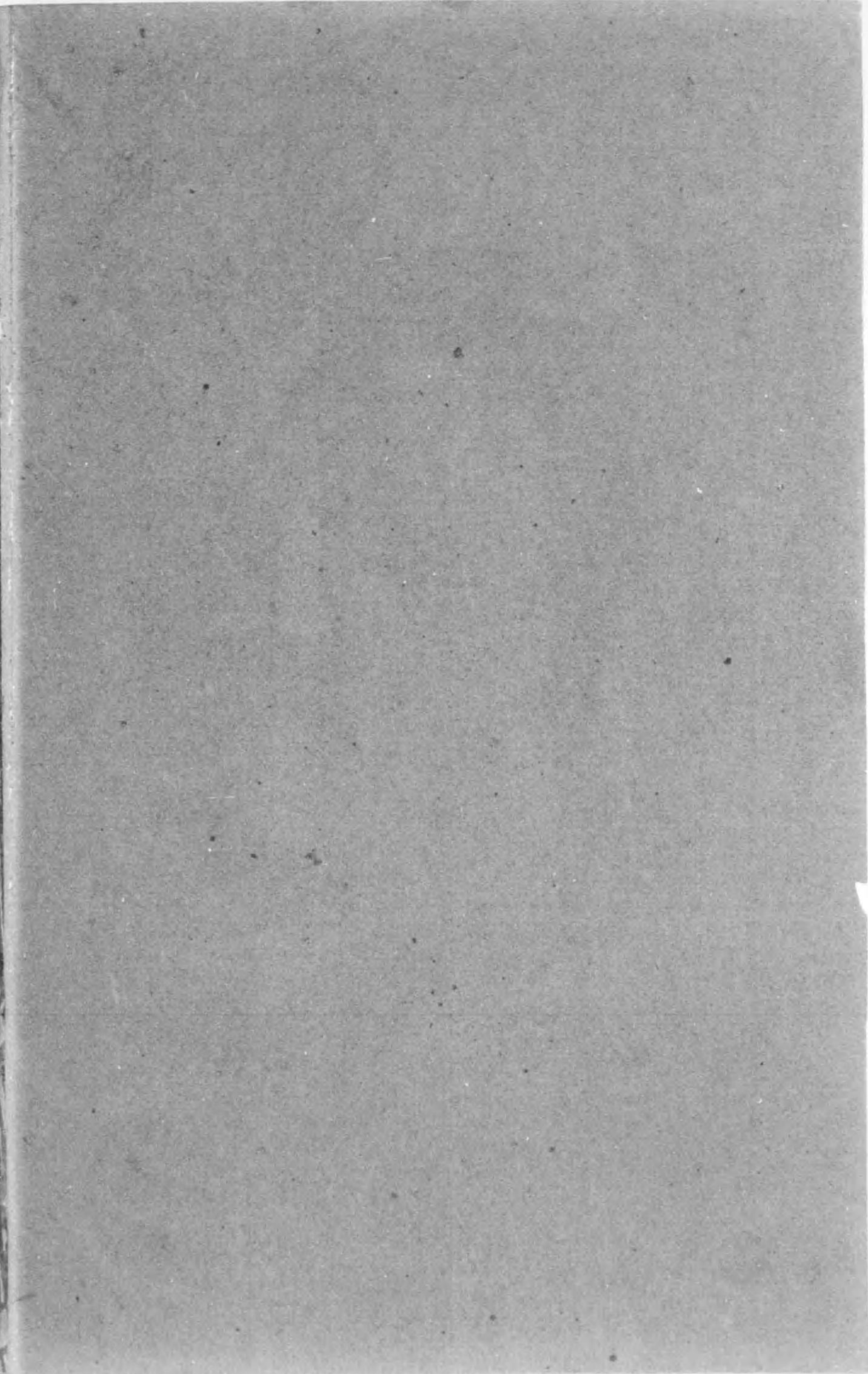


始





第百秋田縣消防展覽會紀念記錄



326-109



大正三年八月

第一回
秋田縣

消防展覽會記錄

秋田縣警察部保安課編纂

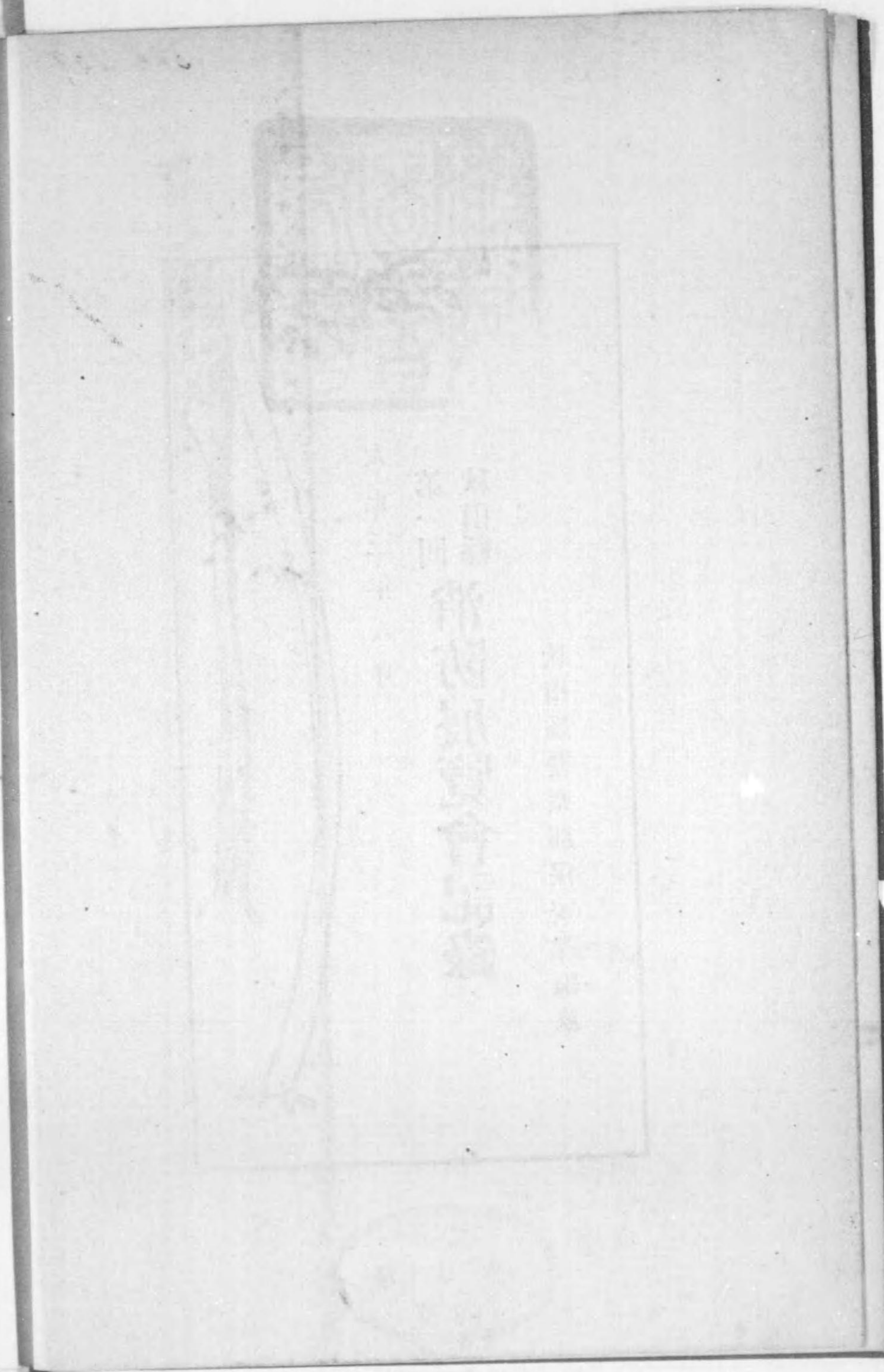
大正
4. 8. 19
內交





田黃之精

晚恒



取



稿

粹

芳

甲寅之秋

晚
恒





序

火災と消防とは常に離るべからざる所にして火災の慘害と之を救済する消防の效績とは又爾に謂ふを要せざるなり從來我秋田縣下家屋の構造は租略なる火の取扱と相俟ち火災の損害誠に恐るべきものあり是れ今日の消防上の設備を見るに至れる所以にして又之が層一層の完備を急務とする所以なり消防の實績は固より事に當る人の優劣に歸すべしと雖之等に依りて使用せらるゝ物の整備如何亦彼に比して輕しとせざるなり曰く現今の戦争は器械の戦争なりと余は之を信するものにあらず然れども兵器の優劣が勝敗に至大の關係を有するは全然之を疑ふの餘地なし消防の事亦然り消防の諸士如何に技に卓越せりと雖用ゆるの器械器具にして不備ならんか實績を擧ぐる殆難しとする所ならん消防の諸器を改善完備するの要實に茲にあり而して消防に經驗と才能とあるの士が熱誠と若心との結果創作改良せる諸器を一場に集めて弘く公衆に示めし以て彼我の優劣を比較研究し採長補短の資となすは之が改善上最要々



なる事に屬す今般秋田市に消防展覽會の開催を見たる蓋之が爲なり然れども展覽會は開會期間に限りあり觀覽人員に程度あり之れ實に本小冊子の現はれたる所以とす若し藏するの記事寫眞等にして幾分たりとも消防上に貢獻する所あらんか余の本懷之に過ぎざるなり

大正三年八月

秋田縣消防義會々長 川 上 親 俊

序

恐るべき火災を如何にして豫防し如何にして鎮壓すべきかと云ふ講究は我國殊に本縣の如き家屋の構造の完全ならざる地方に取りて最肝要の事に屬す而して之が豫防鎮壓の目的を完うせんが爲には消防思想の普及消防器具の改良方法の進歩に待つの外なきなり

事物の進歩發達を促す方法としては其數甚多かるべきも就中眼より入りて人を啓發することの最有效なるは何人も疑はざる所なるべし本會が他府縣に卒先して消防展覽會を開催し以て消防の發達改善を企圖したる亦茲に着眼したるが故而已之によりて消防に關する知識を廣め消防用機械器具改良の機運を促進し消防組織の改善消防方法の發達を來す一助たることを得たらんには展覽會開催の目的は茲に達せられたりと謂ふことを得ん

今や展覽會に出陳せられたる多數の参考となるべき物につき有益なる資料を集蒐して消防展覽會記念記録を編纂するに方り聊か展覽會開催の趣旨の存す

序
る所を述べ以て序となす爾云

四

秋田縣消防義會幹事長 松 本 學

第一回 秋田縣 消防展覽會記錄目次

口 繪

一、秋田縣消防義會中樞……………	一頁
二、消防展覽會發會式當日公會堂前に於ける秋田縣消防義會々長役員其他……………	二
三、第二回金馬簾使用認許狀授與式場に於て阪本知事が告辭を朗讀せる光景……………	三
四、第二回金馬簾使用認許狀授與式場に於て來賓戸崎北秋田郡長が祝辭を述べたる光景……………	四
五、同上式場に於て川上警察部長が式辭を朗讀せる光景……………	五
六、秋田縣消防義會役員及消防展覽會委員……………	六
七、秋田縣消防展覽會場と改良せられたる唧筒及刺又……………	七
八、三浦式改良刺又……………	八
九、維新前の火事裝束……………	九
十、消防展覽會場の内部(其一)……………	一〇
十一、纏、消火器、掛軸其他の出品物……………	一一
十二、消防展覽會場の内部(其二)……………	一二
十三、衛生課出品……………	一三
十四、秋田消防展覽會場の内部(其三)……………	一四
十五、維新前の火事裝束品(其一)……………	一五

十六、維新前の火事裝束品(其二)	一六
十七、新規考案に係る出品物(其一)	一七
十八、新規考案に係る出品物其他(其二)	一八
十九、新規考案に係る出品物其他(其三)	一九
二十、新規考案に係る出品物其他(其四)	二〇
廿一、消防に關する書類(其一)	二一
廿二、消防に關する書類(其二)	二二
廿三、唧筒及土寄遭難救護會出品物	二三
廿四、秋田縣消防組々頭會議の際實驗したる秋田署備付の蒸汽唧筒放水の景	二四
廿五、出火原因別繪圖	二五
廿六、裝束衣(其一)	二六
廿七、裝束衣(其二)	二七
廿八、裝束衣(其三)	二八
廿九、裝束衣(其四)	二九
三十、裝束衣(其五)	三〇
卅一、裝束衣(其六)	三一
卅二、裝束衣(其七)	三二
卅三、裝束衣(其八)	三三
卅四、裝束衣(其九)	三四
卅五、大正式梯子構造	三五

卅六、火災方面表示信號器構造	三六
卅七、三浦式改良刺又構造	三七
卅八、新案鐘樓構造	三八
卅九、消防提灯構造	三九
四十、火災報知機假設圖	四〇
四十一、火災報知機構造	四一
四十二、同 受信機構造	四二
四十三、仙北郡角館水道布設圖	四三
四十四、由利郡松ヶ崎神の澤南部木管水道布設圖	四四
四十五、由利郡下濱村羽川部落消防用木管水道布設圖	四五
四十六、一年間の火災度數郡市別比較表	四六
四十七、一年間の火災燒失戸數郡市別比較表	四七
四十八、一年間の火災損害額郡市別比較表	四八
四十九、大正二年火災原因別表	四九
五十、大正二年火災發火時刻別表	五〇
五十一、消防組未設町村及ポンプ未設消防組調査表	五一
五十二、最近七ヶ年間に於ける火災度數燒失戸數損害額死傷者數等比較表	五二
五十三、最近七ヶ年間に於ける火災度數及損害額の平均月別表	五三
五十四、秋田縣内消防組及警備費郡市別比較表(大正二年調)	五四
五十五、秋田縣消防組設置町村大正二年度警備費の一戸當額比較表	五五

五十六、秋田縣消防組設置町村大正二年度警備費の組員一人當額比較表

記事

總說..... 一頁

第一、消防展覽會出品總目錄.....

第二、重なる出品物の説明並に其内容.....

一、機械器具其他の物品.....

二、消防用裝束.....

三、火災記録並に消防關係書類.....

イ、維新前の火災記録並に消防關係書類.....

ロ、維新後の消防關係書類.....

四、警備費基金造成計畫書.....

附錄

金馬簾使用認許狀授與式概況.....

第一回 秋田縣消防展覽會記録目次終

第一圖



總裁阪本三郎君

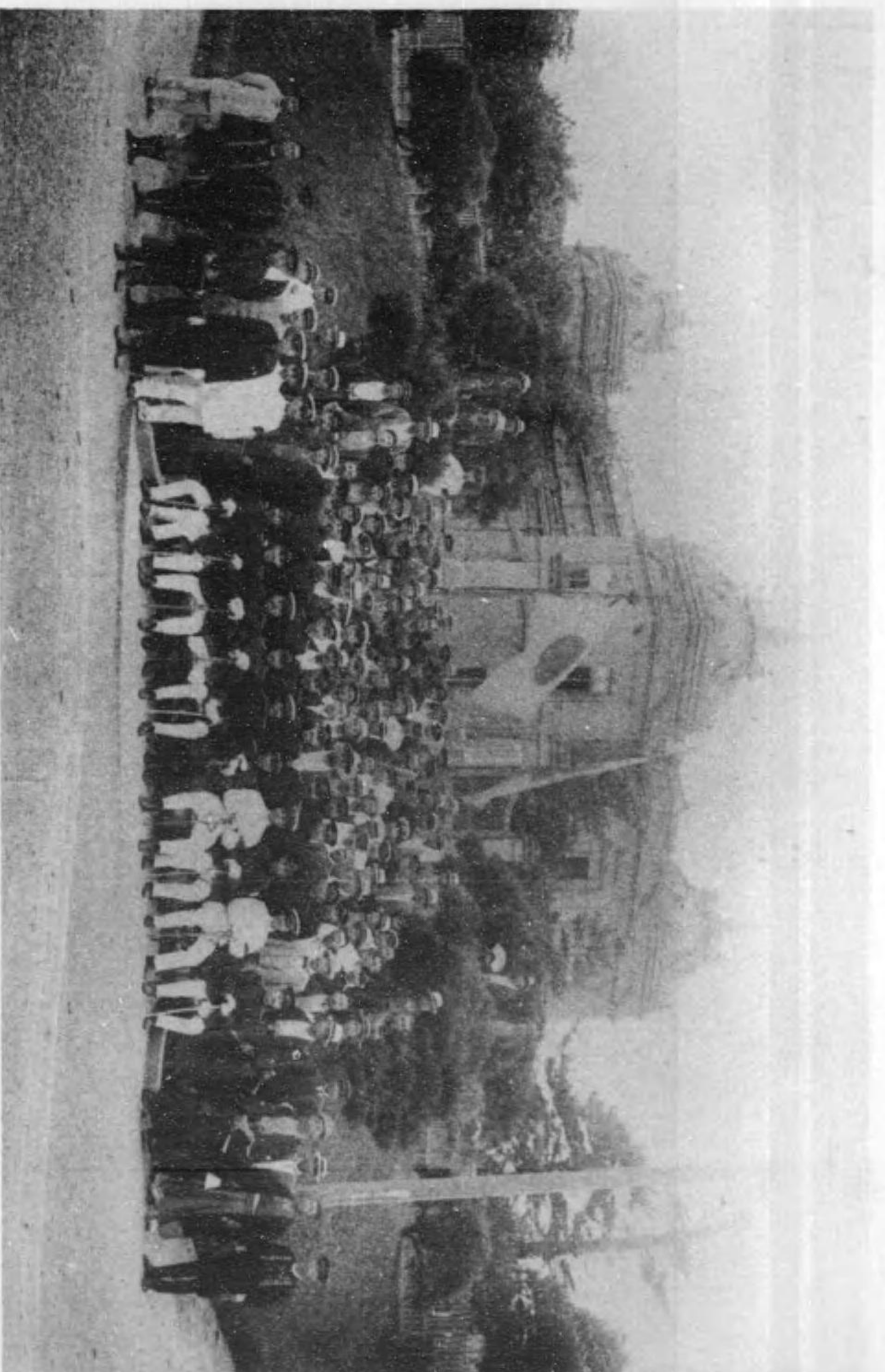


幹事長松本學君



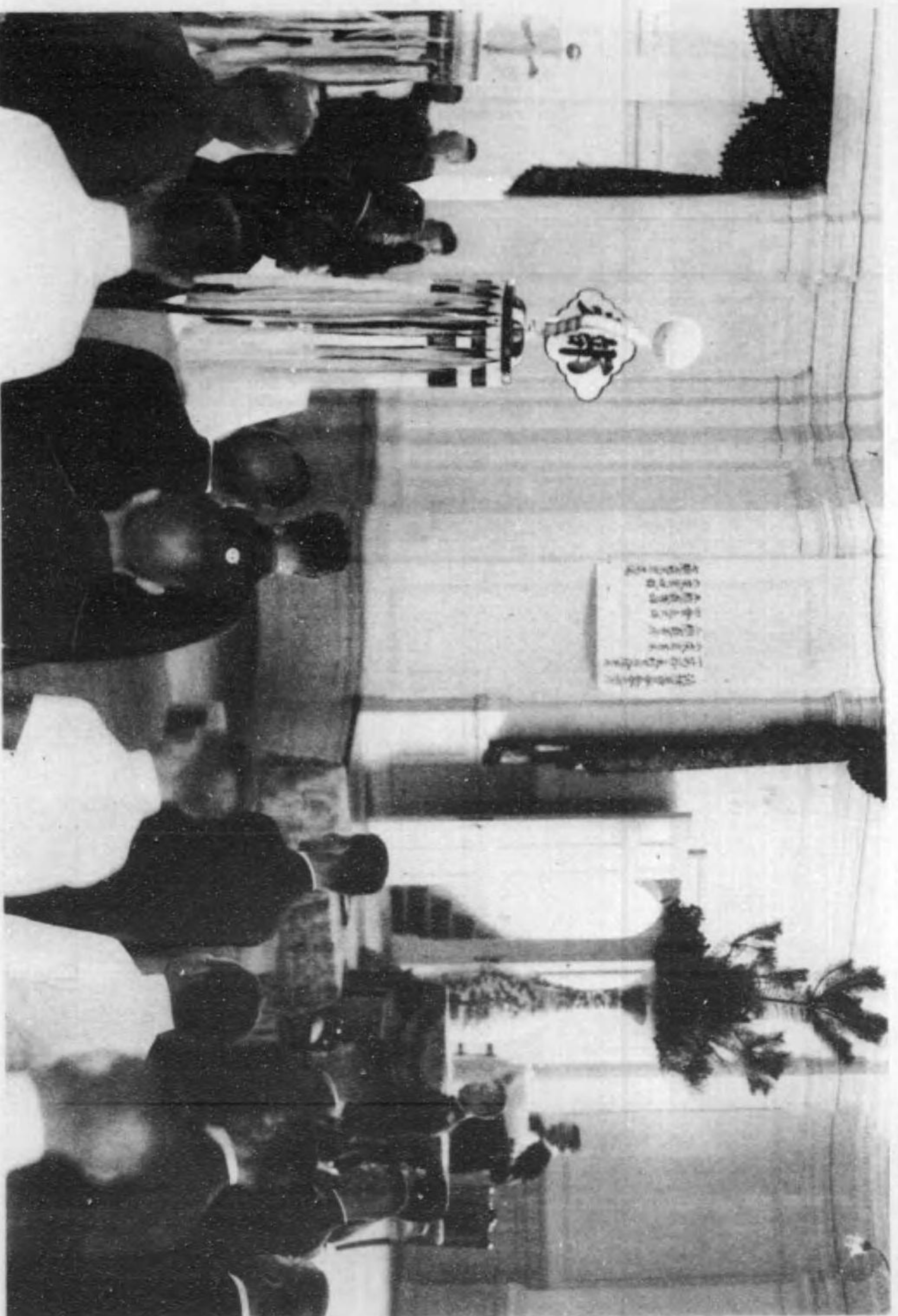
會長川上親俊君

秋田縣消防義會中樞



公會堂前於秋田縣消防協會員其他

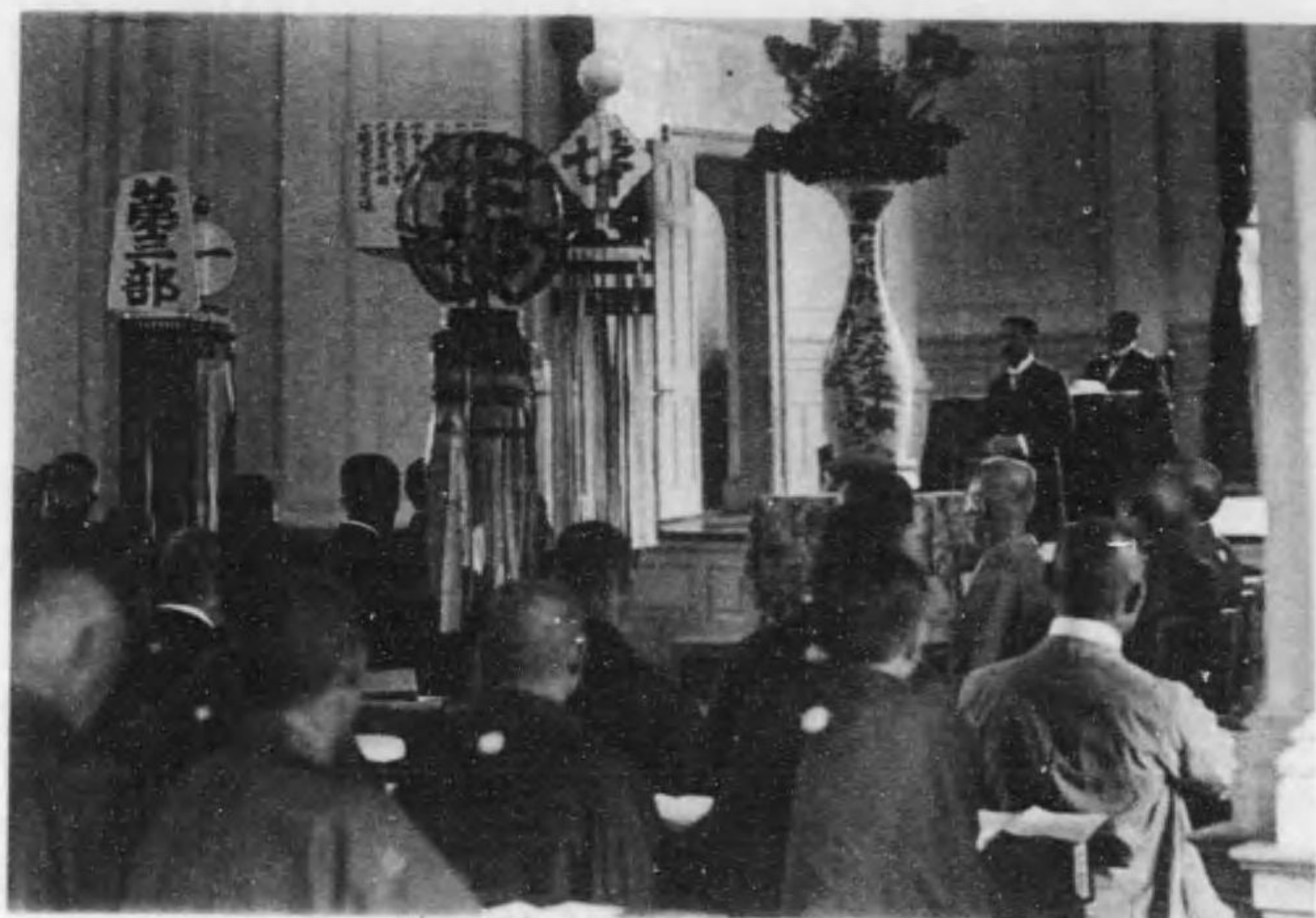
第二圖



第 二 回 馬 籠 使 用 許 可 狀 授 與 式 於 此 處 告 辭 朗 讀 之 景 光

第三圖

第四圖



テ於ニ場式與授狀許認用使簾馬金回二第
景光ルフ述ヲ辞祝カ長郡田秋北崎戸賓來



景光ルセ讀朗ヲ辞式ガ長部察警上川 テ於ニ場式與授狀許認用使簾馬金回二第

伊藤 巡查部長

岩 村 警 部

村 木 警 部 補

金 兒 警 部

栗田 巡查部長

松 本 警 視

鈴木 警 部 補

川 上 警 察 部 長

堀 江 技 手

岸 警 部

木 澤 技 手

藤 警 部

高 橋 巡 査

森 警 部

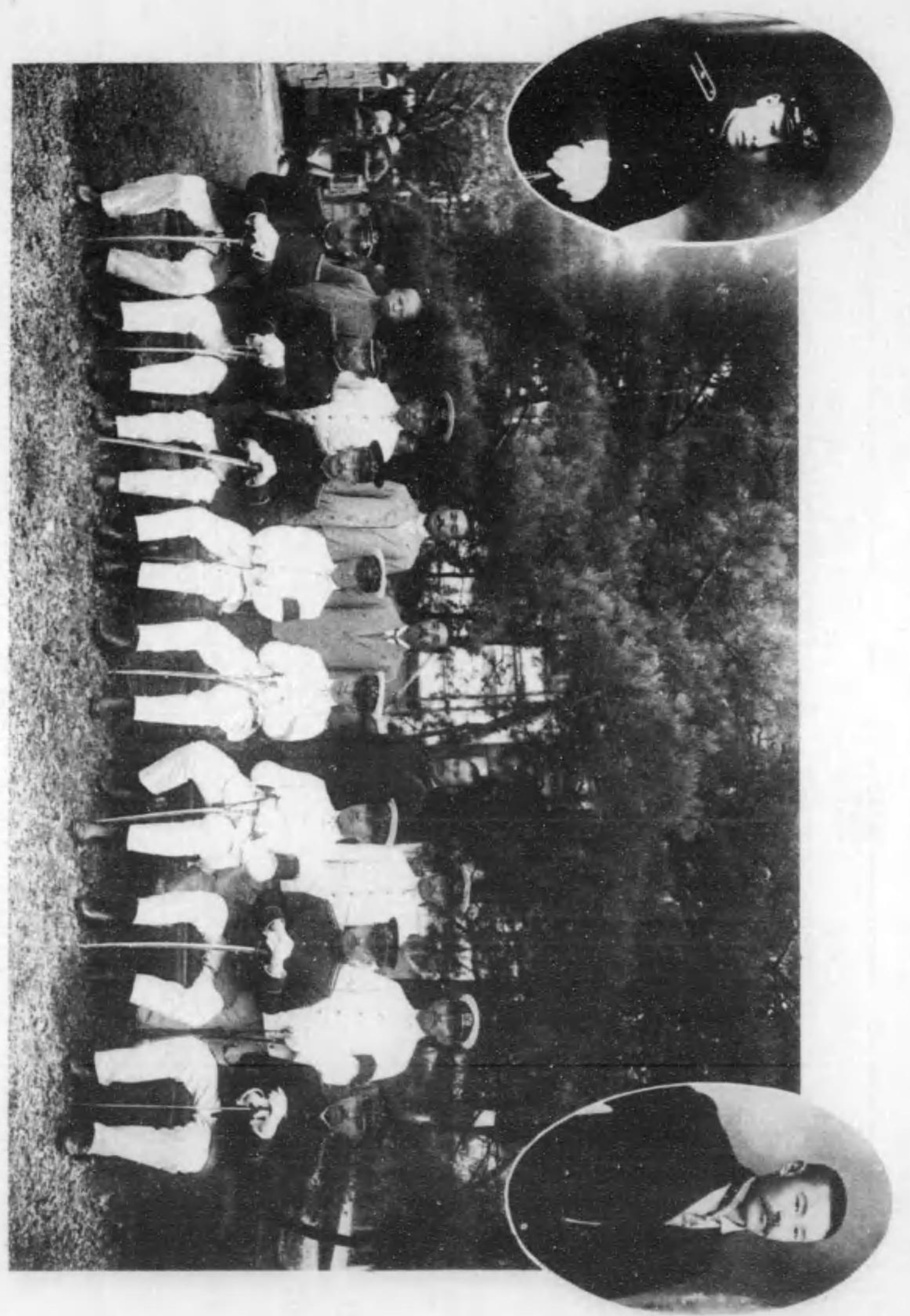
林 給 仕

阿 部 警 部

菅 沼 巡 査

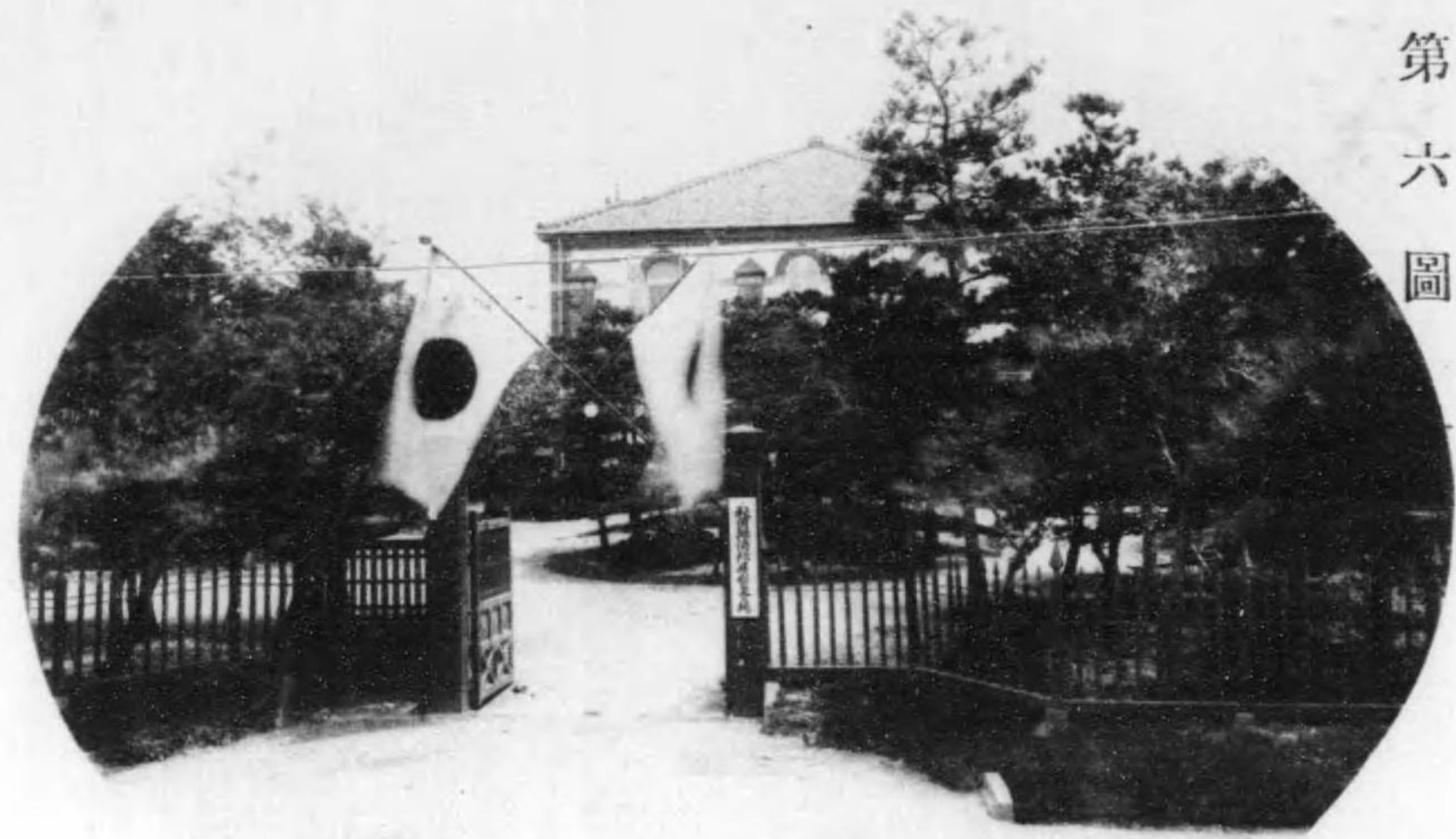
曾 啓 滋 查
 林 啓 井 岡 警 署
 高 謝 滋 查 森 警 署
 木 繁 對 年 對 雜 警 署
 服 乃 對 年 早 警 署
 後 木 警 署 縣 川 上 警 察 署 員
 栗 田 滋 查 警 署 縣 本 警 署
 林 木 警 署 縣 金 原 警 署
 岩 林 警 署
 垣 雜 滋 查 警 署 員

第五圖

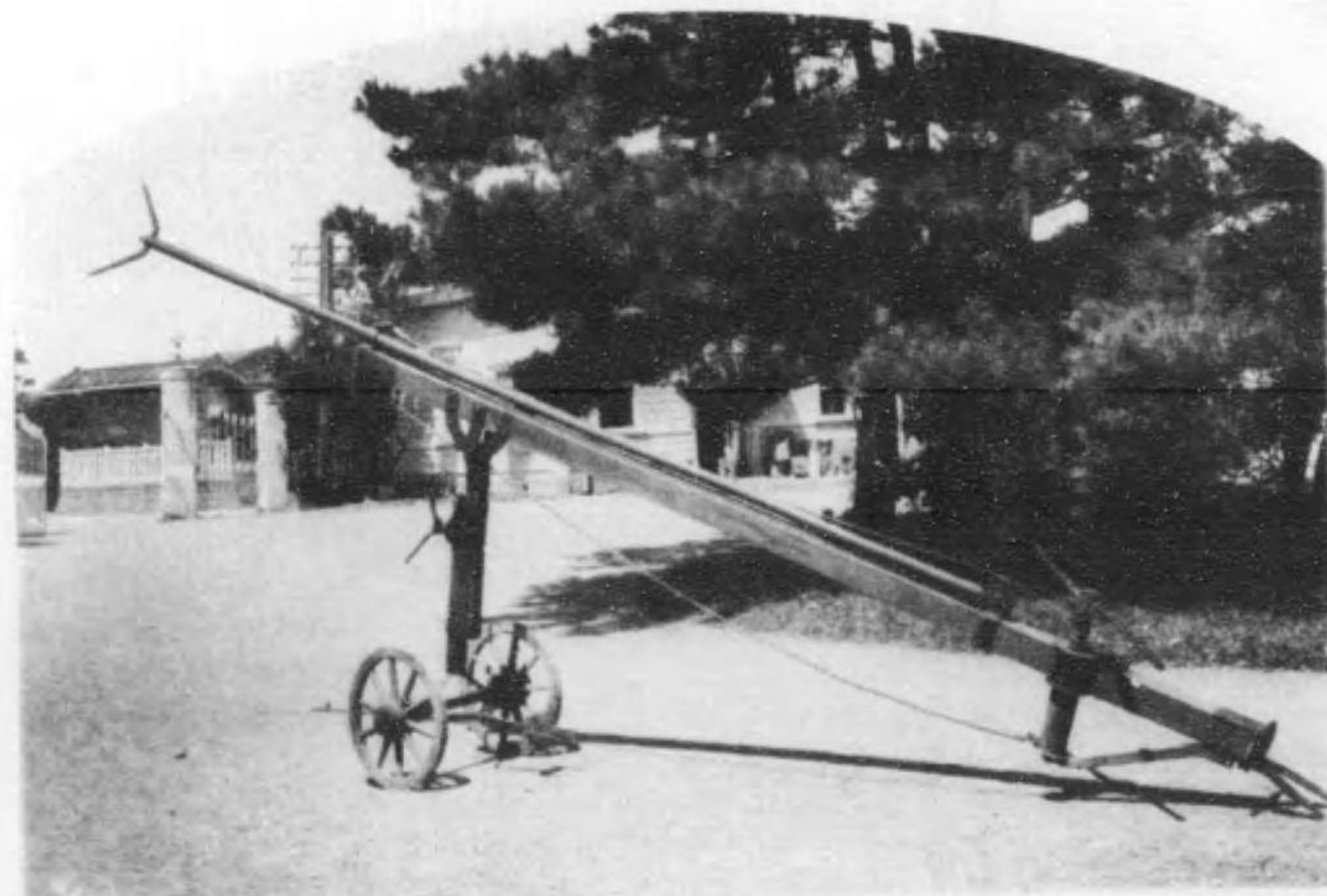


秋田縣消防協會役員及消防展覽會委員

第六圖



秋田縣消防展覽會場



(照參面圖及事記) 三浦式改良刺叉

圖 七 第

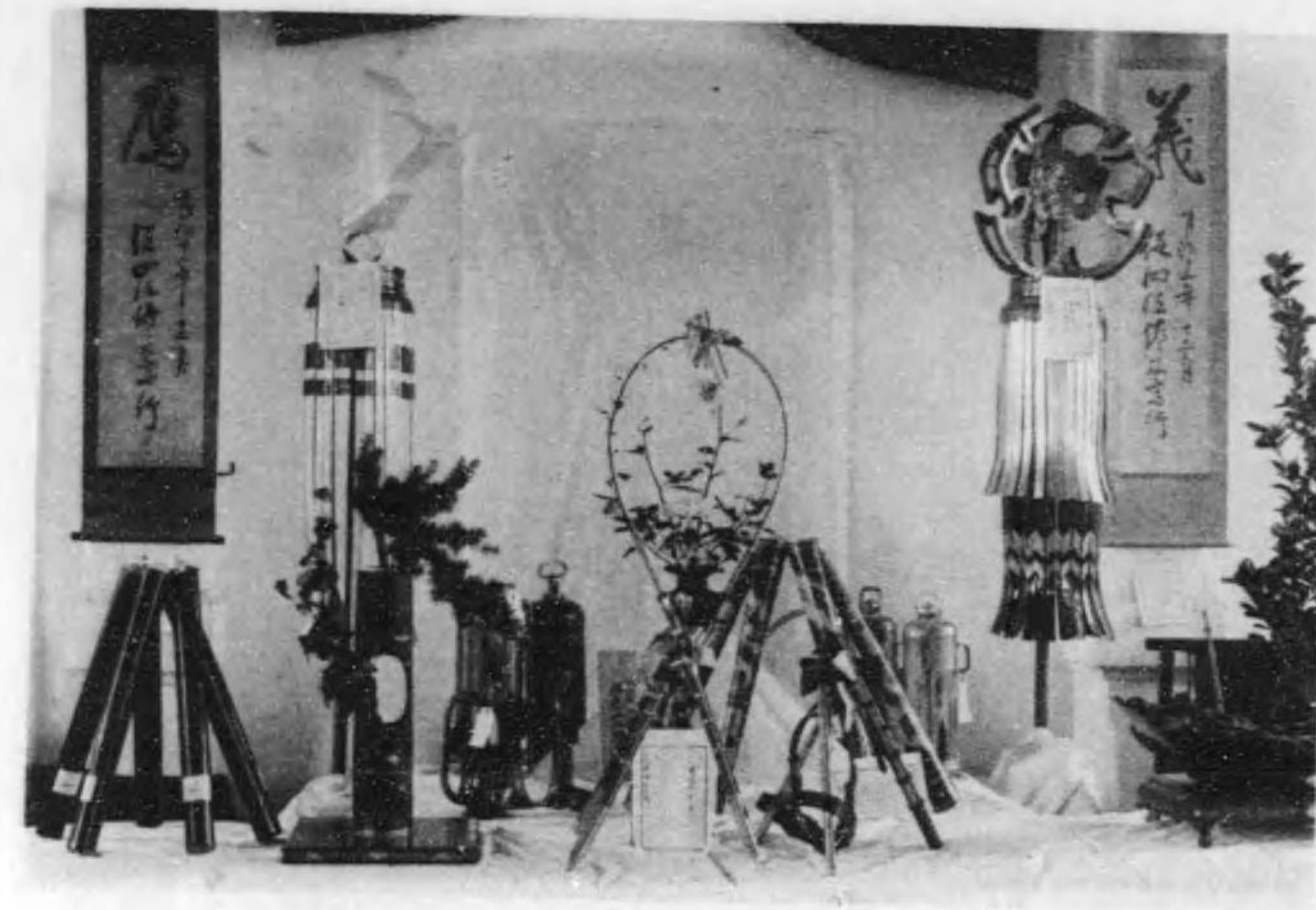


東 裝 事 火 / 前 新 維

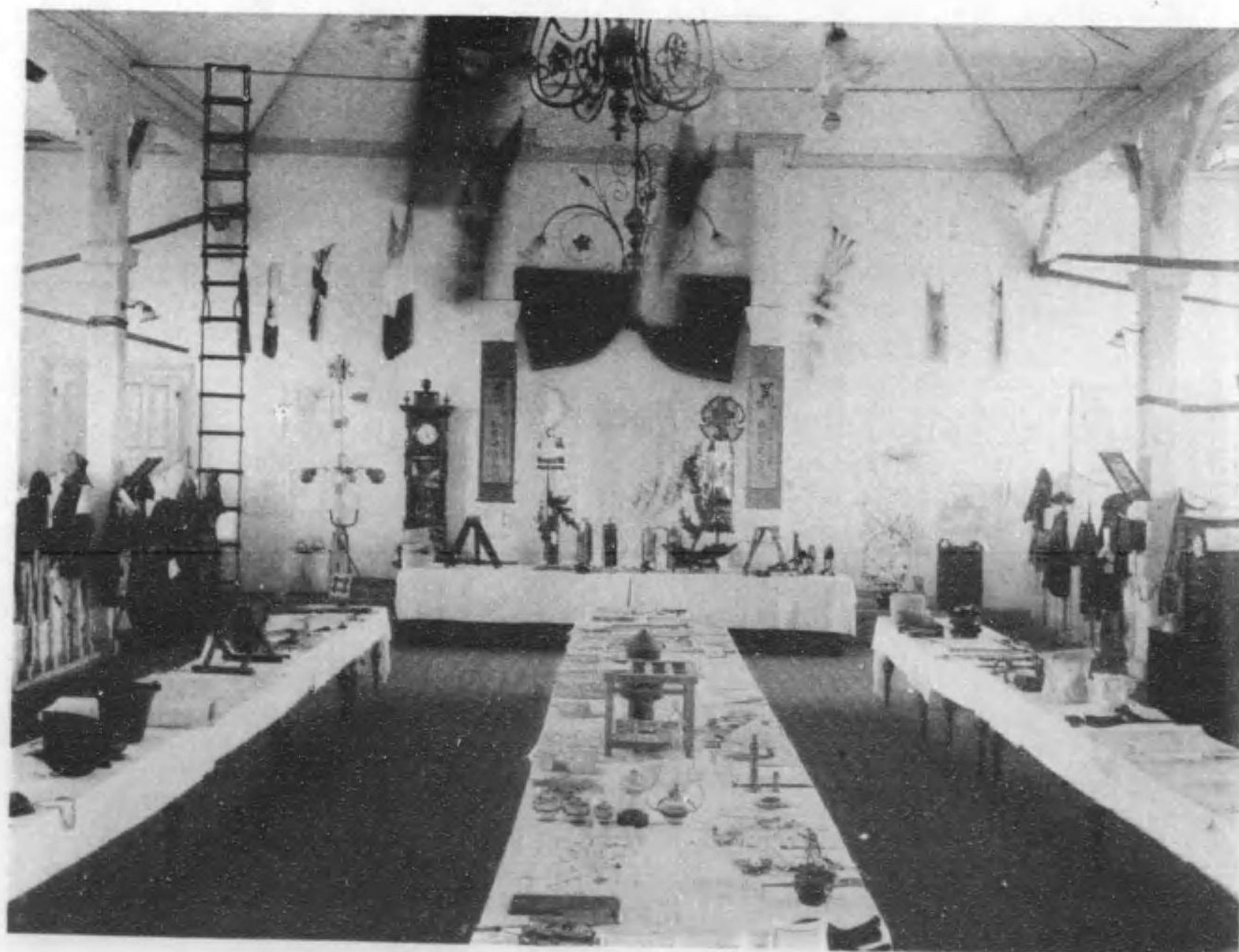


(一 共) 部 內 場 會 覽 展 防 消

第八圖



(照參事記) 物品出ノ他其軸掛器火消經



(二其) 部 內 場 會 覽 展 防 消

第九圖



(持ガ事知縣知愛井松ハ面三額福ノ部上) 品出課生衛
リナノモタレラセ品出ニメ寫ノ會本ニ



(三其) 部内場會覽展防消

第十圖

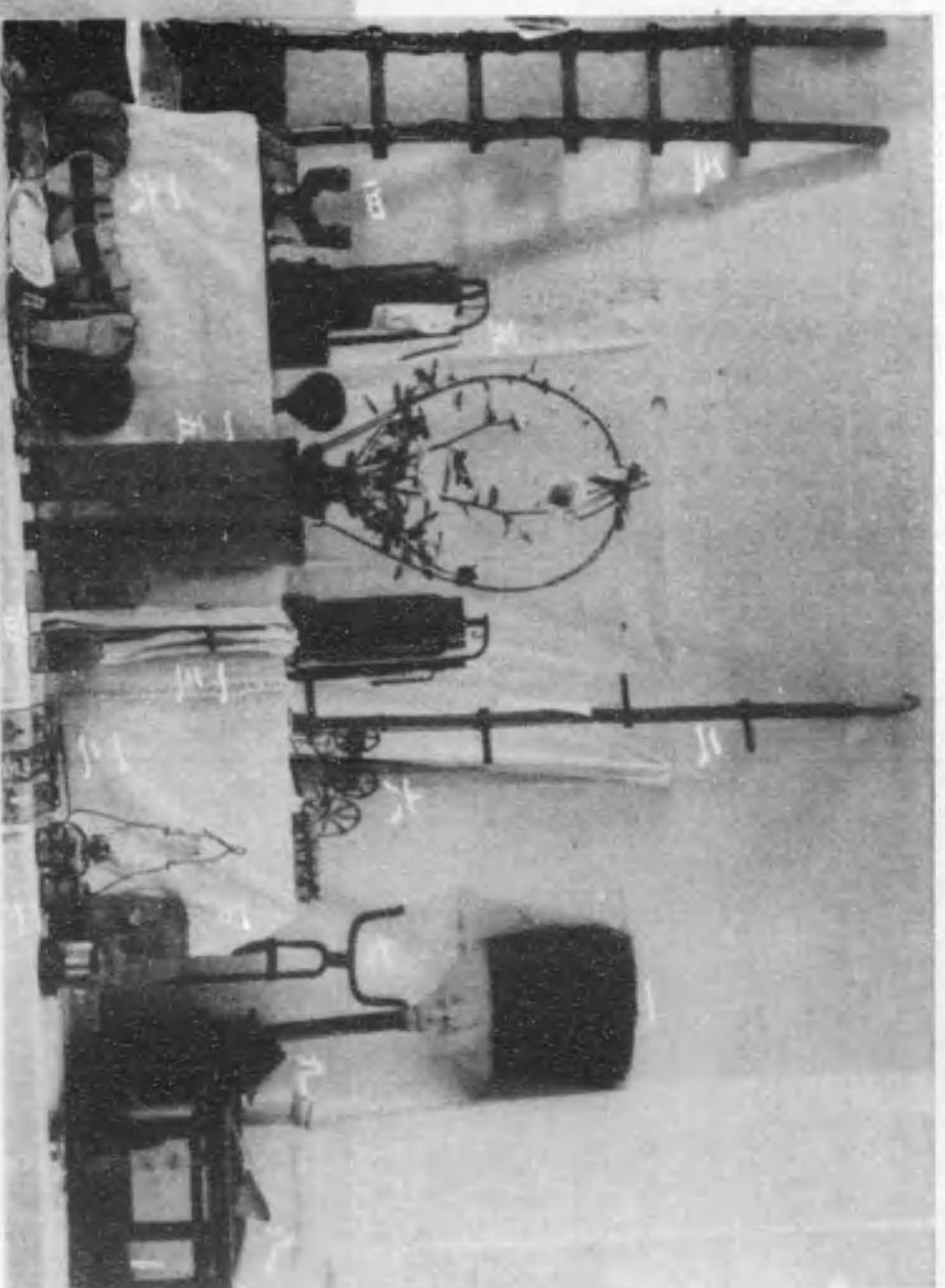


(一其) 品 束 裝 事 火 ノ 前 新 維



(二其) 品 束 裝 事 火 ノ 前 新 維

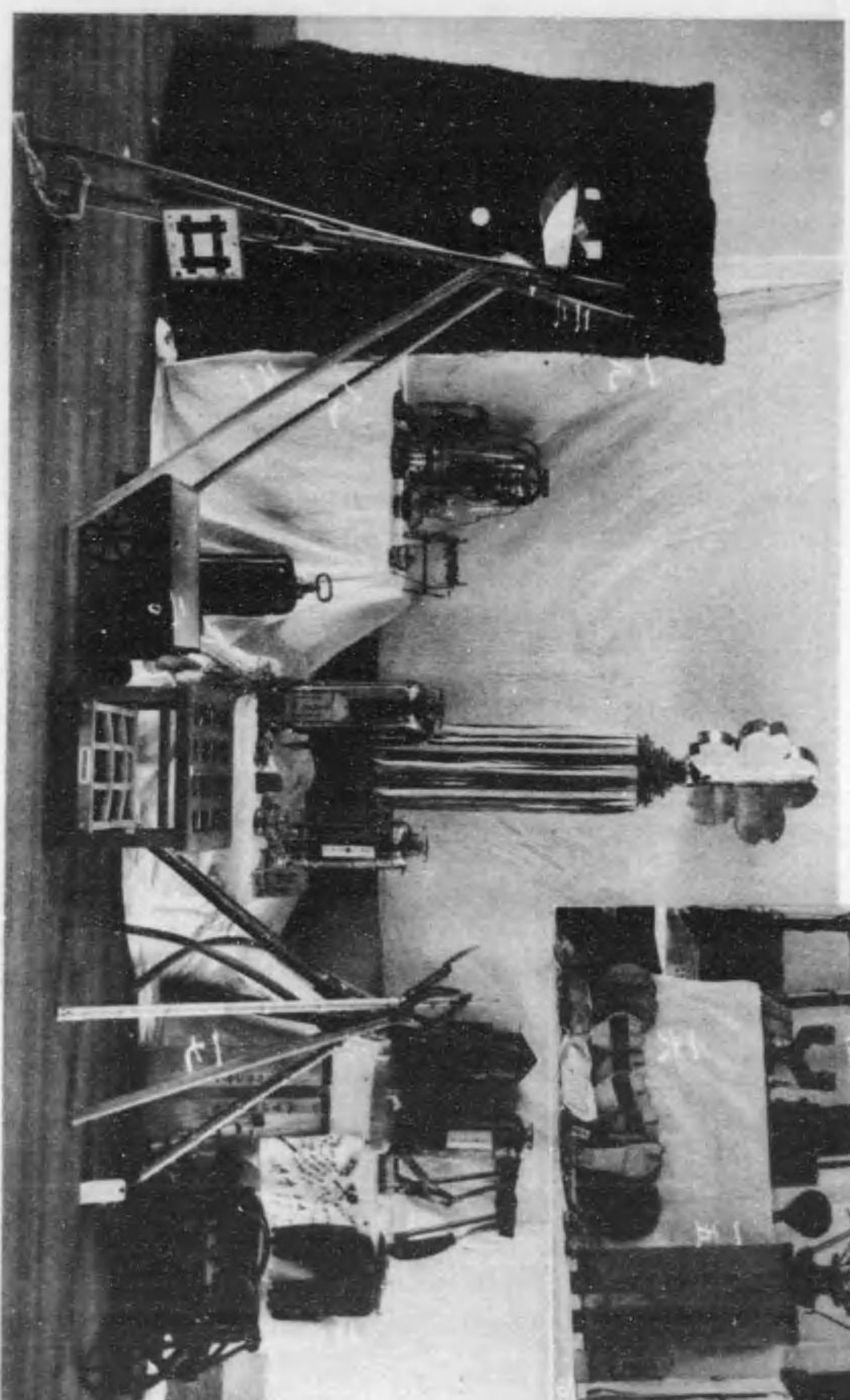
第十一圖



- 一、壓迫消火器
- 二、輕便方梯
- 三、止梯子
- 四、分水管
- 五、消防提燈
- 六、水管車及唧筒用機模型
- 七、輕便割拔
- 八、炬爐安全格子
- 九、煙突煤煙防止器

(一其)他其物品出ル係ニ案考規新

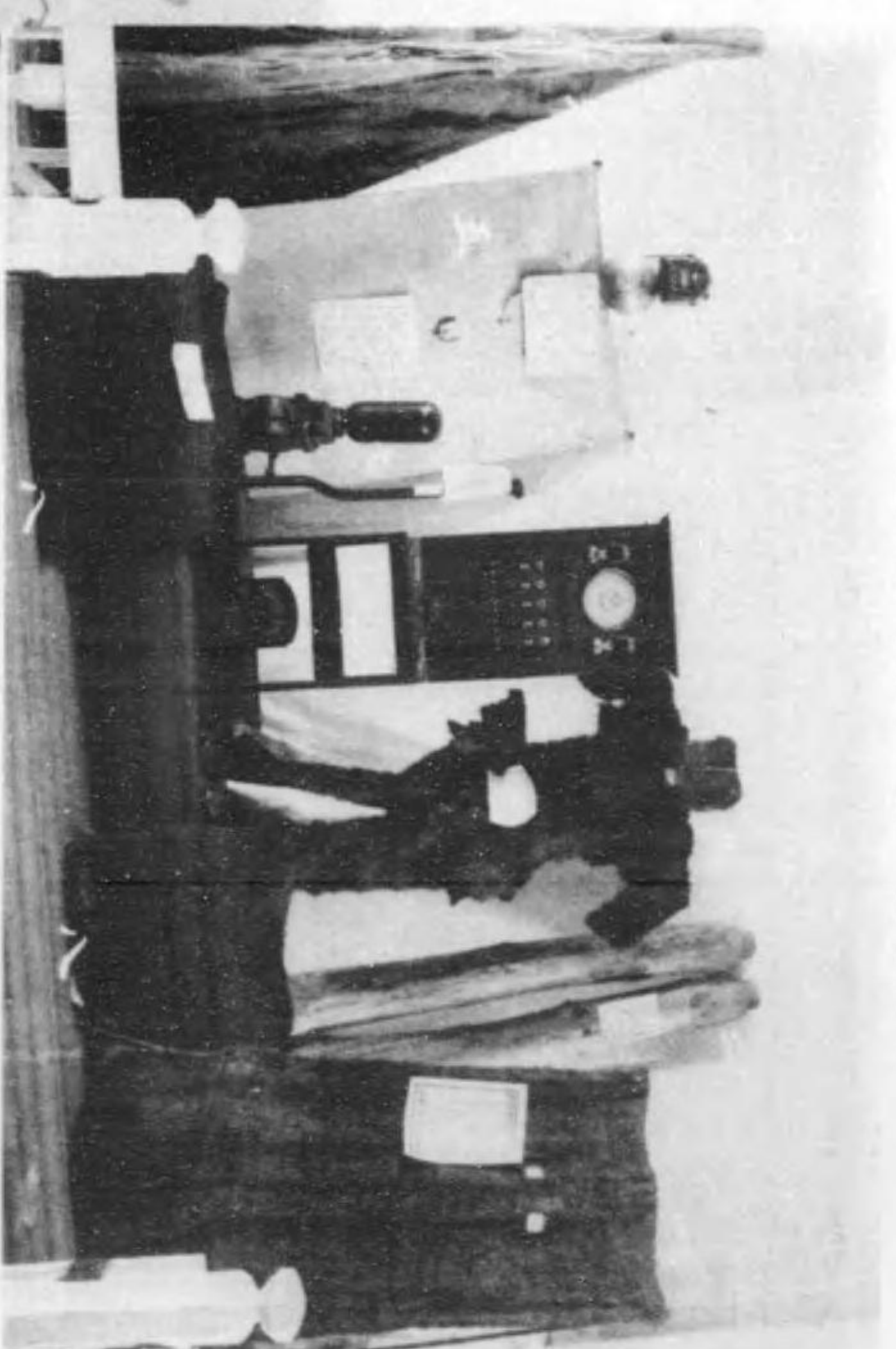
- 一〇、風呂蓋蓋
- 一一、洋燈安全器
- 一二、火防用復燭器
- 一三、應急水管布及水管修繕組其綿
- 一四、新案ベツチ挿入器
- 一五、水管保護器模型
- 一六、消防用輕便應急
- 一七、トタノ屋椽破壞器
- 一八、小山田式唇口消火器
- 一九、越中各式防火扇
- 二〇、貯水樽車模型
- 二一、要心鐘
- 二二、改裏唇口
- 二三、防護手套



(二其)他其物品出ル係ニ案考規新

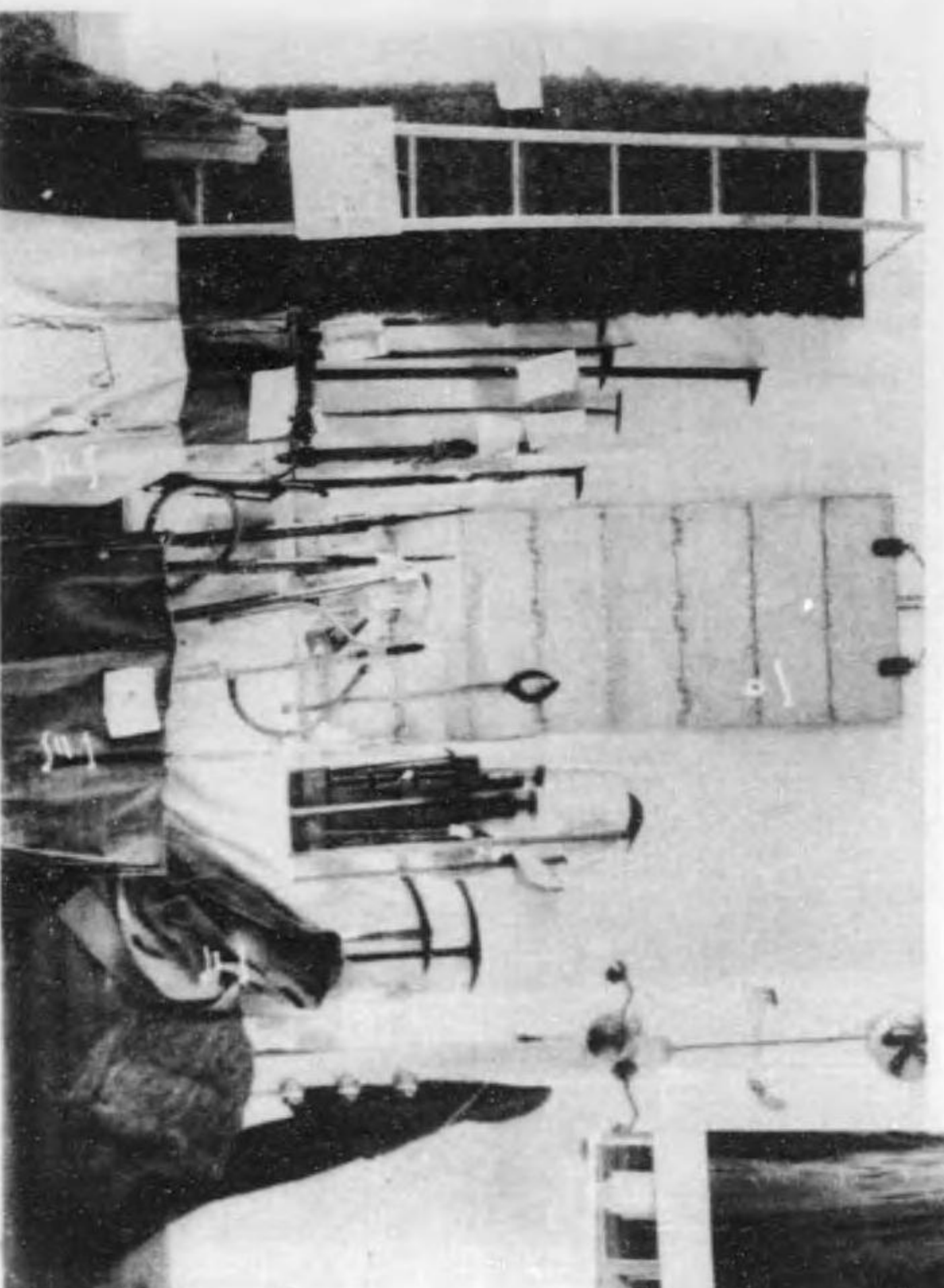
第十二圖

(三其) 他其物品出ル係ニ案考規新



- 一、越中谷式防火扉
- 二、水道木管
- 三、編藻着衣
- 四、非常報知機
- 五、防火楯
- 六、筒先係防火器
- 七、鼻進唧筒
- 八、防火編藻

- 九、火災方向信號機
- 一〇、防火籠
- 一一、大正式梯子
- 一二、水運兼救助囊
- 一三、水止ズツク



(四其) 他其物品出ル係ニ案考規新

第十三圖



(一其)類書ルニ關スル消防



(二其)類書ルニ關スル消防

- 一、明和四年大火記録
- 二、佐竹藩御火消御合印御本圖帳
- 三、寛延廿四年御火消方御用留書
- 四、文化年間ヨリ安政年間ニ至ル火消方記録

- 五、天保三年火消方御用文字拜借願書控
- 六、明治廿四年川連消防組消防規約
- 七、明治廿六年大館消防組消防規約

第十四圖



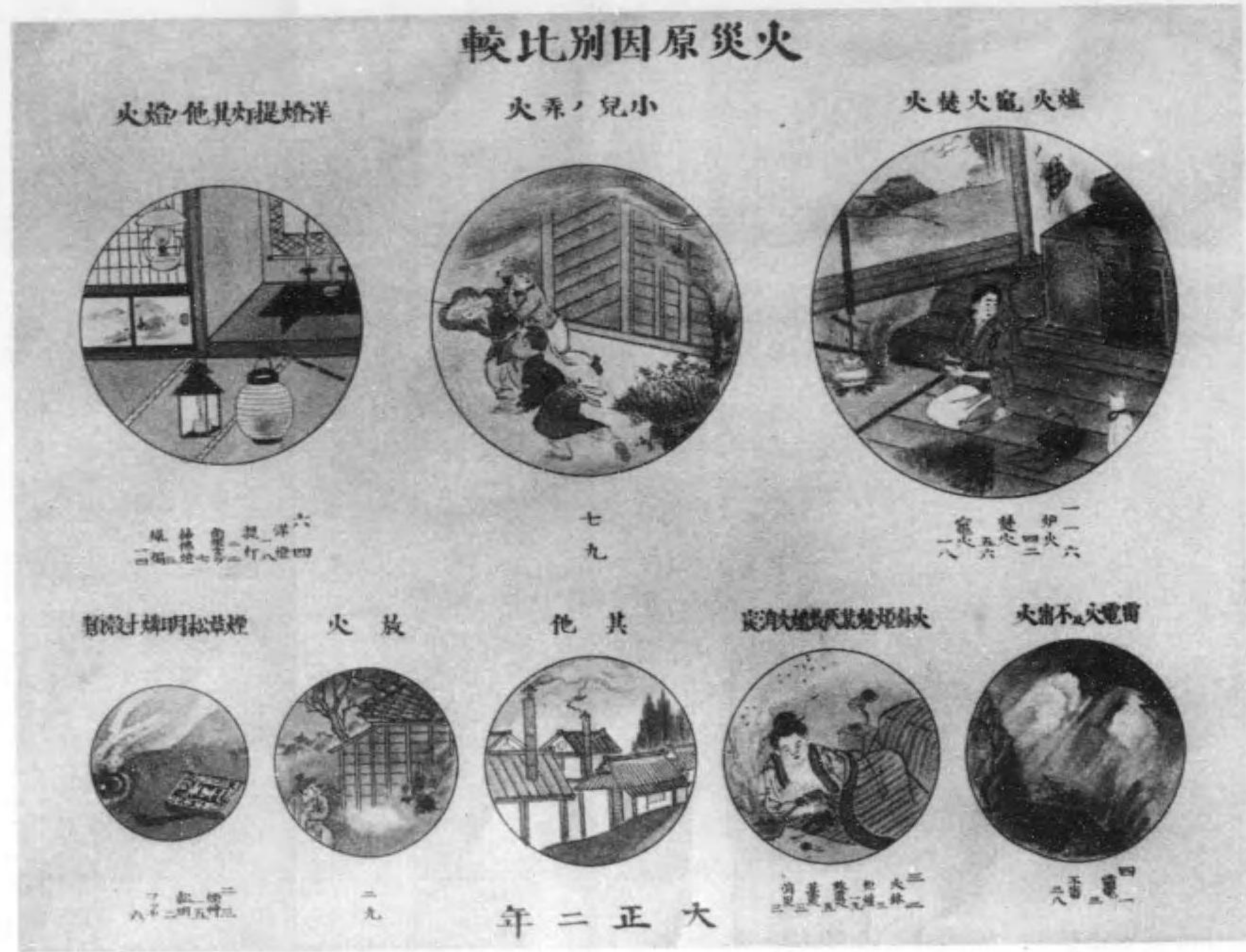
物品出會護救難遭崎土及筒唧



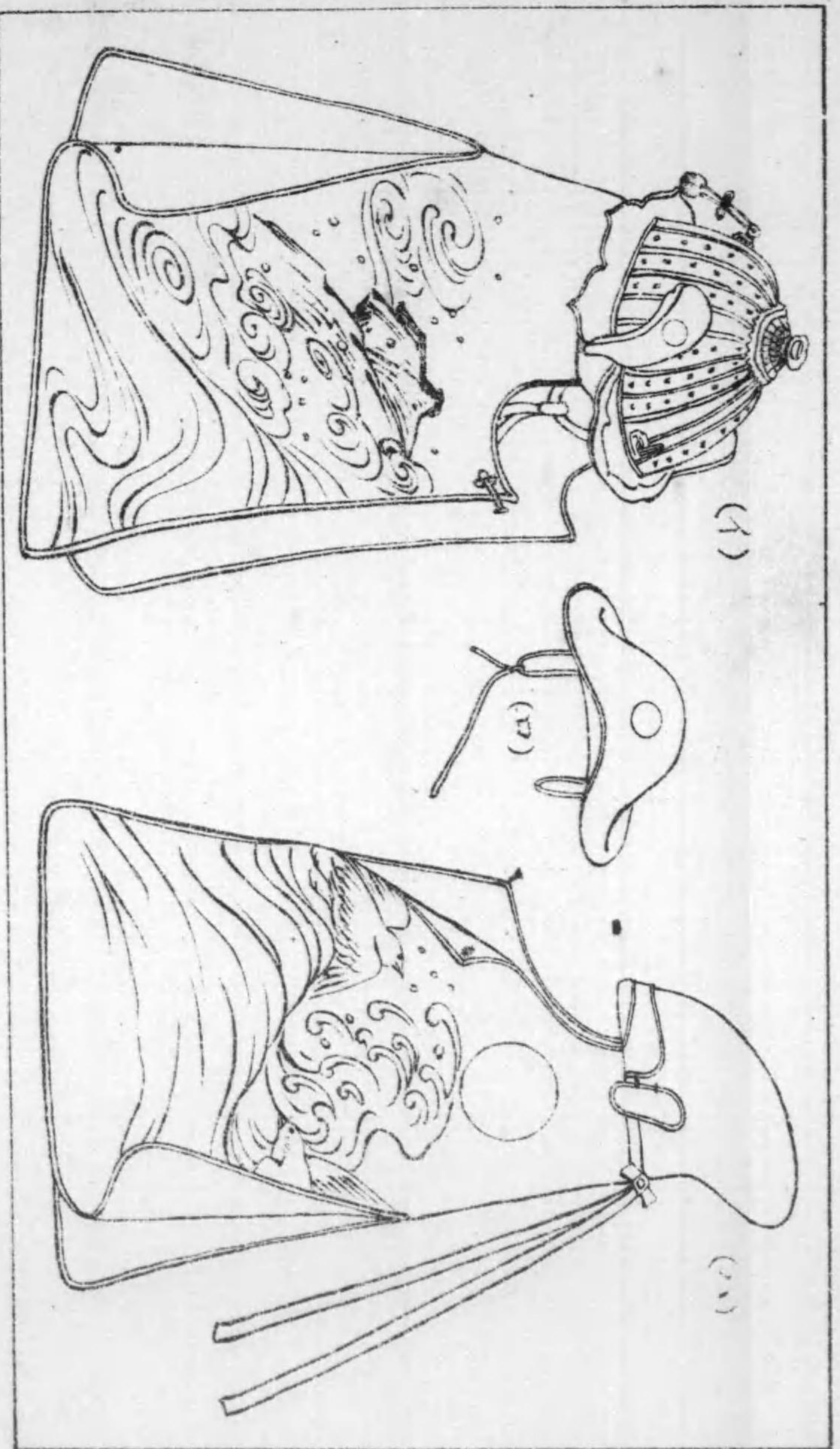
ニ前堂會公日當議會頭々組防消縣田秋
景ノ氷放筒唧汽蒸附備署察警田秋ルケ於

圖 五 十 第

較 比 別 因 原 災 火

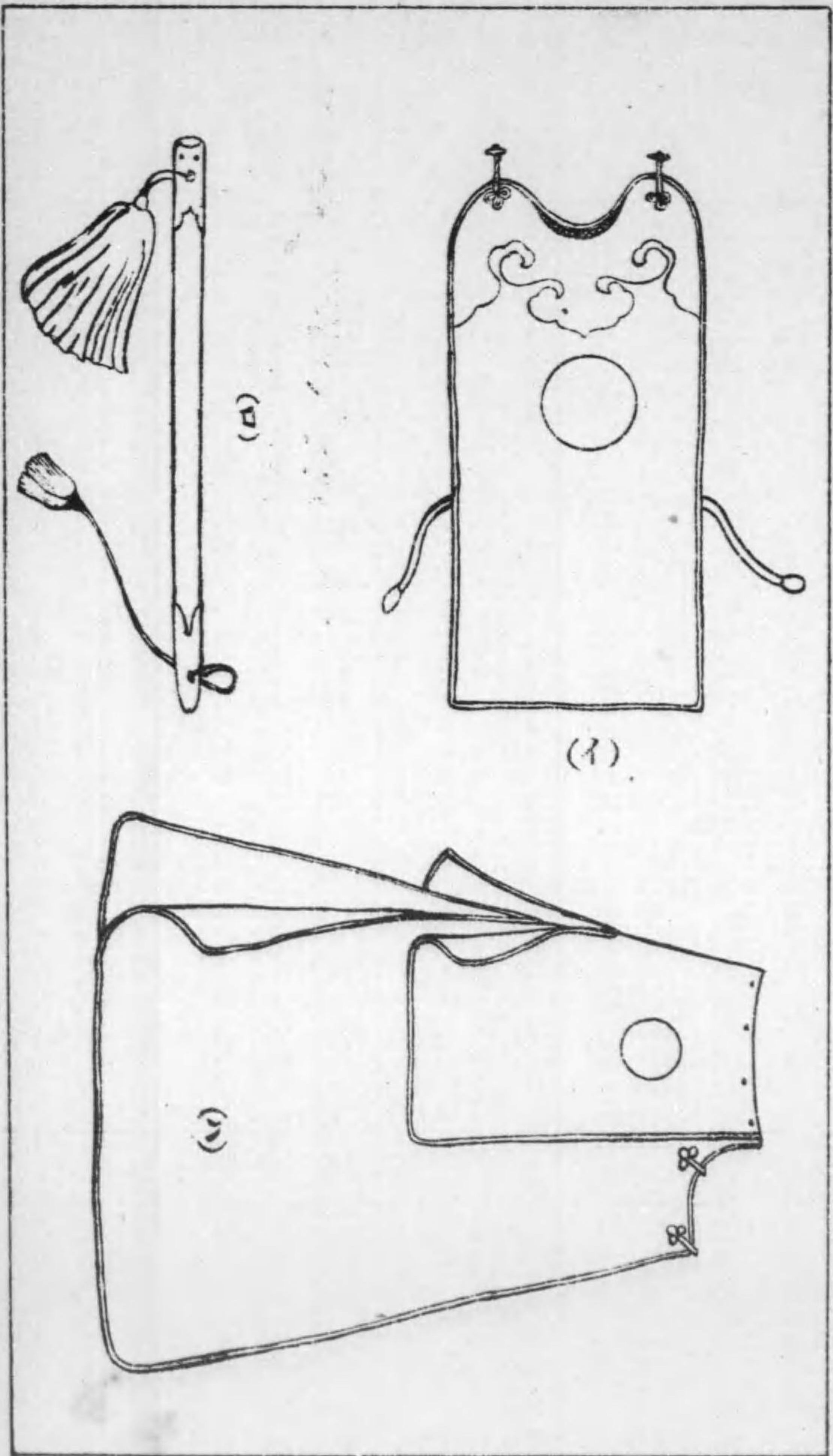


本表ハ一年間ノ火災數ヲ原因別トシ繪圖ヲ以テ
 説明シタルモノニシテ圖ノ大小ニヨリ其ノ多寡
 ヲ示シタリ此ノ圖ニ依リ見ルニ本縣ニ於テハ爐
 火、竈火焚火ニ基ク火災最モ多ク煙草、松明、燐
 寸燭類ニ基ク 火災最モ少シ



第十六圖

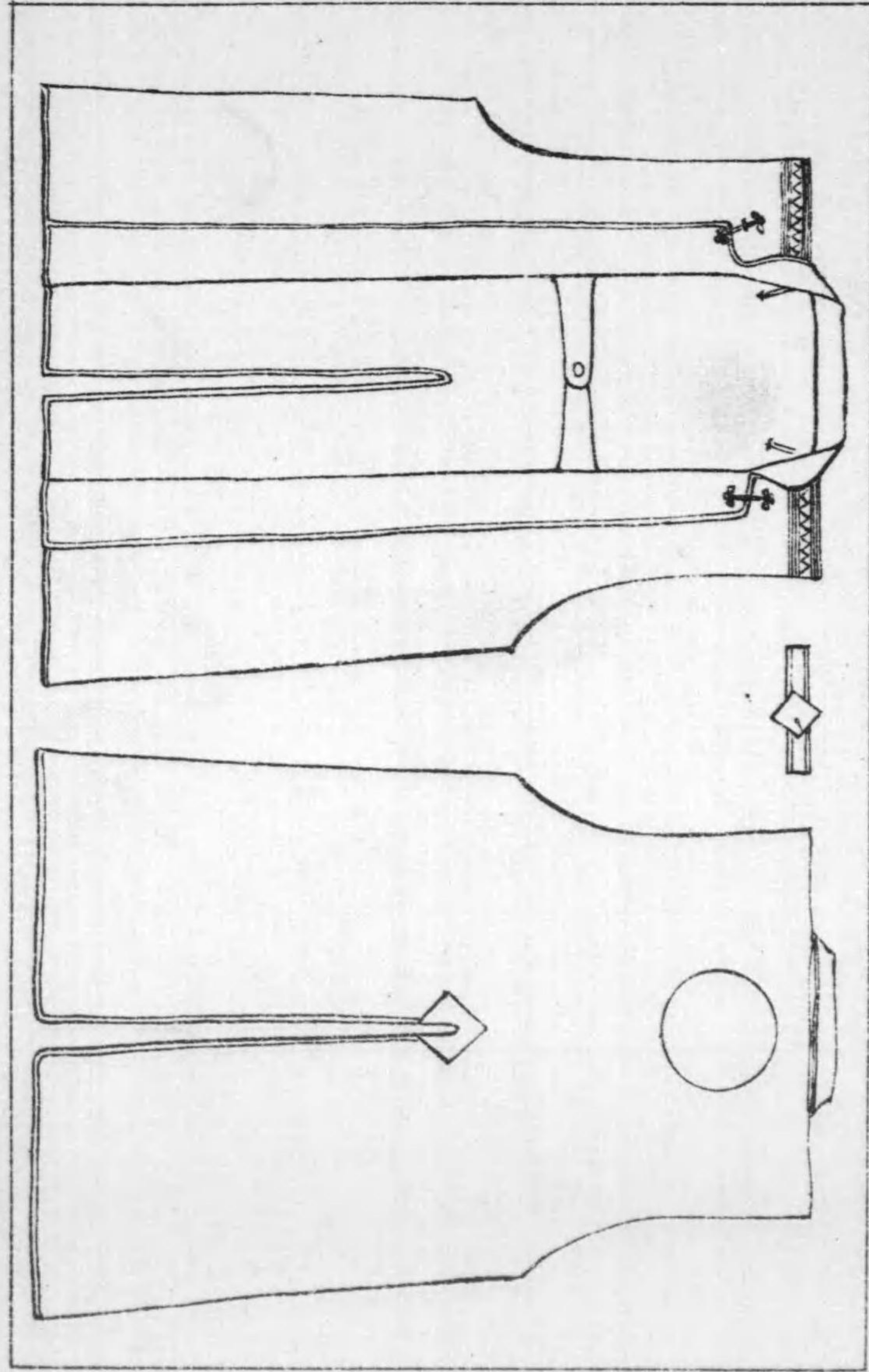
第十七圖



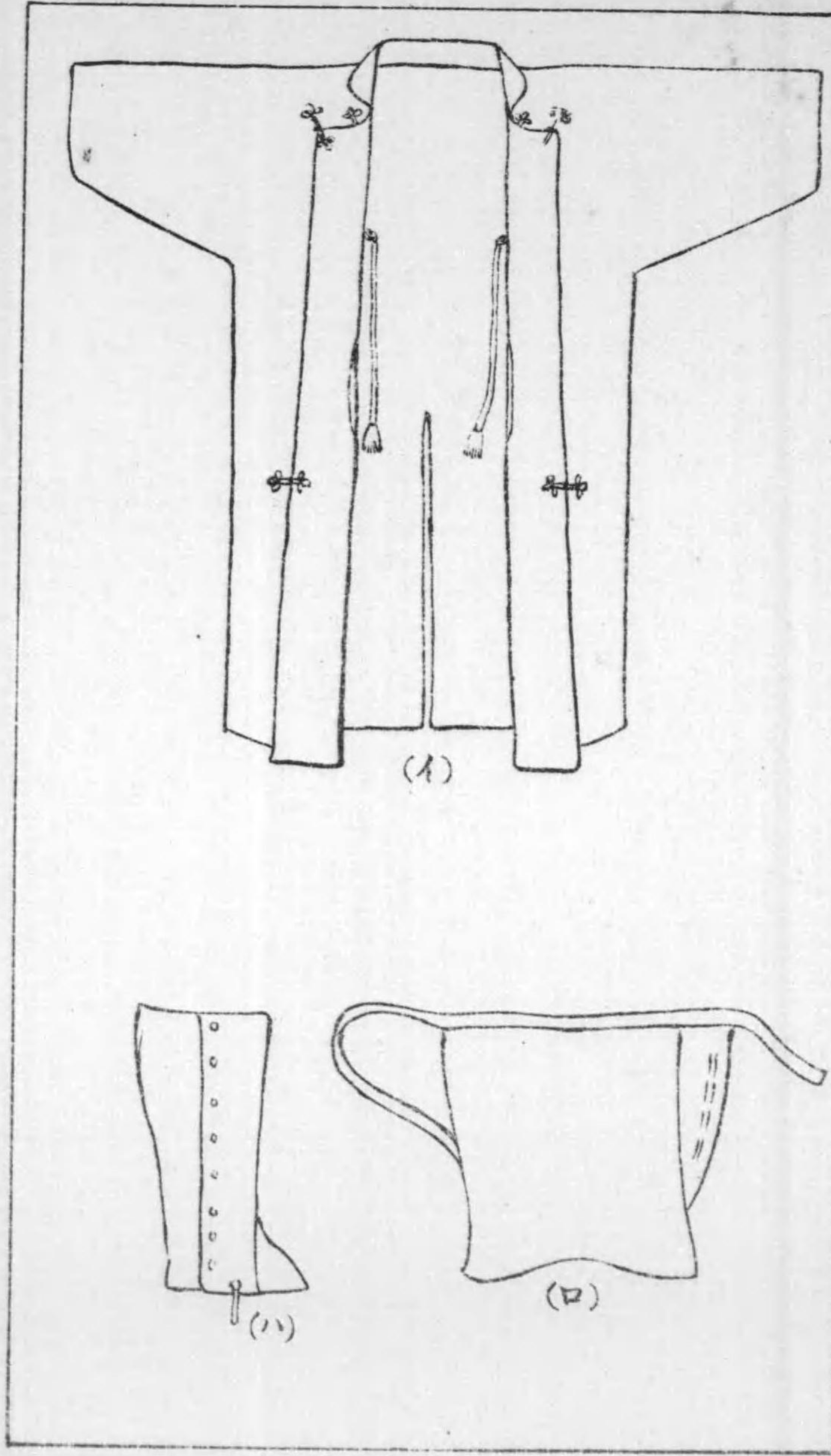
本圖ニ示セルハ舊幕時代ニ於テ火災ニ當リ着用セラレタルモノニシテ
 (イ)(ロ)ハ男子用(ハ)ハ婦人用ナリ
 (イ)ノ冑ハ活動ヲ便ナラシメンカ爲紙ヲ以テ製シ漆ヲ塗り其ノ上ヲ極
 メテ薄スキ金屬板ニテ張り種々ノ裝飾ヲ施シ正面ニハ大概取外シ自由
 ナル紋章ヲ付シアリ此冑ニハ圖ノ如キ廻シ様ノモノヲ垂レアリテ之モ
 取外シ自由ナリ其色合ハ赤、黒、青其他種々ナルガ其上ニ金糸、銀糸等ヲ
 以テ刺繡ヲ施シアリテ極テ美麗ナリ又裏ハ多ク無地ノ甲斐絹ヲ張レリ
 (ロ)ハ陣笠ニシテ矢張紙製漆塗りナリ紋ハ金蒔繪多ク廻シ様ノモノヲ
 垂レ得ル構造ナリ
 (ハ)ノ冑ハ紙製多キモ皮製ノモノモ少カラズ塗ニハ澁又ハ漆ヲ用ヒ廻
 様ノモノハ(イ)ト異ナラザルモ色合ハ概ネ赤、青、黄ニシテ華美ナルモ
 ノ多シ

第二圖ハ第一圖ニ附屬スルモノニシテ(イ)ハ第一圖ノ冑ヲ着用シタル者ガ着クル前垂ニシテ羅紗又ハ絹ニテ製セラレ其色合裝飾模様等ハ種々ナルガ縫模様切張模様多キガ如シ
 (ロ)ハ消防指揮者ガ指揮用トシテ用ヒタル采配ナリ
 (ハ)ハ冑ニ垂レタル廻ノ一種ニシテ重トナリ居リ上下互ニ色合模様ヲ異ニセリ

第十八圖



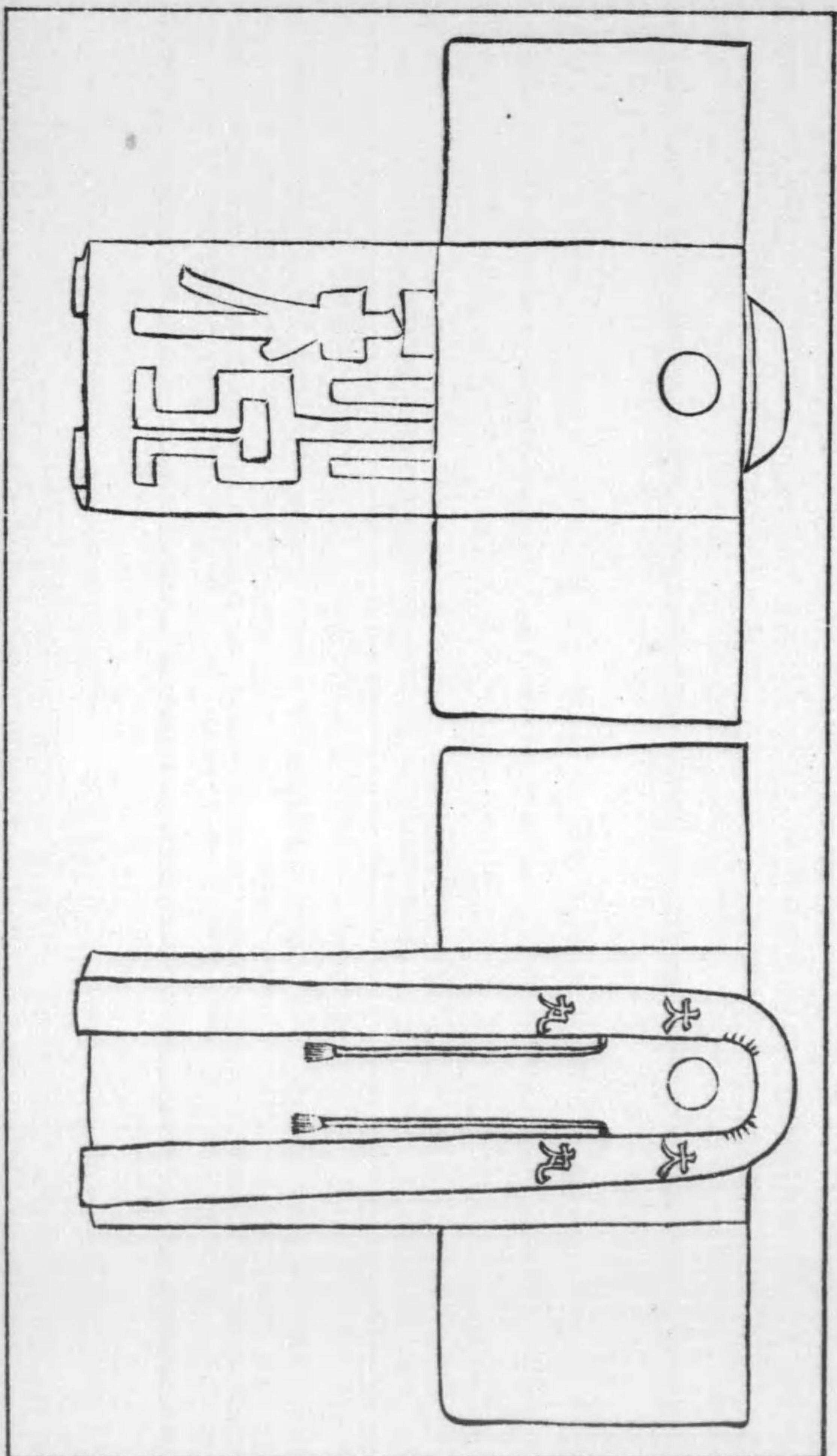
第十九圖



第三圖火事場用陣羽織第一圖ノ冑ヲ着用シタル者カ用フル陣羽織ニシ
テ羅紗ニテ作ラレ裝飾ノ模様ナク背後ニ地ト異ナル色ノ紋ヲ張り付
ケタルノミ然レトモ裏ハ高價ナル無地又ハ模様織ノ絹ニテ張りアリ而
シテ階級ヲ明カニセンカ爲肩章ヲ附シタリ

第四圖中(イ)ハ火事羽織ナルガ筒袖無紋ニシテ且ツ仕立方甚ダ粗末ナ
 レバ足輕其他ノ卑職ノモノ、用ヒシ所ナリ
 (ロ)ハ脚伴ニシテ絹製ナリ
 (ハ)ハ木綿又ハ織物等ニテ製シ「ゲートル」ト異ナラサルモわらじヲ穿
 キタル際ニモ使用シ得ラル、様作リアリ此分ハ維新前後ニ使用セラレ
 タルカ如シ

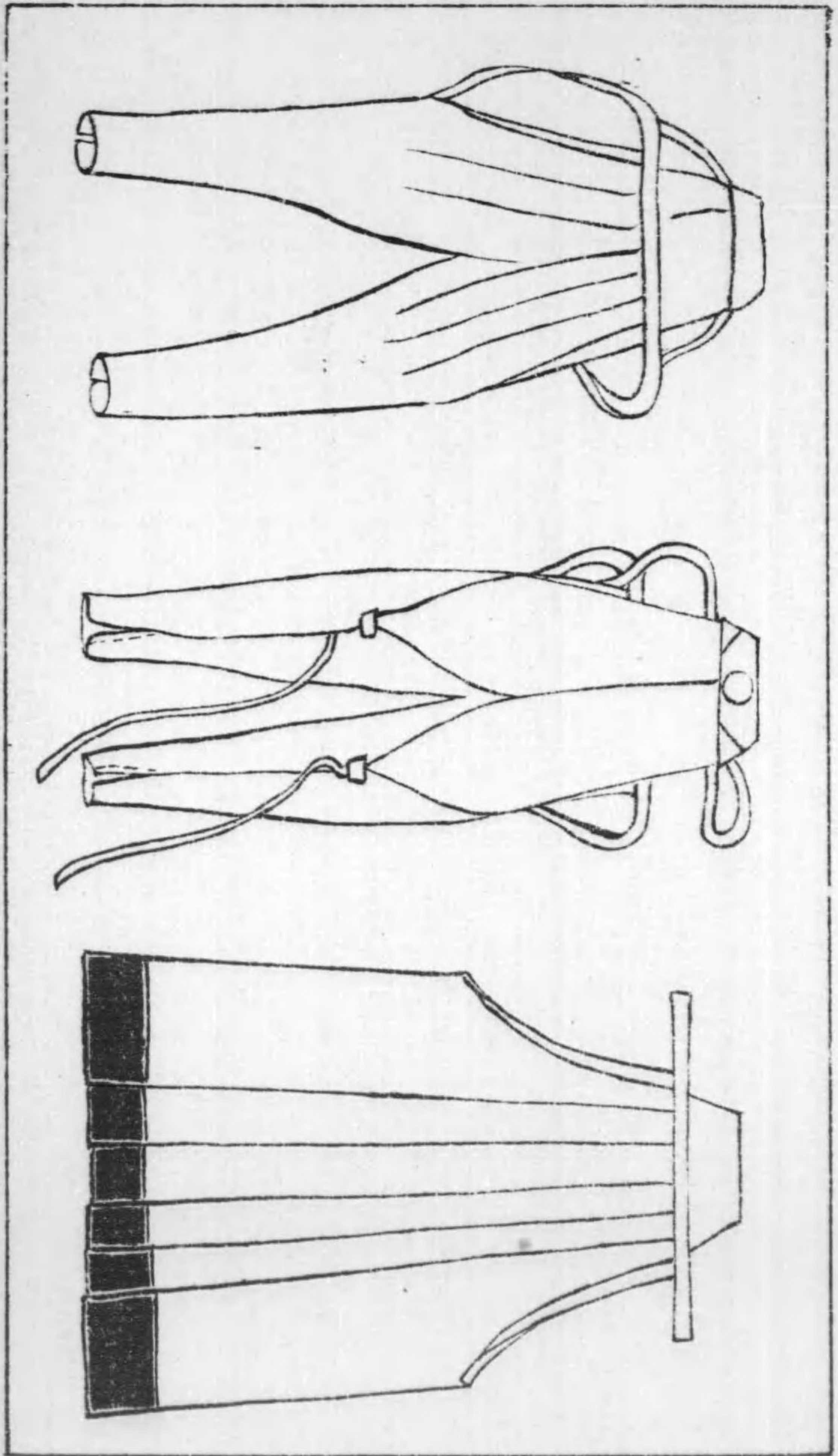
第二十圖



第五圖

此羽織ハ舊幕時代江戸ニ於テ爲ノ者ト稱スル火消組ノ下級者ガ火災現
場ニテ着用シタルモノニシテ厚キ揉皮ヲ以テ製シ裏ニ紋章表ニ組印表
裾ニハ角字模様襟ニハ所屬ノ組名ヲ現シアリ

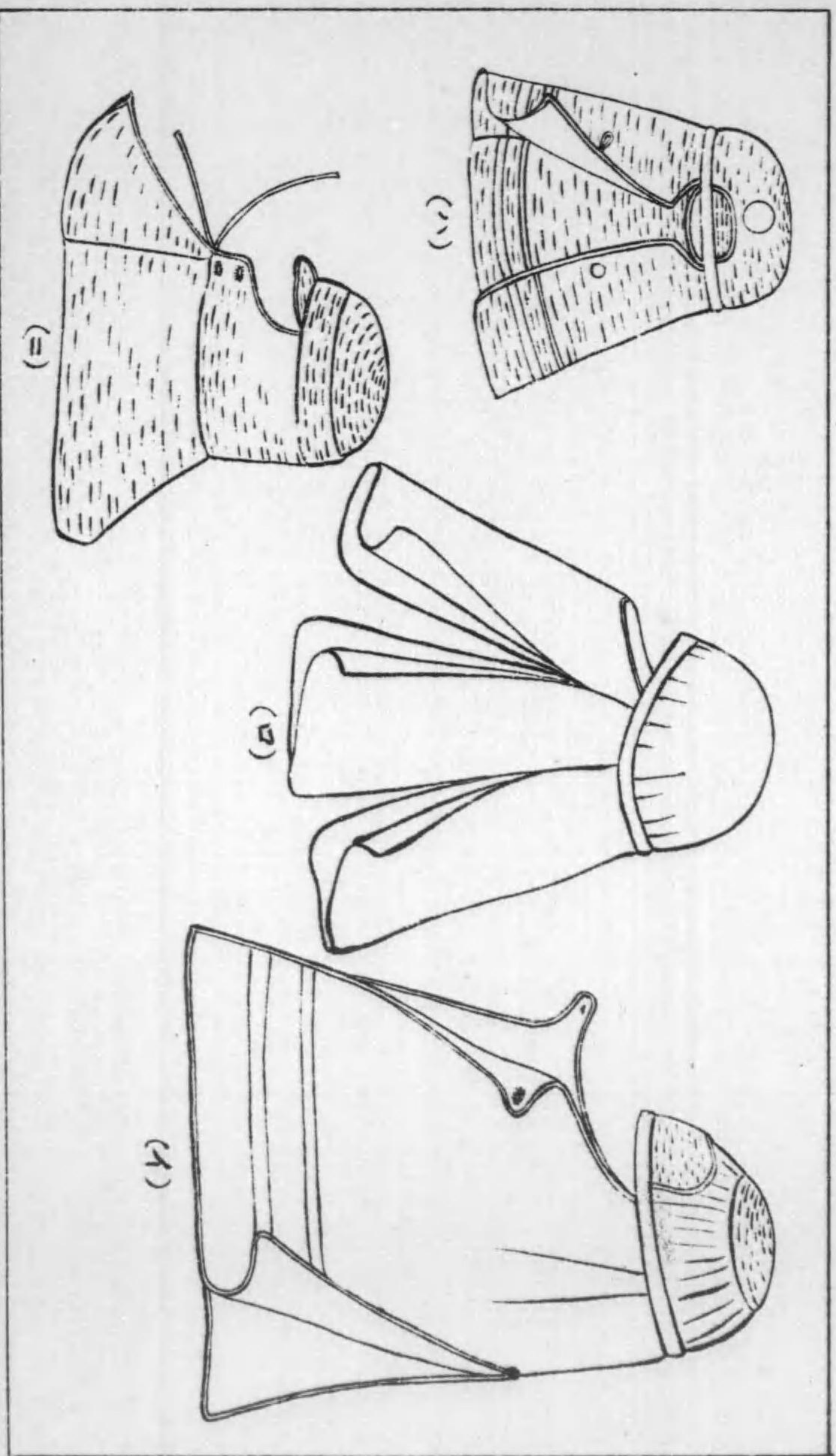
第二十一圖



第六圖

本圖中(イ)ハ第一圖ニ示セルモノニ附屬シタル袴ニシテ絹ニテ製シ其
裾ニハ黒布ヲ附セリ
(ロ)ハ第七圖皮羽織ニ附屬シタル皮製ノ袴ニシテ裾ハ足根ニ於テ爪ニ
テ閉テ膝廻ニ於テ紐ニテ占ムル仕立トナリ居リ又之ニ附屬シタル足袋
モアルガ圖ニ略セリ

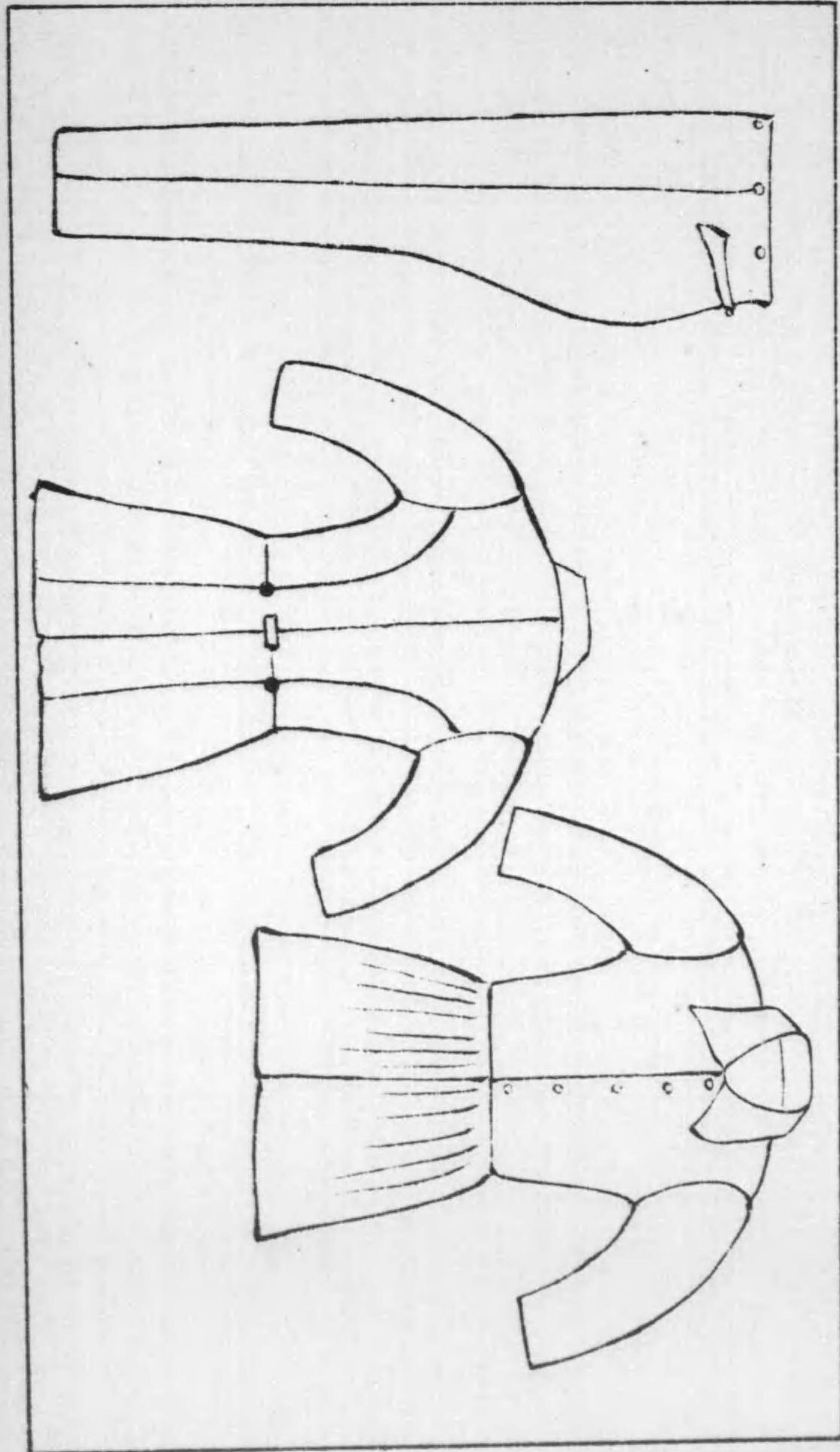
第二十二圖

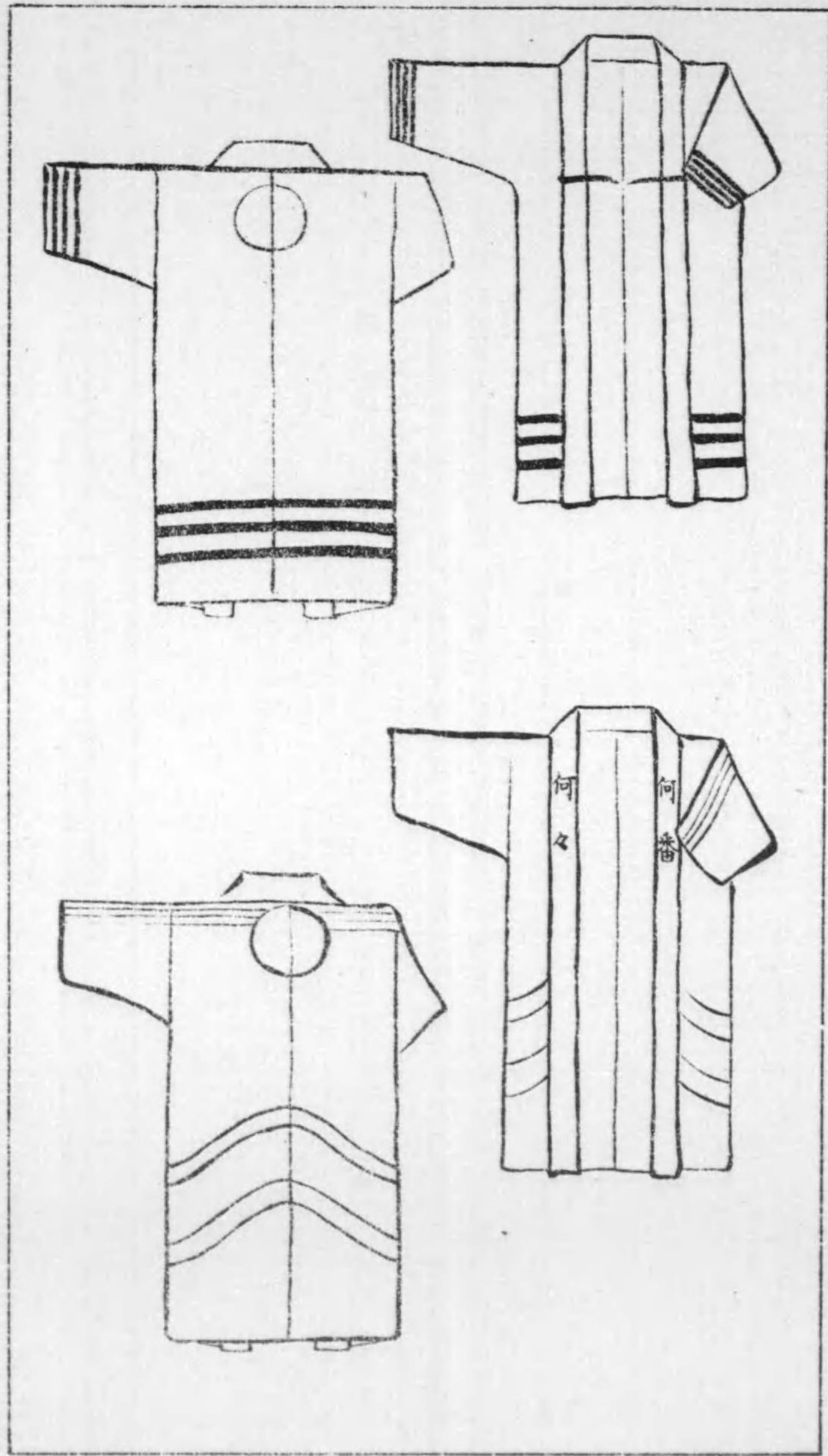


第七圖

此圖ニ示セルハ明治九年頃ニ消防ニ從事セルモノガ着用シタル帽子ニ
シテ(イ)ハ絹、木綿、麻又ハ木綿刺子ニテ製作シ(ロ)ハ麻、木綿又ハ皮ニ
テ製セラレ(ハ)(ニ)ハ概ネ木綿刺子ニテ作ラル但シ(イ)(ロ)ハ維新前
ニモ使用セラレタルガ如シ

第二十三圖





第二十四圖

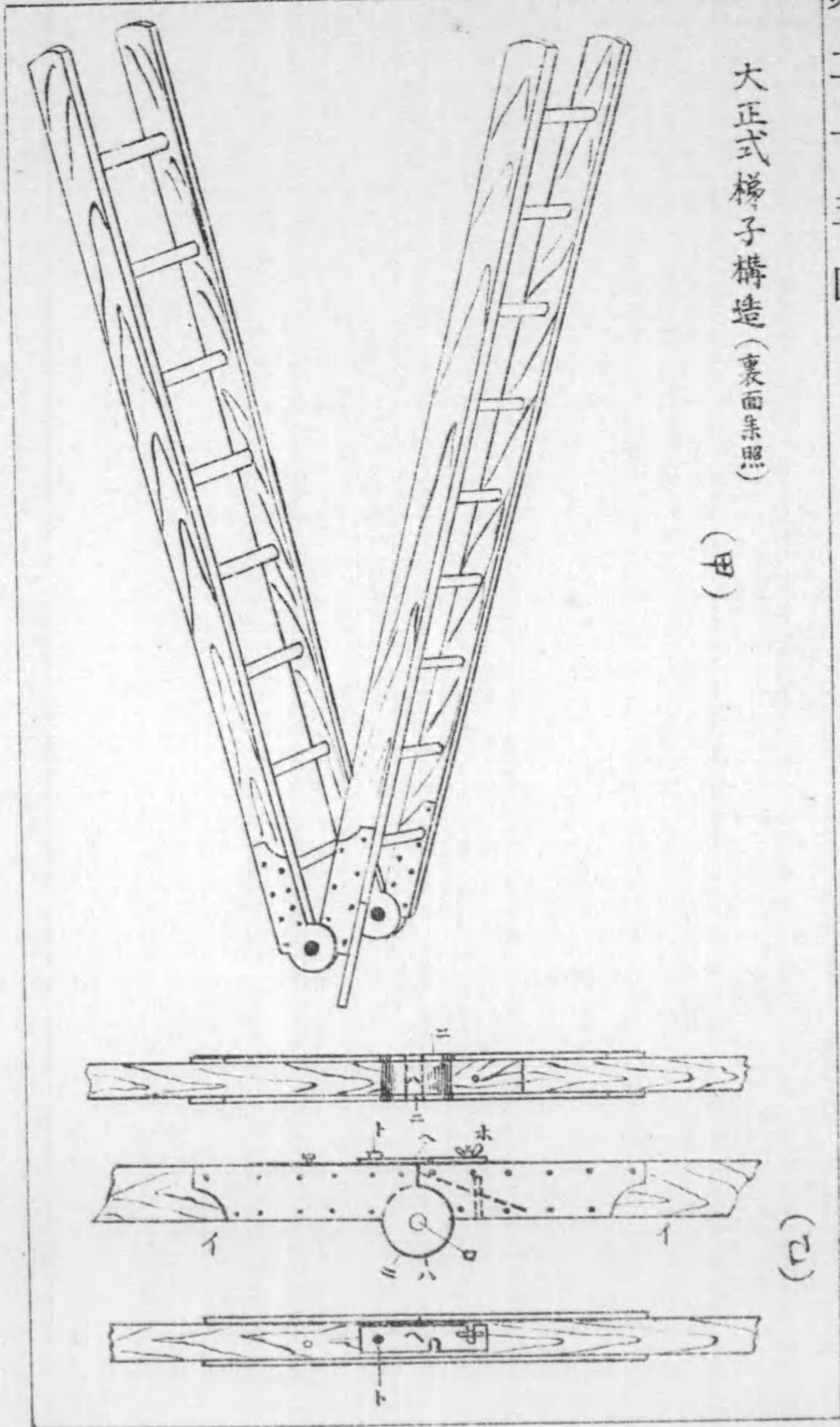
第八圖

本圖是ハ明治九年頃矢島地方ニ於テ消防組頭ノ職ニアリシモノガ使
用シタル消防服ニシテさらさら木綿等ヲ用ヒ製シタリ

第二十五圖

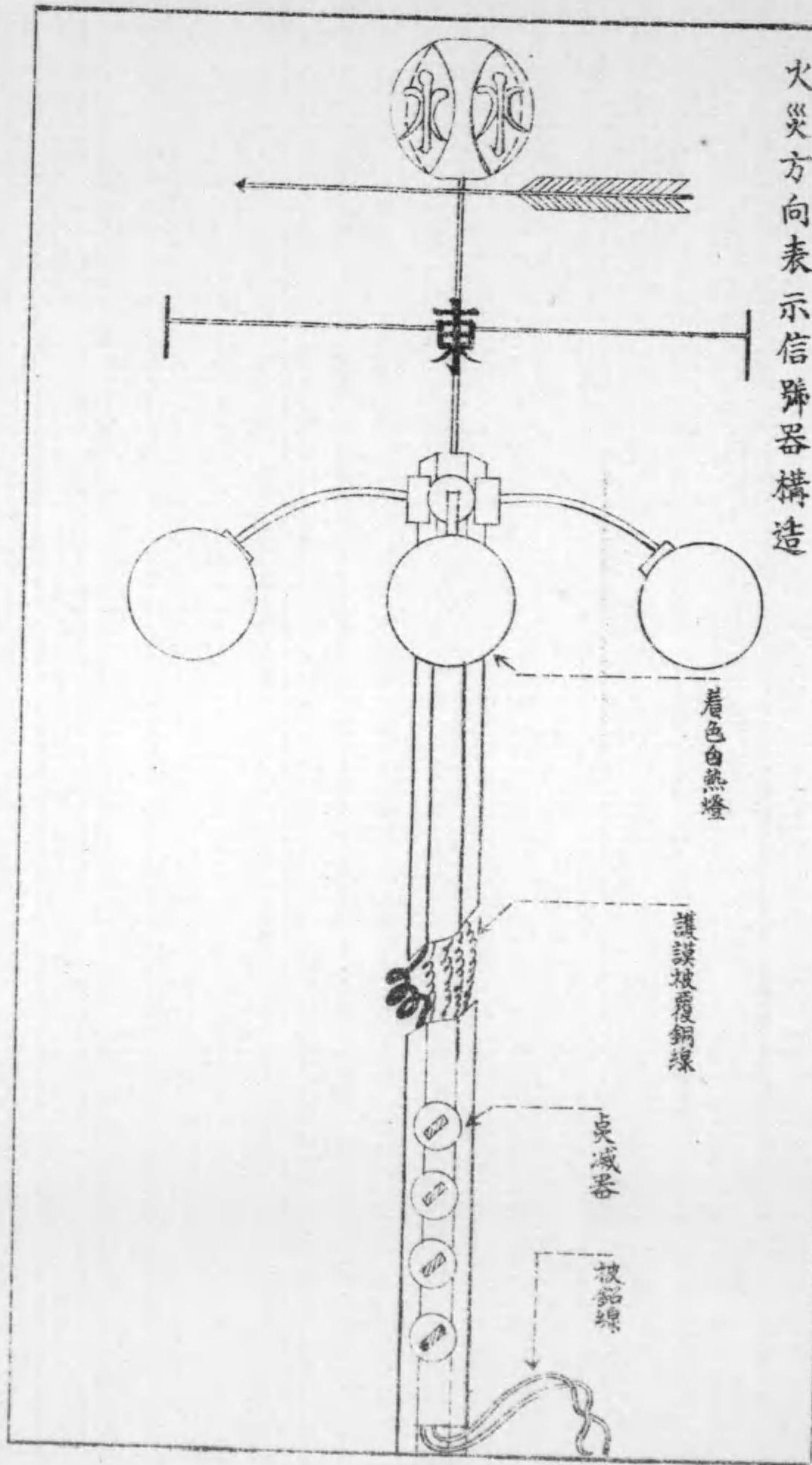
大正式梯子構造(裏面参照)

(甲)



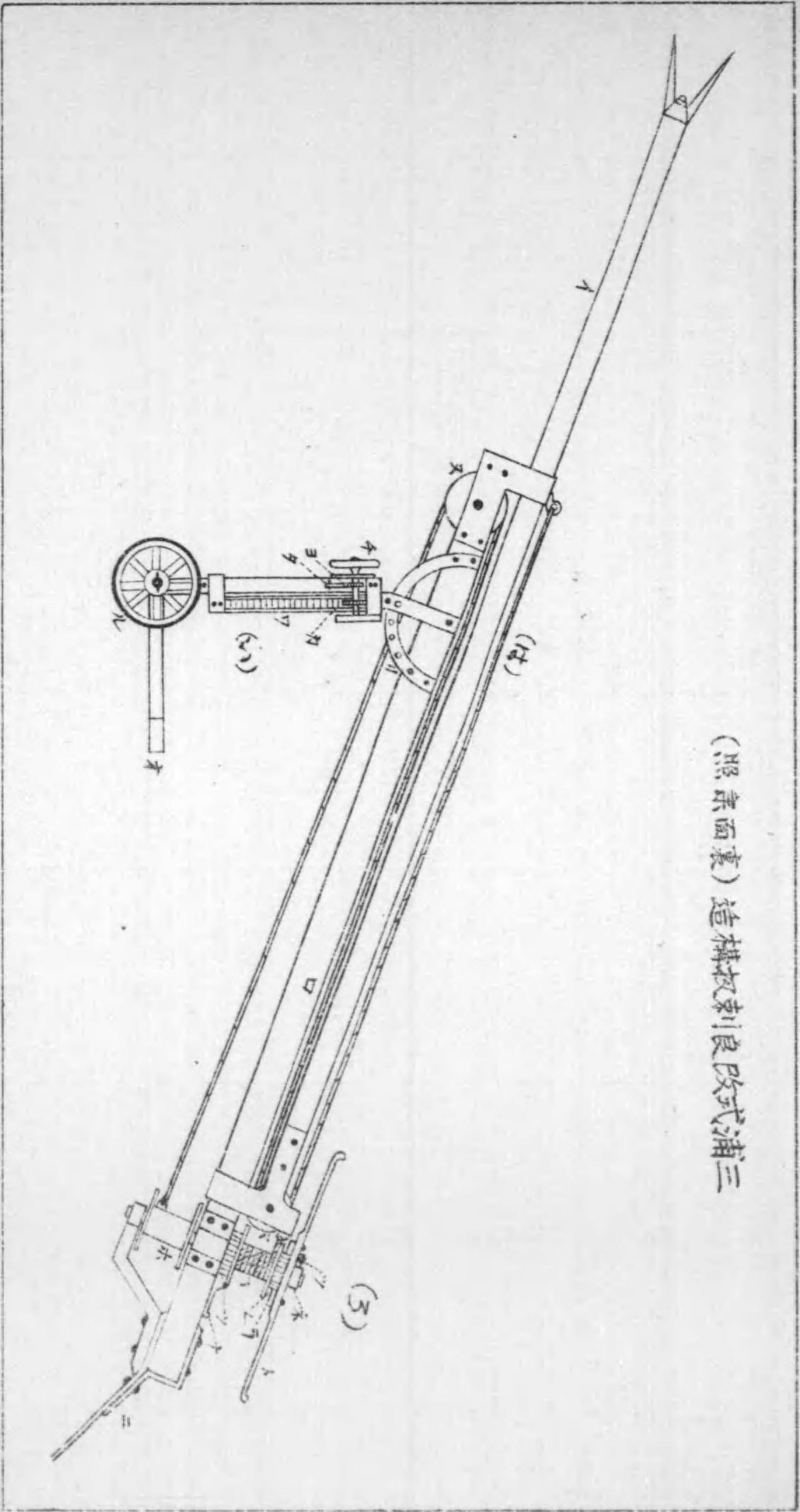
第九圖是ハ明治十年頃消防手ノ着用シタルモノニシテ(イ)ハ麻、木綿
 ニテ製シ黒線ヲ染メ抜ケリ(ロ)ハ概ネ木綿ニシテ肩條襷條ハ赤、白等
 種々ニ染抜キ所屬ノ區別ヲ明カニセリ

火災方向表示信號器構造



第十圖大正式梯子此梯子ハ雄勝郡湯澤町山内三郎兵衛氏ノ考案ニナレルモノニシテ大正式梯子ト稱シ中央ニテ二ツニ折リ疊ムコトヲ得運搬ニ至便ナリ圖中ハ其全圖ニシテ(乙)ハ關節部ノ構造ヲ示セルモノナリ而シテ梯子ハ木製ナルガ關節部ニハ金具ヲ附シテ堅牢ヲ期セリ今其使用ノ概略ヲ述ヘンニ(イ)ノ木材部ニハ(ハ)ナル輻子式弧ヲ以テ固着シ(イ)ノ金具ニハ兩面ニテ此輻子ヲ覆フ所ノモノアリテ共ニ其中心ハ(ロ)ノ心棒ニテ貫カル依ツテ圖ノ上ヨリ見ルモ一方ニハ折レサルモ一方ニハ折ル、仕掛ナリ之ヲ使用中折レザル様保ツニハ(ヘ)ナル金具ト(ホ)ナル蝶捻子ニ依ル即チ(ヘ)ハ(ト)ヲ支點トシテ自由ニ廻ルヲ以テ之ヲ圖ノ位置ニ置キ(ホ)ハ捻子ヲ締ムレバ梯子ハ真直ニナリテ屈折スルコトナキモ(ホ)ヲ緩メ(ヘ)ヲ反對ノ位置ニ回サハ關節部ノ支ヘナキコトナルニ依リ容易ニ折ルベシ

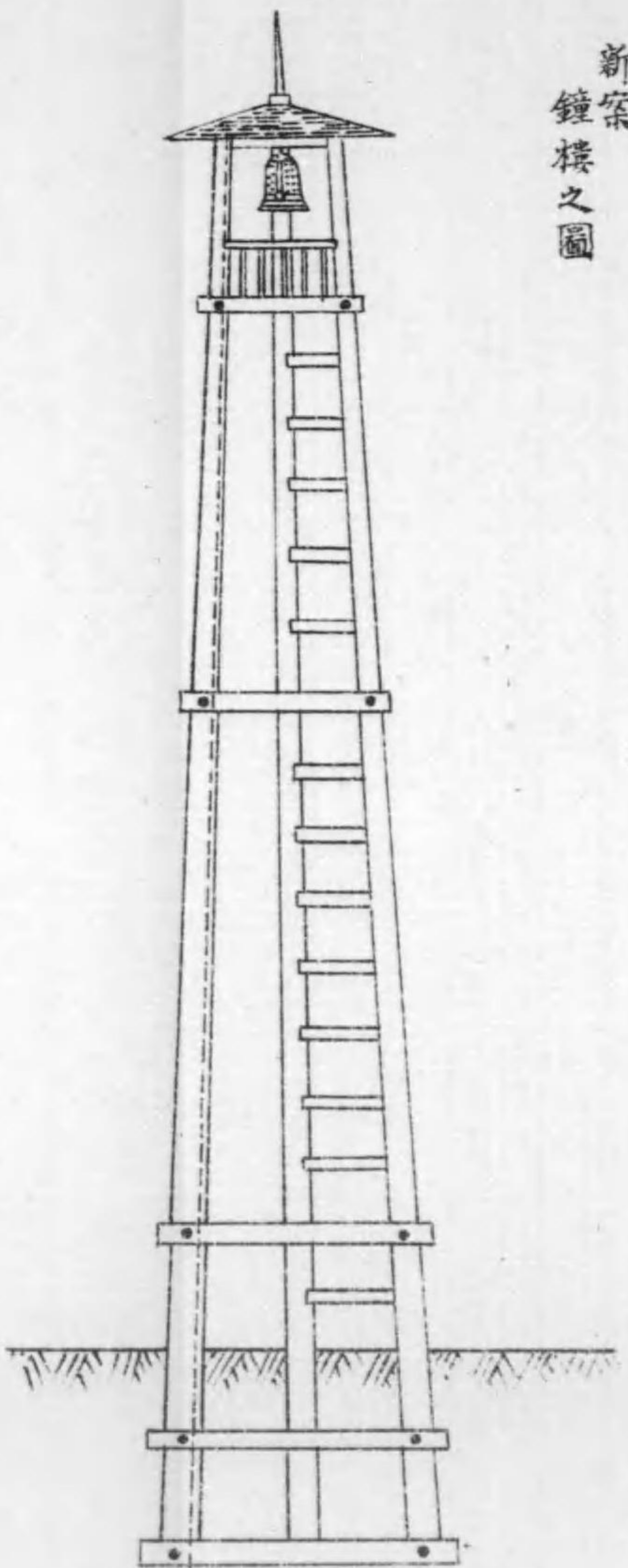
第二十七圖



(照索面裏) 造構叔利良改式浦三

本器ハ其衆ノ觀易スキ高所又ハ警察官署ノ鐘樓上ニ取付ケ常ニ方位ヲ
 指示シ置キ夜間出火ノ際電燈、點燈番號ニヨリ(例ヘハ一燈、東、二燈西、
 三燈、南、四燈、北)出火地點ノ方向ヲ一般ニ表示スルノ用ニ供スルモノ
 ナリ

新案
鐘樓之圖



此刺板ハ南秋田郡土崎港町三浦善吉ノ考案製作ニ係ルモノニシテ「ロ
ープ」ト滑車トヲ使用シ「ロープ」ヲ捲キテ刺板ヲ押出シ比較的少キカ
ヲ以テ堅固ナル建造物ヲ押シ倒シ火災防止ノ用ニ供セントスルモノナ
リ

(イ)ハ刺板ニシテ(ロ)ハ臺ナリ(ハ)ハ刺板ヲ上下セシムル仕掛ニシテ
(ニ)ハ刺板ノ後戻リヲ防ク仕掛(ハ)部ハ刺板ノ角度ヲ變換セシムル仕
掛ナリ

刺板ヲ押出スニハ(ト)ナル「ハンドル」ヲ左ニ廻ス然ルトキハ(ラ)ナル
爪ハ(レ)ナル齒ニ合ヒテ(ホ)ニ「ロープ」ヲ捲キテ之ヲ進マシム後戻リ
ヲ防グ爲(ナ)ナル爪ヲ(ソ)ニ嚙ミ込マシメタリ

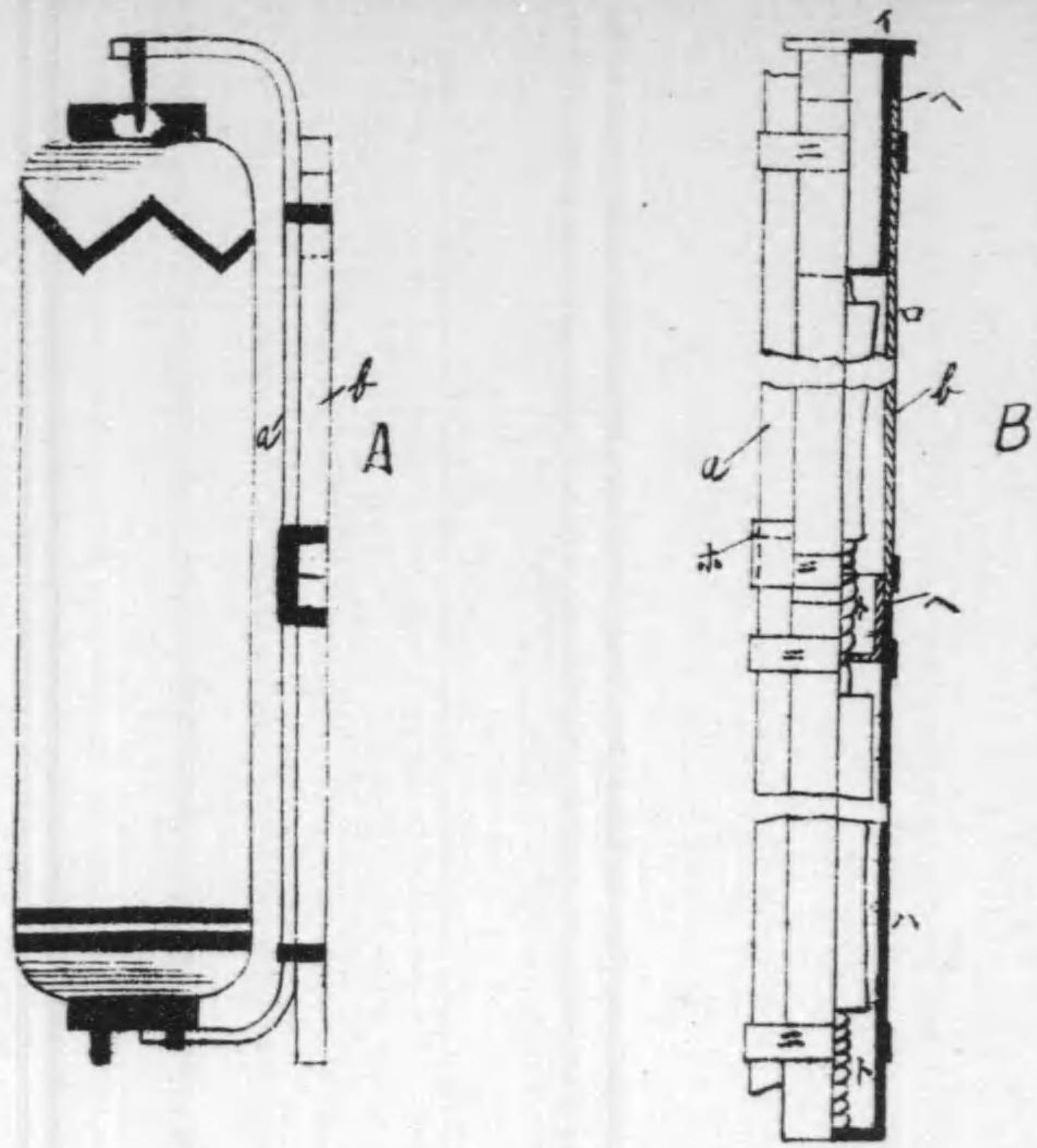
刺板ヲ引戻スニハ(ナ)ナル爪ヲ外シ(ト)ナル「ハンドル」ヲ右ニ廻ス然
ルトキハ(ツ)ノ爪ハ(ホ)ノ齒ニ嚙ミテ(ハ)ニ「ロープ」ヲ捲キテ之ヲ退
カシム

刺板ヲ上昇セシムルニハ(チ)ナル把手車ヲ右手ニテ外ニ廻ス然ルトキ
ハ(カ)ナル齒車ハ(ア)ナル「ラック」ニ合ヒテ上昇セシム下ルヲ防グハ
(タ)ナル爪ノ(ヨ)ニ嚙合フニ依リ下降セシムルニハ此爪ヲ外シ前ト反
對ニナスモノトス

刺板ノ角度ヲ代アルニハ(ハ)部(リ)ナル半環鐵ニ沿ヒ動カシ適所ニ至
リテ相互ノ穴ヲ合セ「ピン」ニテ止ム

刺板ヲ運搬スルニハ(イ)部ヲ例シテ(オ)ナルニ板上ニ(ロ)ナル臺ヲ乘
セ(ル)ナルニケノ車ニテ地上ヲ引ク

第二十九圖

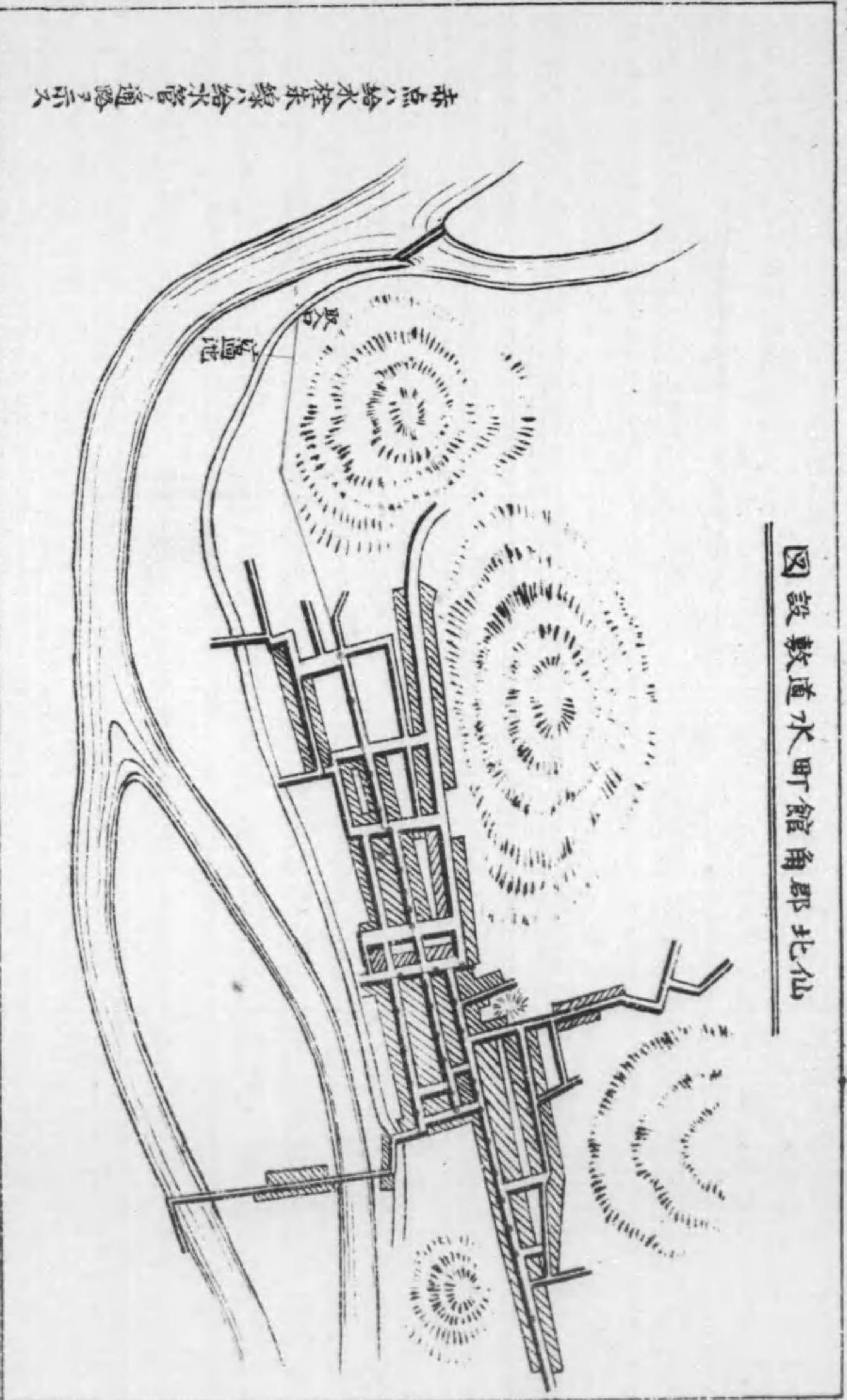


- 本鐘樓ハ雄勝郡稻庭消防組々頭根本文英ノ考案設立ニ係ルモノニシテ
従来ノ鐘樓カ皆二本柱ナル爲強風等ニ因リ柱脚搖ギ倒壊スルコト多キ
ヲ憂ヒ二本脚トナシタルモノナリ
- 一、柱ハ松材ニシテ末口六吋長五十五尺(地上四十七尺、地下八尺)ニ
シテ柱脚ニハ(栗石ヲ充顛シ粘土ヲ詰メ込ミテ地堅メヲ爲ス)
 - 一、繫梓栗材地上三ヶ地下二ヶ(六寸三寸角材)五分ボルト留
 - 一、半鐘青銅徑一尺三寸高サ二尺重量八貫匁
 - 一、避雷針銅ノ「ニシケル」鍍金ニツテ導線ハ十二番鐵線ニシテ土中ニ
テ放電ス

此消防提灯ハ湯澤消防組ノ出品シタルモノニシ
テ其引手ニ燧燭ト「マツチ」トヲ納メ得ル様考
案セルモノナリ上圖Aハ組立圖Bハ弓手ノ構
造ヲ示セルモノナリ即チaナル弓蔓ニb點ニテ
(1)(2)ノニツニ分解シ得ル真鍮製圓筒
cヲ(2)ナル「バンド」ニテ取付ケタルモノニシテ
全体ハ(3)點ニテニツニ分解シ得ルモノ
モナリ(4)ハ空筒ニシテ「マツチ」ヲ入ナリ此筒ノ
外部ニハ摺紙ヲ貼り底ニハ小孔ヲ設ケ一本
宛「マツチ」ヲ取出シ得ル様ニセリ(5)(6)ハ燧
燭入ニシテ(7)又(8)ヲ抜キ去ル時ハ(9)ナル
「スプリング」ノ彈性ニテ之等ノ筒内ヨリ
燧燭ハ彈キ出サル様ノ仕掛トナリ居
レリ(本文説明参照セラルヘシ)

第三十圖

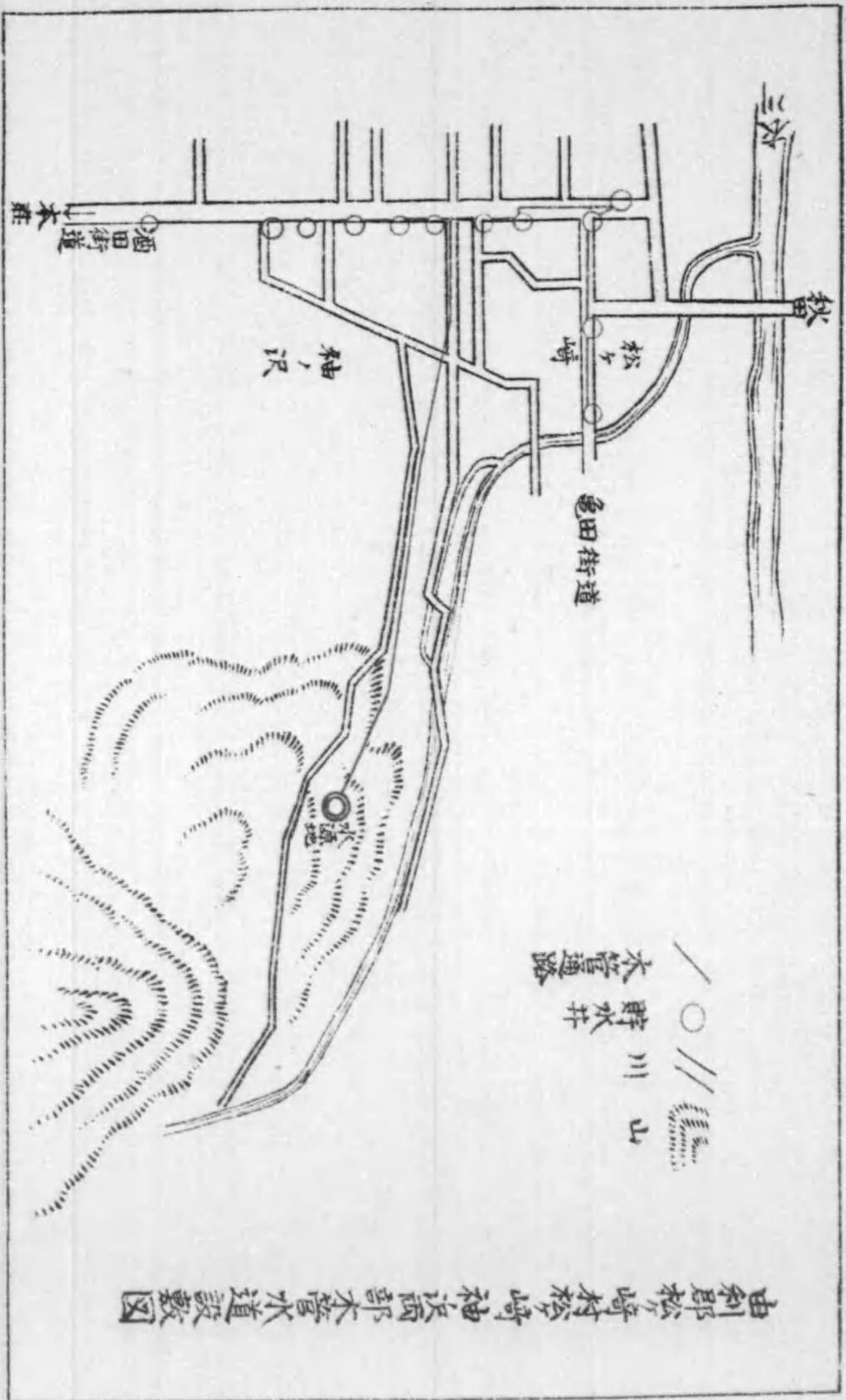
仙北郡角館町水道敷設圖



赤点ハ栓水栓検査給水管通過を示ス

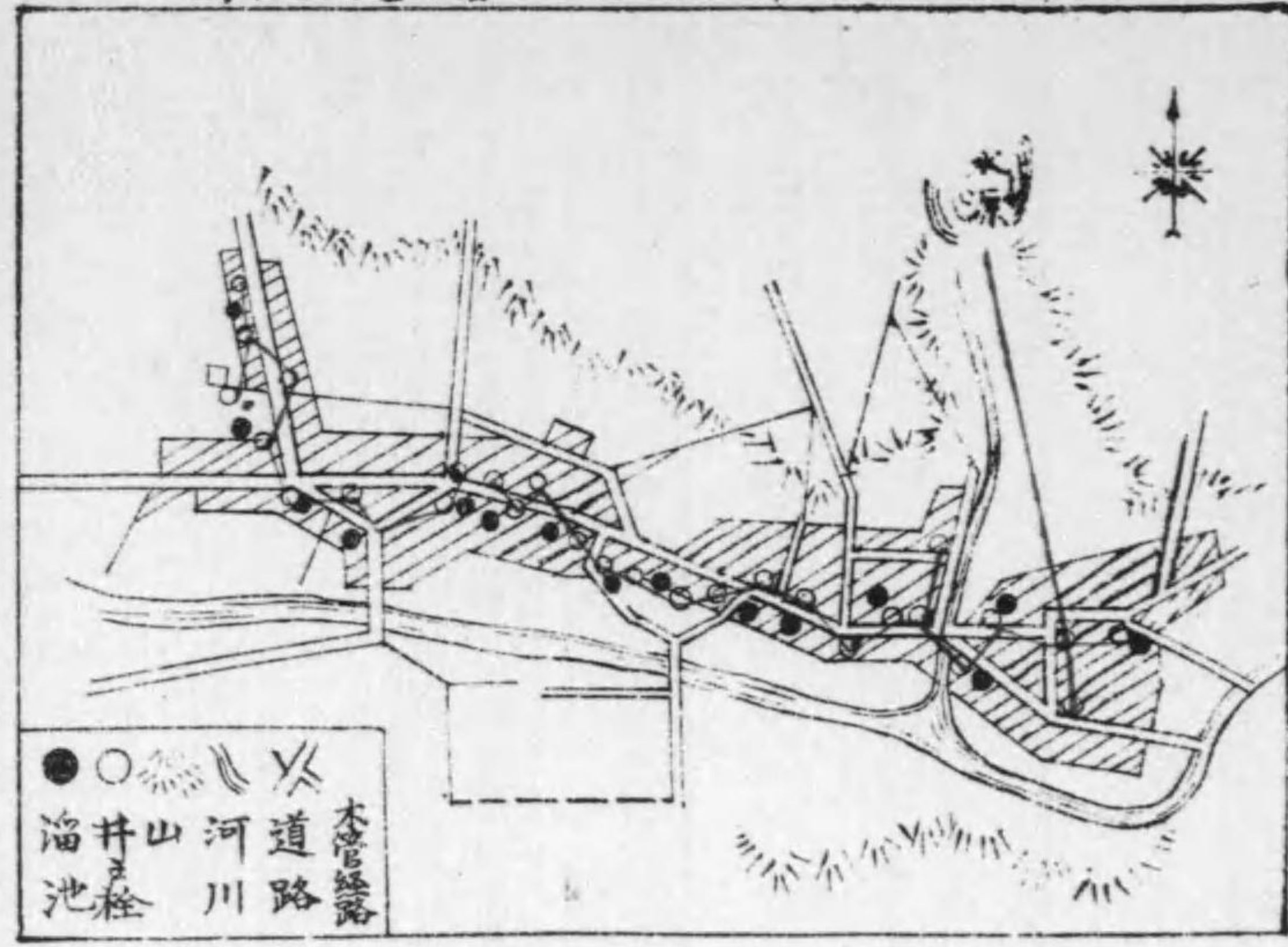
此水道ハ主トシテ飲用水ヲ得ル目的ニテ敷設シタルモノナルガ消防用
 ニモ使用セラルル水路ハ箱樋及木管ヲ以テ造リ水門工事、濾過池工事、
 水路工事等ニテ其總費金六千百圓ヲ要セリト云フ水路中水門ヨリ町入
 口マデハ五寸ニ二尺及八寸ニ八寸ノ箱樋ヲ用ヒ町内ハ六寸、四寸、三寸
 ノ木管ヲ使用セリ而シテ此水路ノ延長ハ箱樋二六二間木管一、五三八
 間トス

第三十一圖



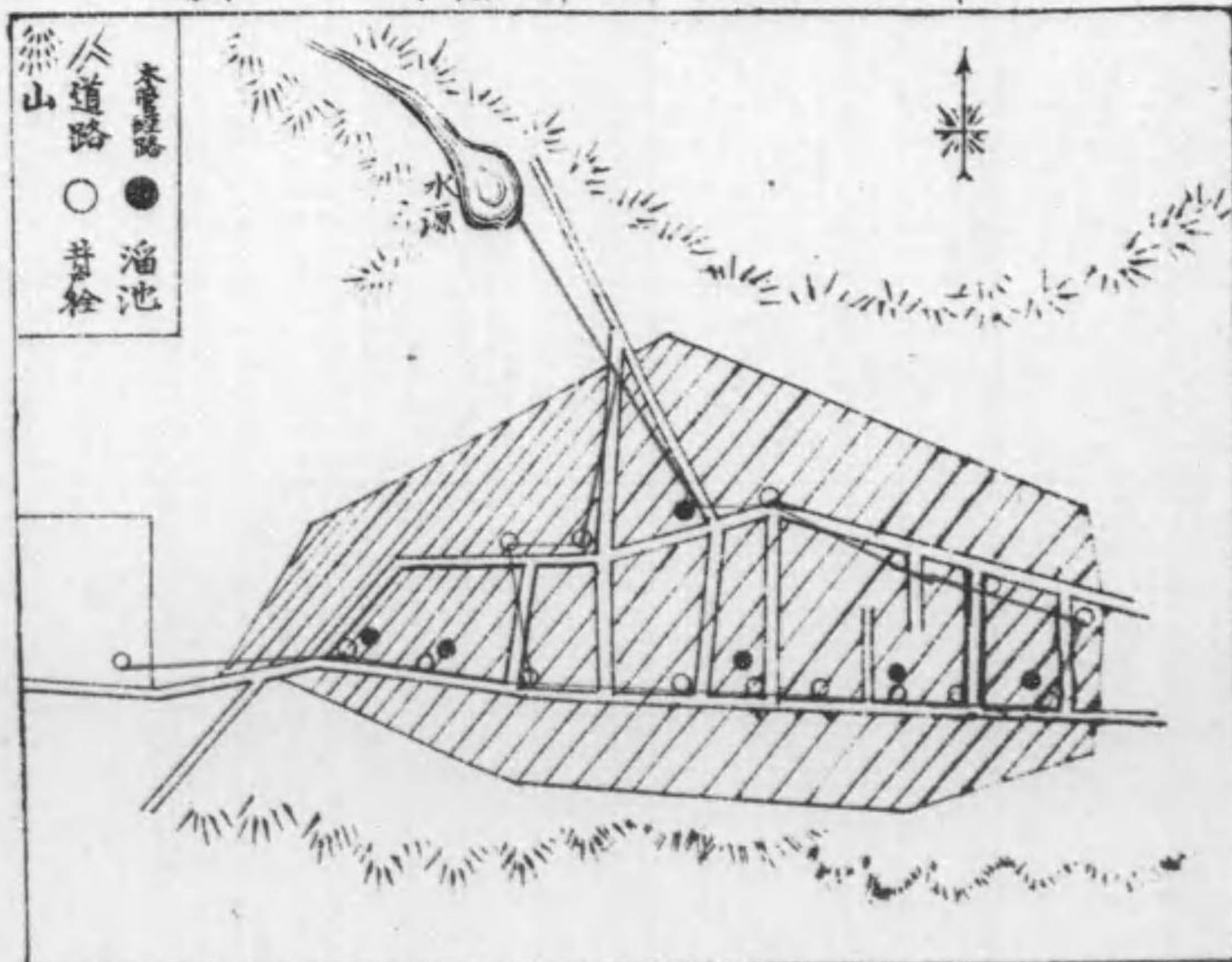
由利郡松ヶ崎村松ヶ崎袖ノ沢西部木管水道敷設図

由利郡下村羽川部落防用水管布設圖



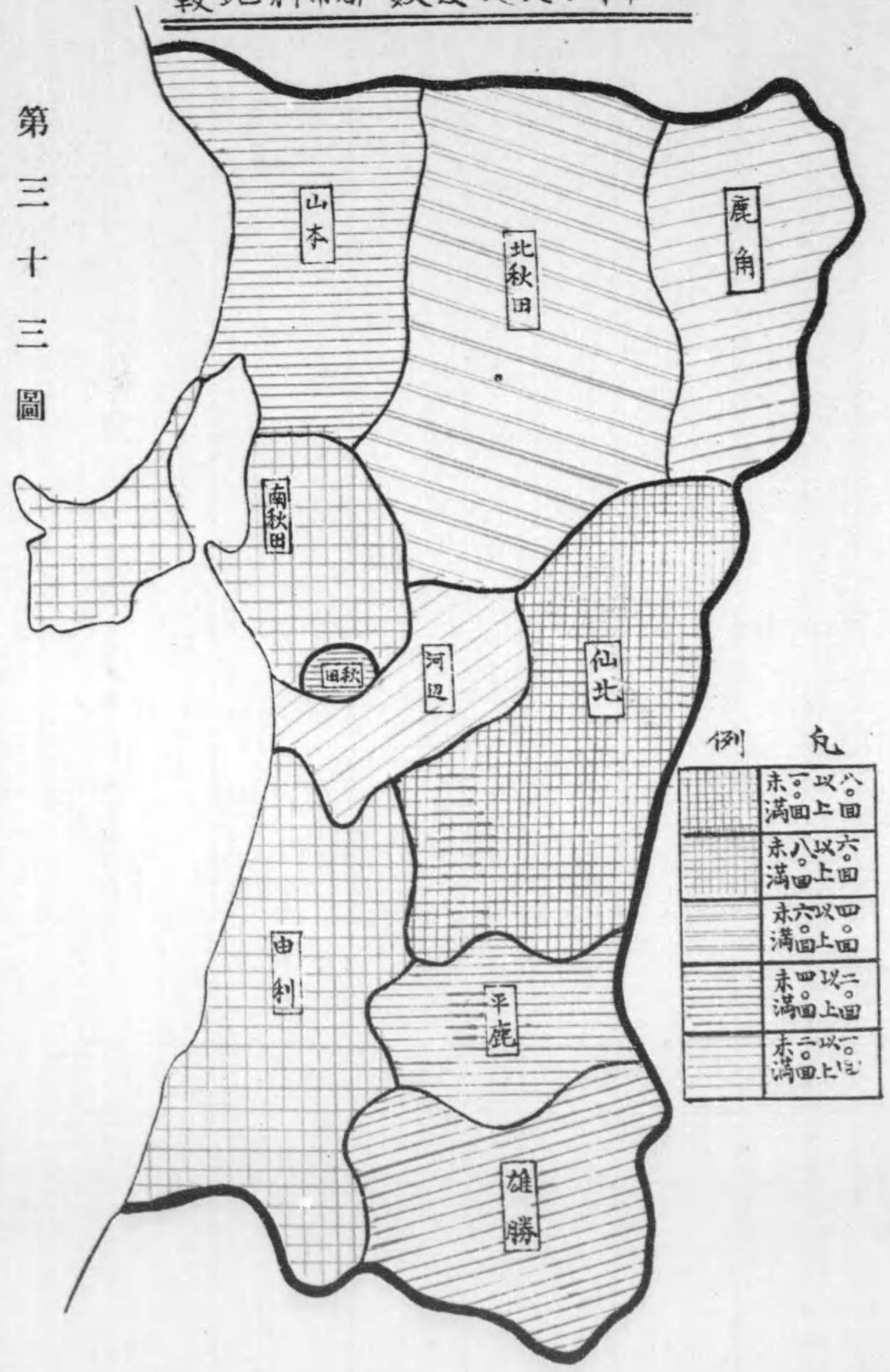
第三十二圖

同郡同村長部部落同上圖



較比別市郡数度災火之間年一

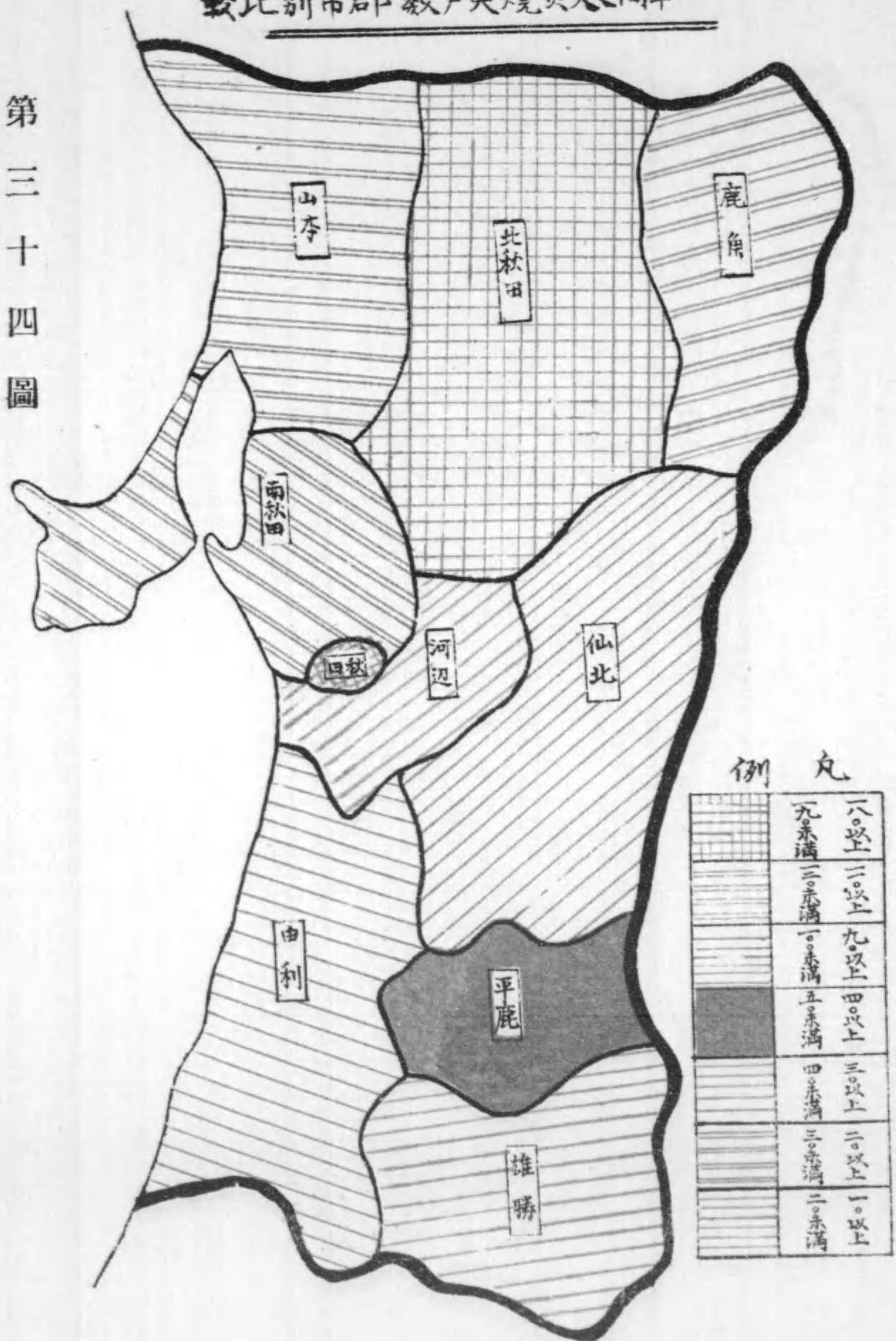
第三十三圖

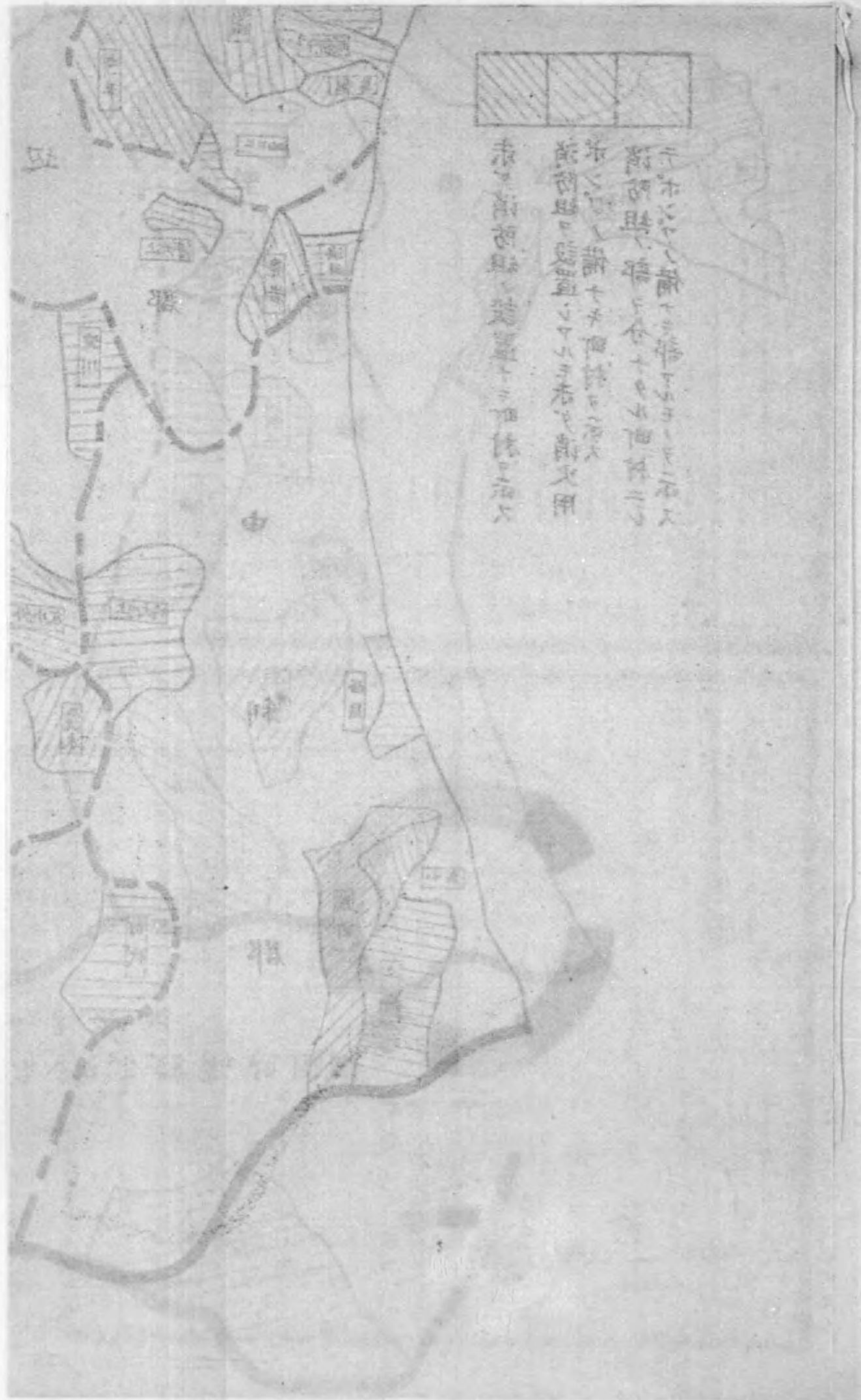


例	凡
	未 ^〇 以 ^〇 八 ^〇 滿 ^〇 上 ^〇 回 ^〇
	未 ^〇 以 ^〇 六 ^〇 滿 ^〇 上 ^〇 回 ^〇
	未 ^〇 以 ^〇 四 ^〇 滿 ^〇 上 ^〇 回 ^〇
	未 ^〇 以 ^〇 二 ^〇 滿 ^〇 上 ^〇 回 ^〇
	未 ^〇 以 ^〇 一 ^〇 滿 ^〇 上 ^〇 回 ^〇

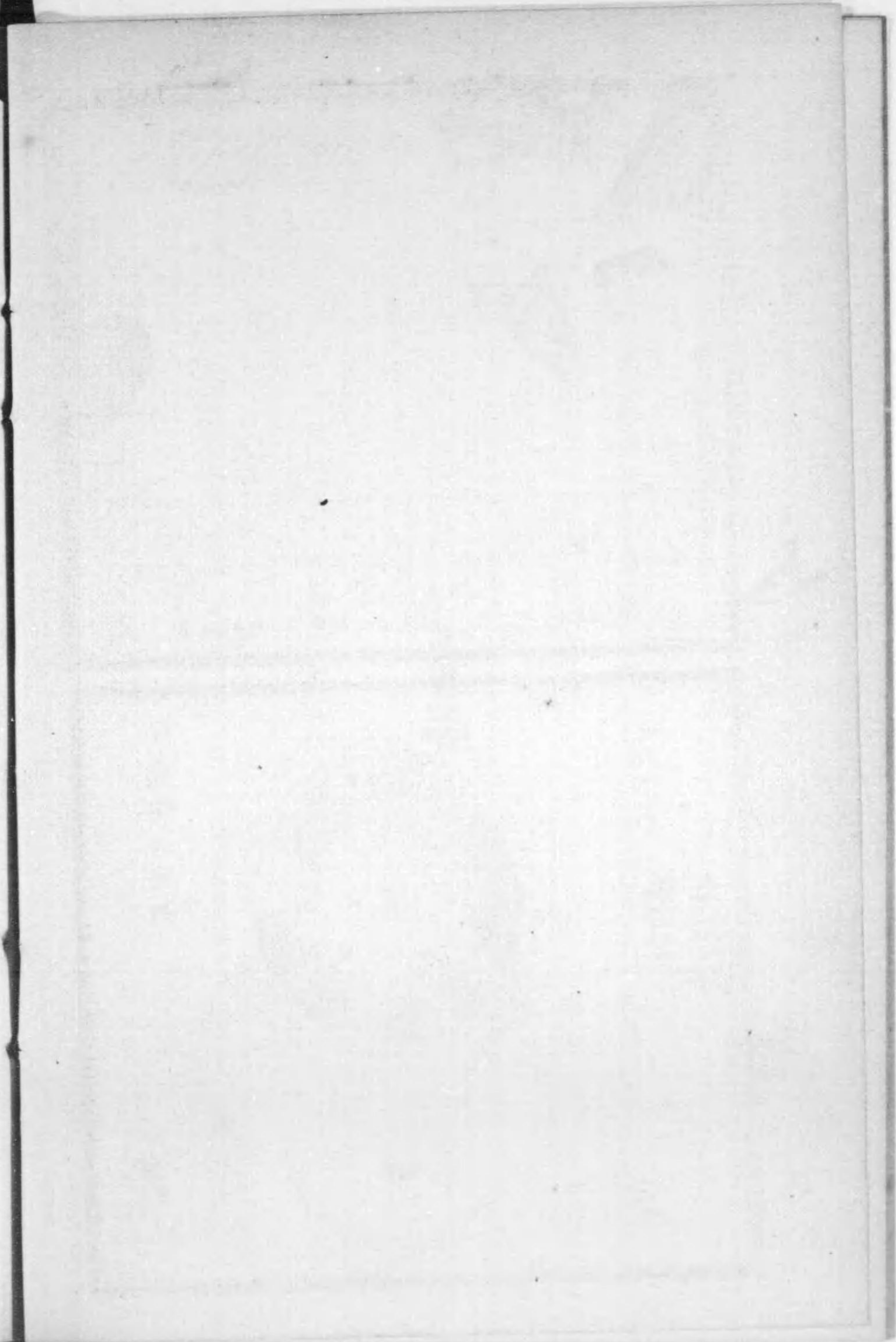
較比別市郡 数户失焼災火之間年一

第三十四圖

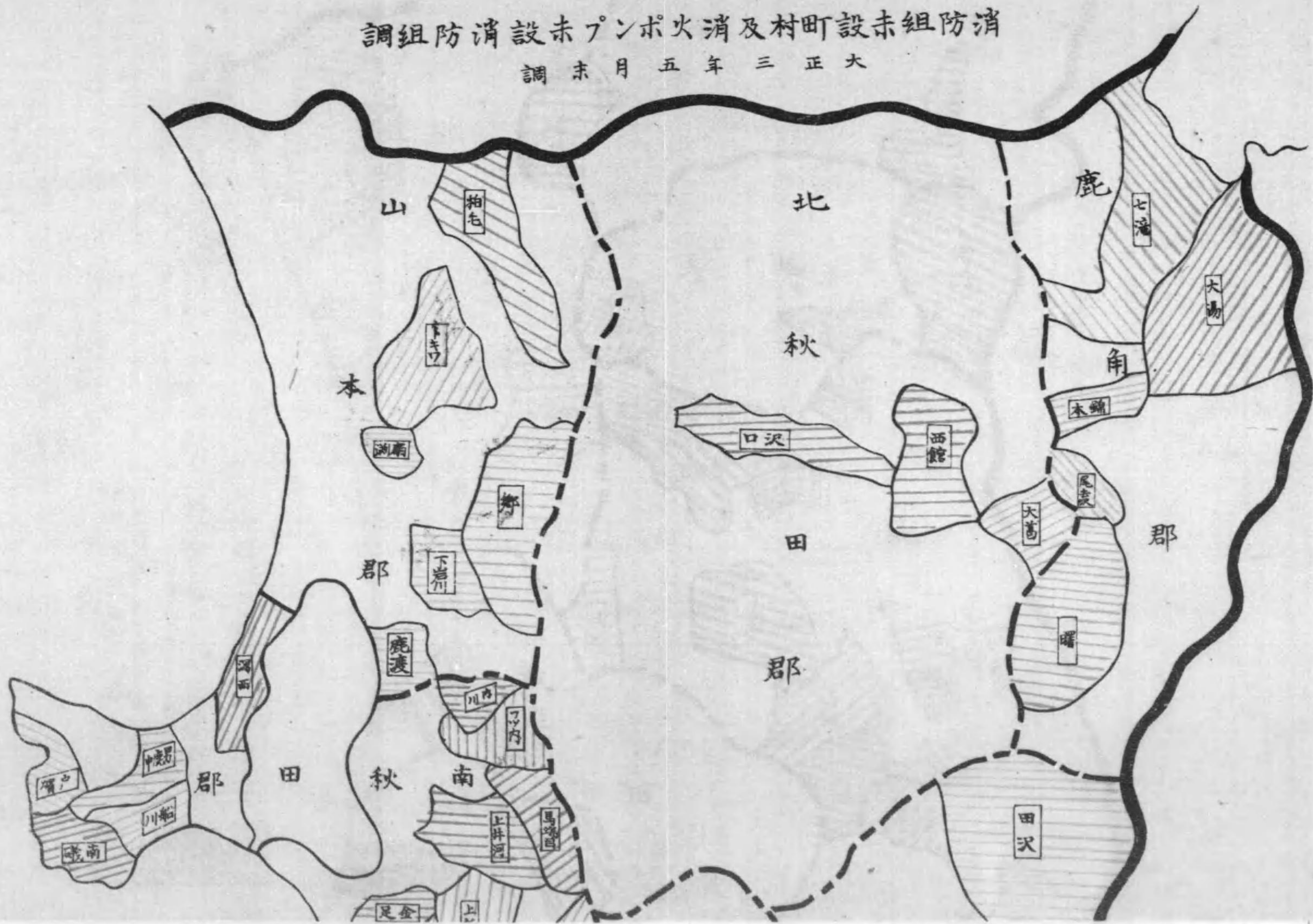


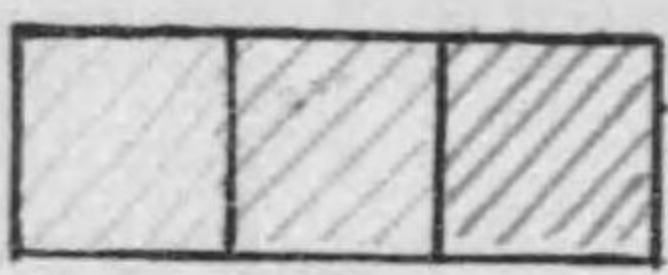
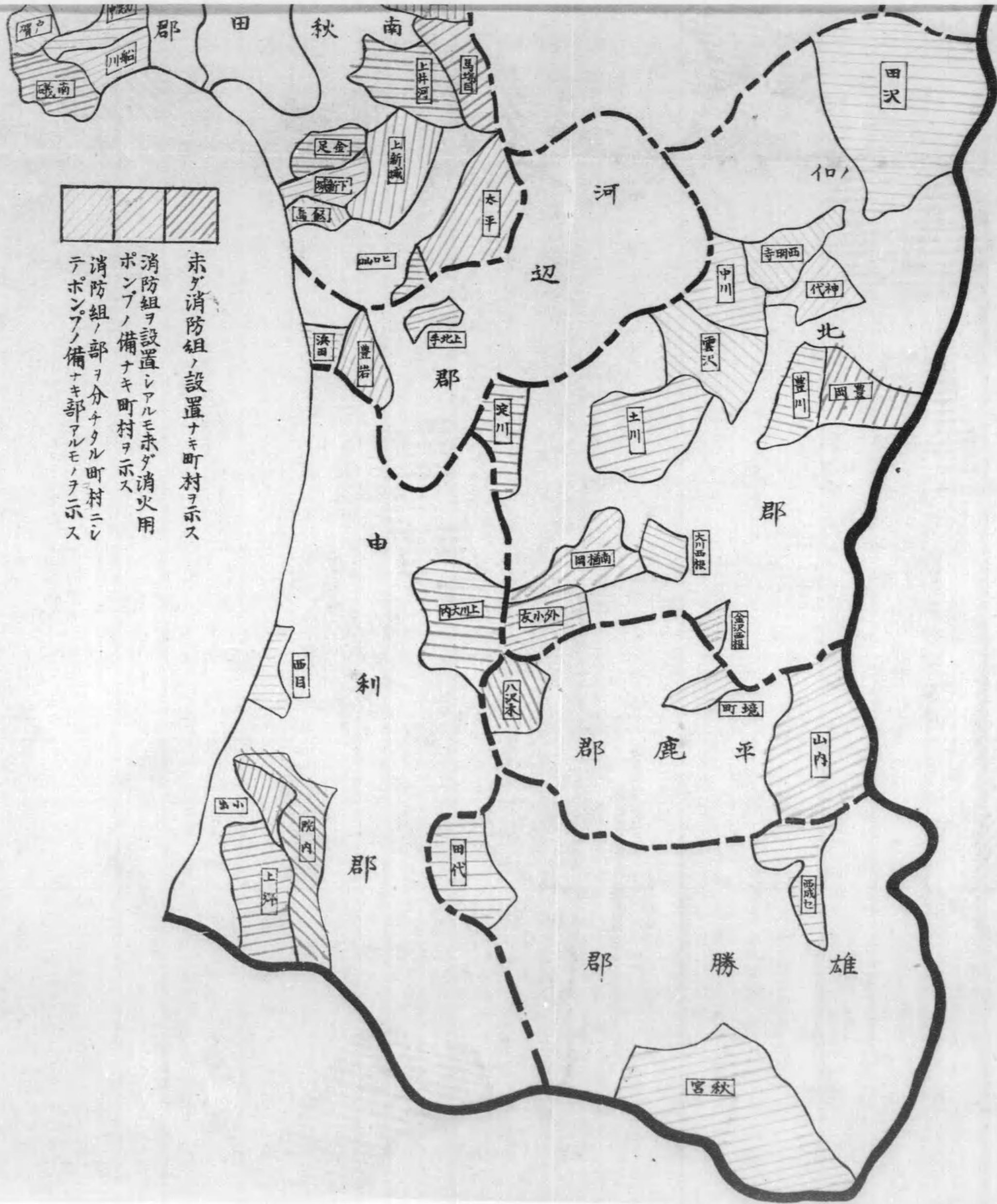


此ノ河川ハ蘇州府ノ南ノ
 蘇州府ノ南ノ河川ニシテ
 蘇州府ノ南ノ河川ニシテ
 蘇州府ノ南ノ河川ニシテ
 蘇州府ノ南ノ河川ニシテ



消防組未設町村及消防ポンプ未設消防組調
 大正三年五月末調

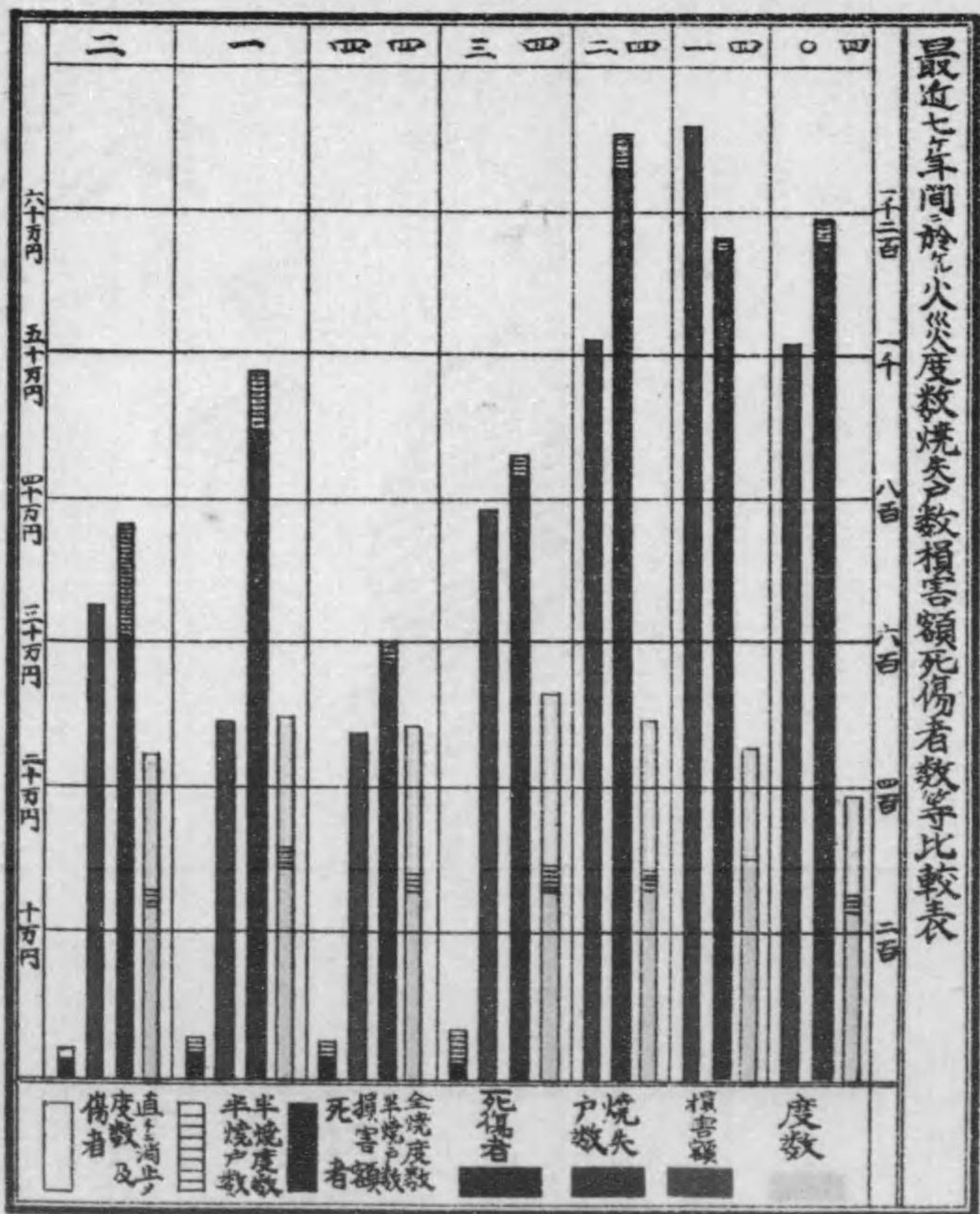




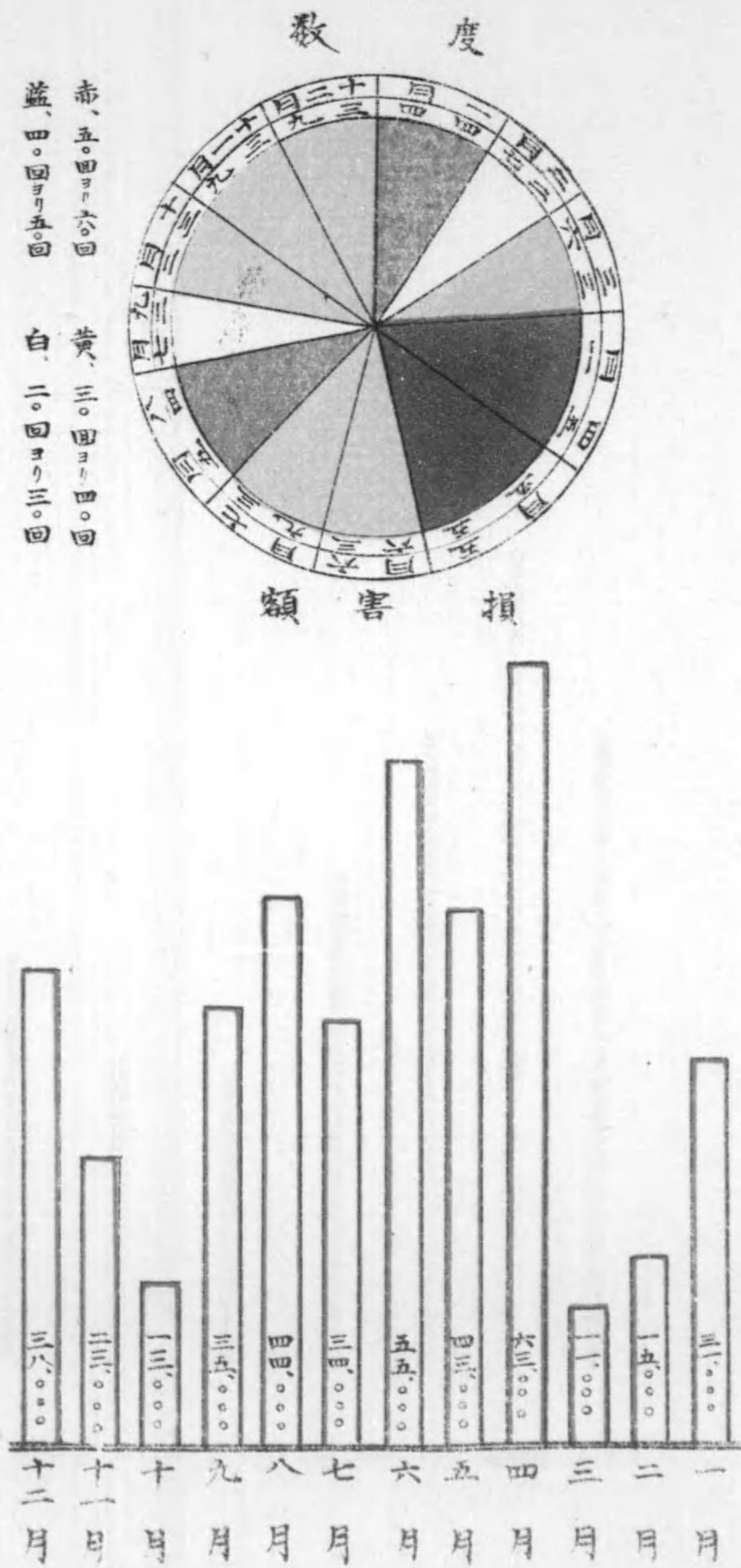
未ダ消防組ノ設置ナキ町村ヲ示ス
 消防組ヲ設置シタルモ未ダ消火用
 ポンプノ備ナキ町村ヲ示ス
 消防組ノ部ヲ分チタル町村ニシ
 テポンプノ備ナキ部アルモノヲ示ス

第三十八圖

本表中平均壹組當額ハ其ノ郡内ニ於ケル消防組數ヲ以テ平均シタルモノニシテ平均一戸當下ハ其郡内ニ於テ消防組ヲ設置シアル町村ハ戸數ヲ合シ以テ平均ヲ見タルモノナリ又組員一人當額モ其郡内ノ消防員數ノ總計ヲ以テ平均シタルモノナリ本警備費ニ関スル詳細ハ次ノ二表ニテ知ルコトヲ得ベシ

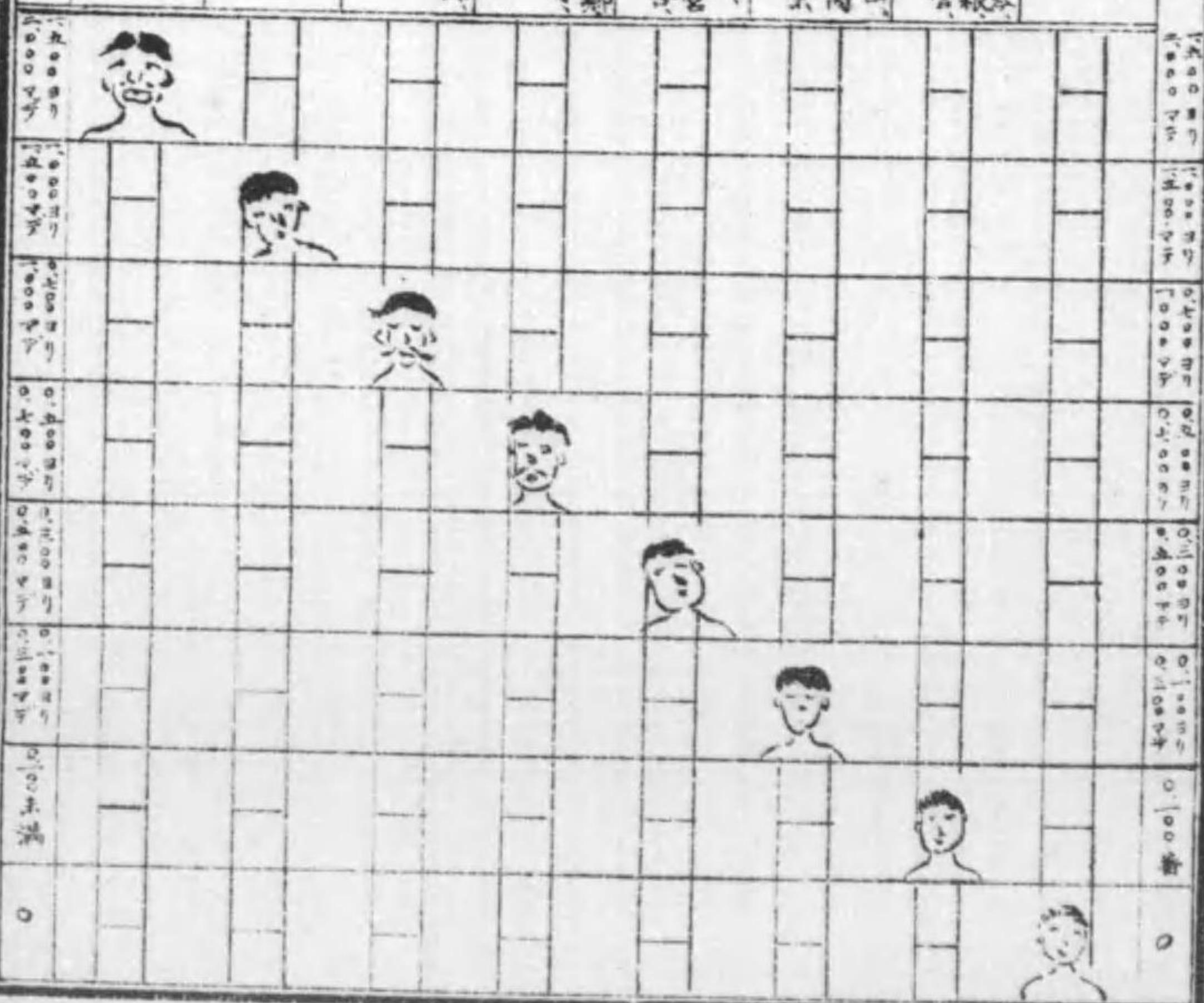


第三十九圖
最近七ヶ年間に於ける火災度数及損害額ノ平均月別表



第四十圖

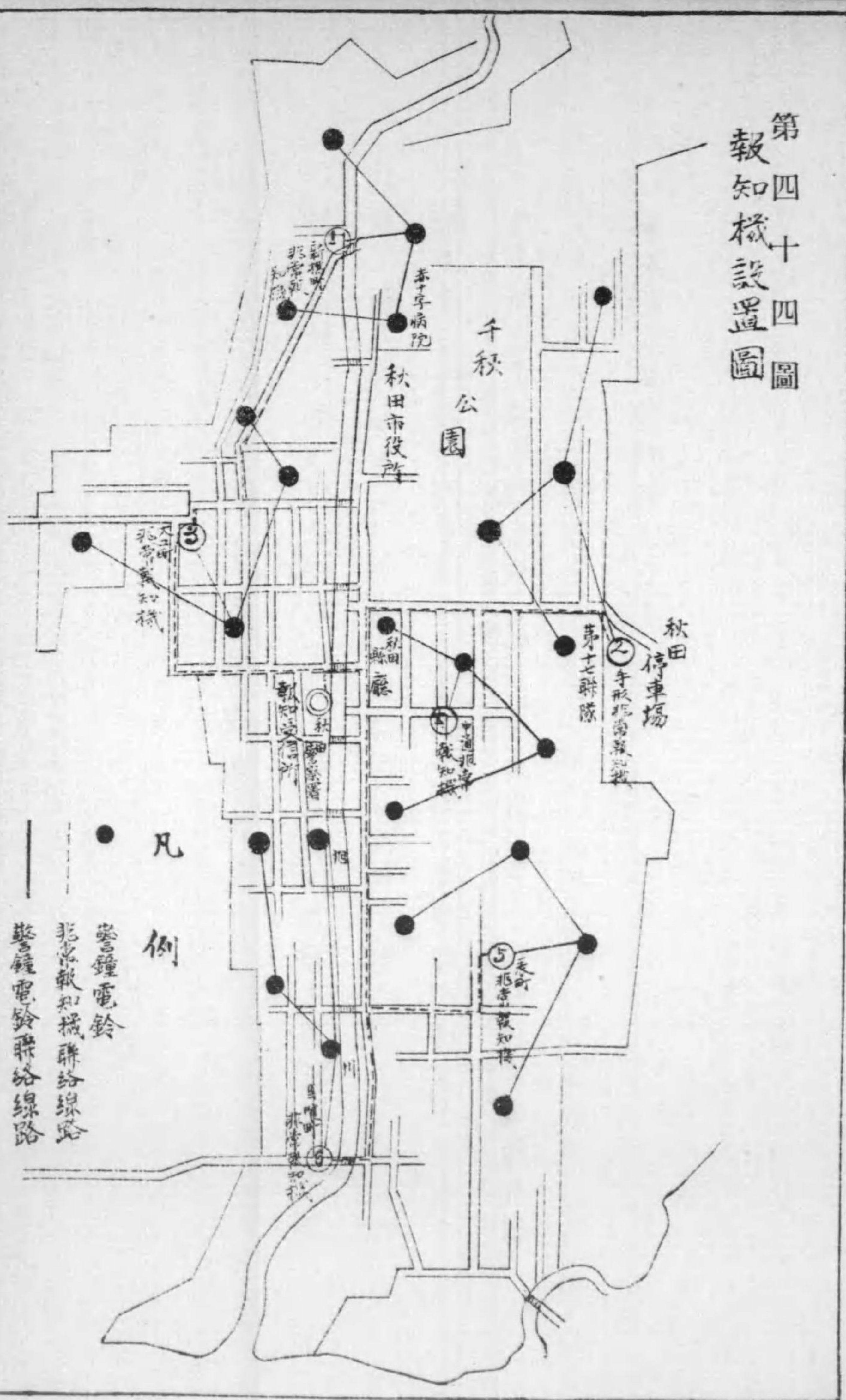
秋田縣消防組設置町村正二年度警備費一戶當額比較		消防組名
東雲、尾去沢、内小友、豊川(仙)畑、白岩	10000	豊川、飯田川、二ツ井、象潟、下決、留間川
下北郡、秋田、大館、宮川、七澤、西目、西海、岩谷、直根、大川、西根、鹿角、合沢、三川、荒川、雲沢、中川、古明寺、神代、橋本、山内、三堂、朝倉、田代	10000	
秋田、豊川、和、田、豊島、岩見山内、松岡、天、三、川、尻、寺内、戸賀、腰、本、五、里、合、下、井、河、旭、川、輪、山、前、川、東、港、沢、三、木、川、内、岸、子、上、沢、金、沢、西、根、橋、沢、四、原、田、沢、飯、結、孫、貴、十、文、字、旭、榮、院、町、横、田、沼、館、吉、田、鹿、野、池、三、瀬、仙、道、五、沢、瀧、小、野、院、内、	10000	
下、河、仁、阿、仁、合、前、田、山、瀬、夫、立、中、落、合、小、坂、小、友、北、内、越、花、田、下、川、大、内、高、大、正、寺、神、宮、寺、清水、瀬、無、天、沢、畔、藤、木、大、西、島、梨、六、郎、峯、吉、川、北、瀬、岡、川、也、里、見、大、舞、館、合、山、内、川、三、堂、并、天、須、川、新、成、明、治、五、百、音、田、	10000	
秋田、二、井、田、新、屋、川、津、土、崎、地、戸、大、川、五、城、目、種、梅、七、重、長、木、前、田、番、沢、花、輪、下、野、石、沢、本、莊、角、館、長、信、田、十、屋、町、和、野、横、手、阿、丸、大、森、増、田、湯、沢、三、間、岩、崎、横、根、横、野、稻、庭	10000	
中、島、外、旭、川、谷、越、一、日、市、大、館、榮、坊、沢、下、大、野、子、古、金、浦、平、沢、道、川、花、館、長、野、田、根、森、藤、宮、黒、川、西、音、内、東、成、瀬、三、輪、	10000	
荷、上、場、廣、葉、松、崎、南、内、越、生、保、内、秋、宮、駒、形	10000	
豊川、飯田川、二ツ井、象潟、下決、留間川	10000	



第四十四圖 說明書

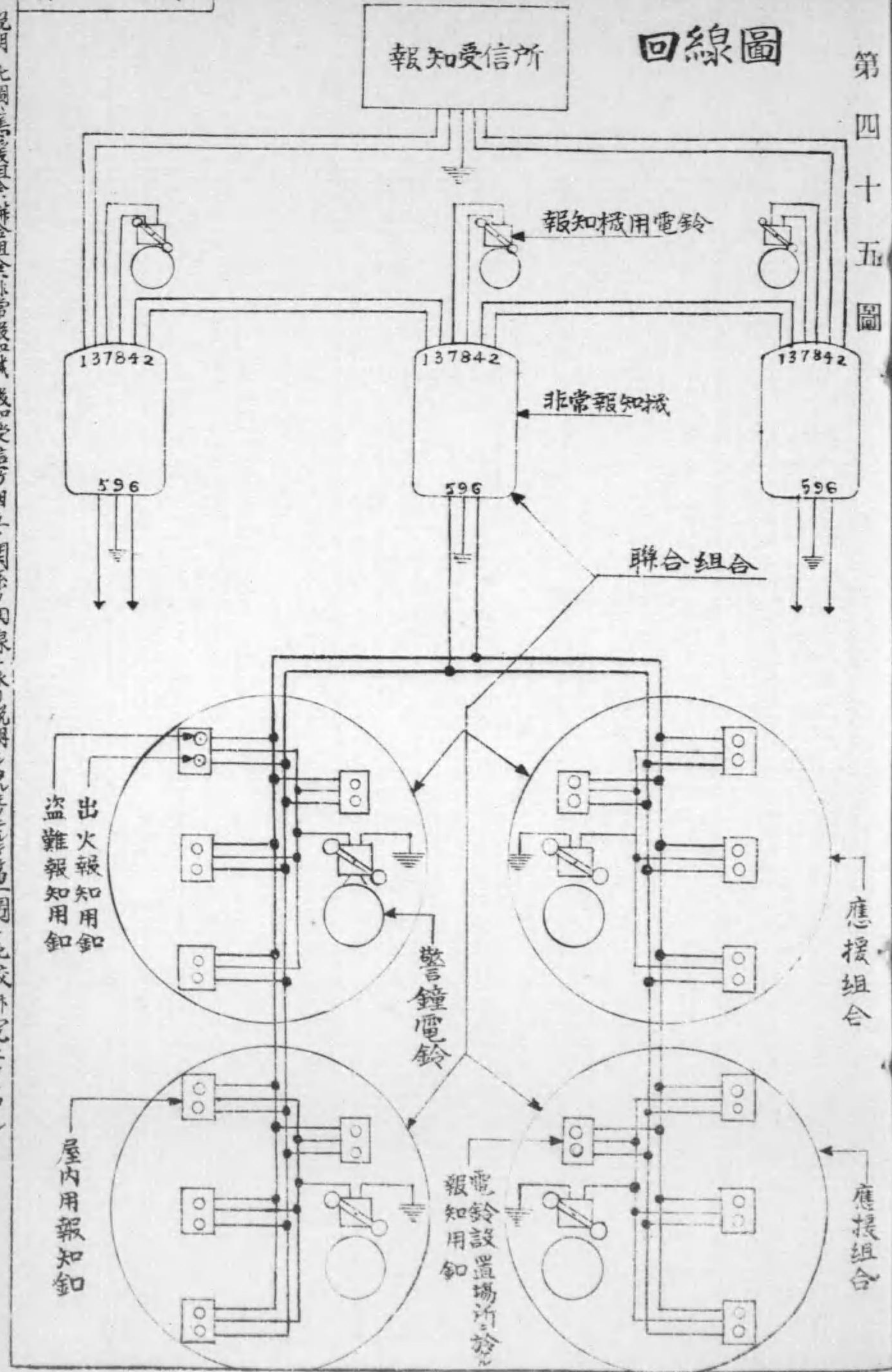
警鐘電鈴は應援組合中に一個を設置し組合加入者屋内には黒赤二個の押釦を設けあり今盜難又は火災の發生したる時は出來事件の性質に因り直ちに其釦を約十秒間靜に押すものなり然る時は電鈴鳴動し組合中に急を告ぐるご同時に非常報知器を経て受信所に感動し光色ランプにより發生したる事件の性質及發生個所判明するものごす

第四十四圖
報知機設置圖



第二圖

說明 此圖應接組合聯合組合非常報知機報知受信所相互ノ關係ヲ回線ニ依リ説明シタルニシテ第一圖ト比較研究セラレタシ



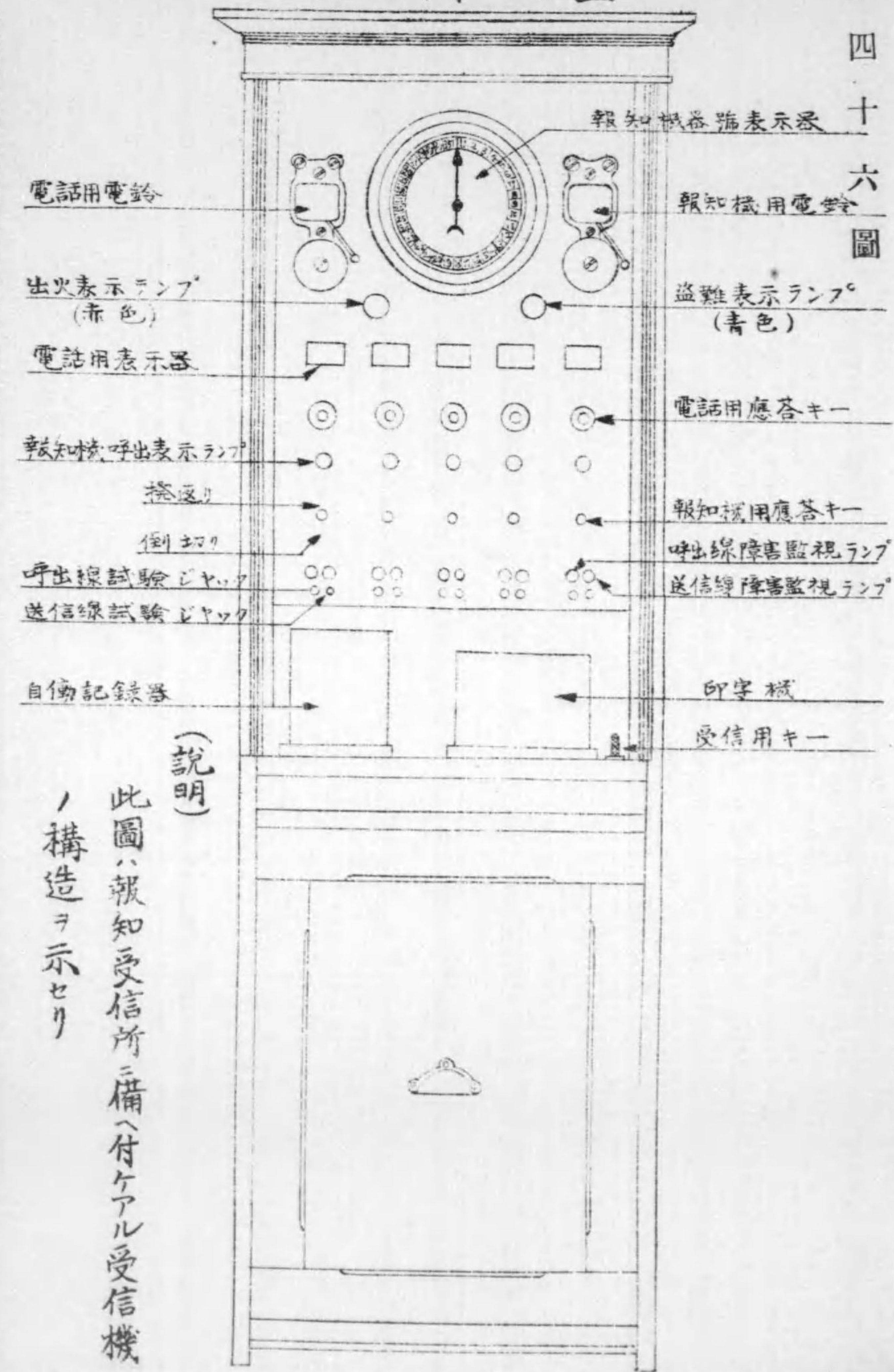
回線圖

第四十五圖

第三圖

受信機正面圖

第四十六圖



(説明)
 此圖ハ報知受信所ニ備ヘ付ケアル受信機ノ構造ヲ示セリ

第四十七圖

郡市別	消防組數	部數	消防組員數	備費	
				平均組員	平均組費
秋田市	一	五	二〇一	三三六	五七
南秋田郡	二七	三九	八	一五九	三三三
山本郡	二四	三七	二	一四七	四八三
北磐郡	三〇	三九	二	一五九	五四三
鹿角郡	九	一三	一	一〇四	二八四
河内郡	一四	二二	一	一〇四	二八四
由利郡	二七	三七	四	二九三	二八四
仙北郡	三七	五八	二	二二〇	二七四
平鹿郡	二四	三七	一	一八九	二二五
雄勝郡	三五	百七	三	三三三	二七五

備考 秋田市及平鹿郡横手町、南川町、三本森、樽筒ノ備アリ

秋田縣内消防組及警備費郡市別比較表 大正二年調

本表中平均一組當額ハ其ノ郡内ニ於ケル消防組數ヲ以テ平均シタルモノニシテ平均一戸當ト其郡内ニ於テ消防組ヲ設置シアル町村ノ戸數ヲ合シ以テ平均ヲ見タルモノナリ組員一人當額モ其郡内ノ消防員數ノ總計ヲ以テ平均シタルモノナリ

本警備費ニ關スル詳細ハ次ノ二表ニテ知ルコトヲ得

ベシ

第一回 秋田縣 消防展覽會記錄

秋田縣警察部保安課編纂

總說

本縣に於ては消防義會主催の下に消防に關する機械器具、被服統計書記録規約等あらゆる物件を聚集し展覽會を開きたるが此種の計畫は本縣は勿論他府縣に於ても未だ多く試みられざりしを以て頗る好評を博し消防上に寄與貢獻する所尠少なからざりき、今左に開催日數、入場者數其他の事項を掲ぐれば

一、開催期日 自八月十二日五日間
至八月十六日五日間

二、觀覽者數總計 二千三百五十二人

內 譯

開催初日	八月十二日 (晴)	觀覽者	二百六十五人内
同 二日	同 十三日 (曇)	同	六百三十五人内
同 三日	同 十四日 (晴)	同	四百五十七人内
同 四日	同 十五日 (晴後驟雨)	同	三百五十九人内
同 最終日	同 十六日 (晴)	同	六百三十六人内
計			二千三百五十二人内

男子 千九百六十一人

總說

二 一八六一七六一六
五 一六一七六一六
六 一六一七六一六
一 一六一七六一六
三 一六一七六一六
九 一六一七六一六

子 供 二百九十三人
婦 人 九十八人

〔註〕

子供とは拾五歳以下の者を指し多くは教師引率の下に參觀したる小學生なるも消防關係者の子弟にして父兄其他の保護者と同伴せし者亦尠からず

婦人の參觀者は重に消防關係者の家族にして兒童其他一家同伴にて來觀せる者多きも中には然らざる特志者も尠からず

三、展覽會事務分掌の各係左の如し

一、會 場 係

栗田巡查部長、伊藤巡查部長、堀江技手、菅沼巡查、高橋巡查

一、出品物整理係

高橋巡查

一、陳 列 係

松本警視、金兒警部、森警部、鈴木警部補、堀江技手、木澤技手、村木巡查部長、

栗田巡查部長、菅沼巡查

一、受 附 係

菅沼巡查、高橋巡查

四、八月十三日本縣公會堂に於て消防展覽會發會式を舉行したるが總裁の臨場會長、幹事長、幹事並委員其他多數來賓の列席ありて流石に廣き公會堂も殆んど立錫の餘地なき程にて頗る盛況なりき總裁並に會長の告辭式辭左の如し

告 辭

茲に第一回消防展覽會を開催し本日と以て其の發會の式典を擧ぐるを得たるは本官の最も欣幸とする所なり

惟ふに人智の發達社會の進運に伴ひ本縣諸般の施設經營中改善を要すべきもの尠なしとせず而して消防機關改良の如き蓋し其の一たるを信じて疑はず然るに本縣消防組を觀るに形式稍々備はると雖も其實質上の完備は前途尙遠なり於是乎展覽會の開催の必要を觀る今や消防の事漸く一般に重視せられ其設備の完整を望むの念愈々深きを致せるの秋に當り諸子宜しく本會の趣旨を體して我消防事業の上に一新生面を開かんことを期すべし一言述べて告辭と爲す

大正三年八月十三日

秋田縣消防義會總裁
正五位勳五等 阪 本 三 郎

式 辭

茲に本日とすし第一回消防展覽會發會式を擧ぐるに方り總裁閣下を始め各位の御臨場を辱うしたるは誠に余の感謝する所なり

惟ふに本會開催の趣旨たる世運の進歩に伴ひ本縣消防事業の上に一新生面を開かんが爲に外ならず然るに幸に有志諸君の熱誠なる同情に依り出品總數四百五十餘點に上り消防上裨益する所鮮少なからずと信ず消防組員たる者本會の趣旨を空うせず研鑽攻究し其の効果を收むるに努力し倍々其の勢望を博するに勉めらるべし聊か一言を述べて式辭と爲す

大正三年八月十三日

秋田縣消防義會々長 川上親俊

第一、消防展覽會出品總目錄

一、縣内出品

番號	品名	數量	出品者住所氏名	所屬署名
一	金具付鷹匠	二	秋田市高井直治	秋田
二	金具付藻布圍	一	同	同
三	防火用藻草	一	同	同
四	三浦式改良刺叉	二	土崎港三浦善吉	土崎
五	トタン屋根破壊器	一	土崎消防組	同
六	越中谷式防火扉	一	同	同
七	水管車模型	一	同	同
八	水運兼救助囊	一	五城目消防組頭	五城目
九	編藻着衣	一	同	同
一〇	藥割器	一	同	同
一一	屋根剝器	二	同	同
一二	防火編藻	一	同	同
一三	梯	一	同	同
一四	山	一	同	同
一五	改良鷹口	一	同	同

第一類 新規考案ニ關スル消防用品

番號	品名	數量	出品者住所氏名	所屬署名
一六	唧筒運搬車輛	一	岩谷消防組頭	本莊
一七	實用輕便鷹匠	一	下郷村消防組第四次	同
一八	水管保護器	一	副小頭佐々木金造	同
一九	カン突キ	一	同	同
二〇	新案マツチ挿入器	一	同	同
二一	輕便刺叉	一	阿氣消防組	角間川
二二	消防專用鷹匠	一	平鹿郡増田町	増田
二三	水止ツツケ	一	湯澤消防組	湯澤
二四	水管應急手當具	二	同	同
二五	カンシキ	一	同	同
二六	輕便カキ梯子	一	同	同
二七	防火簾	一	同	同
二八	防火櫛	一	同	同
二九	壓迫消火器	一	同	同
三〇	應急水管布水	一	同	同
三一	管修繕組真綿	一	同	同
三二	消防被服掛	一	同	同
三三	消防鷹匠	一	同	同
三四	管鉛替口	一	同	同
三五	殘火替口	一	同	同
三六	カン突キ	二	同	同
三七	消防提灯	一	湯澤町	湯澤
三八	大山正式梯子	一	同	同
三九	旗	一	同	同
四〇	筒先係防火器	一	西馬音内消防組西馬音内	同
四一	鐵骨ツツケ製運搬桶	一	同	同
四二	布製堰止メ	一	同	同
四三	糸瓜底紐付鷹匠	一	同	同
四四	足止メ	一	同	同
四五	消防用喇叭	一	同	同
四六	改良修繕水管	一	同	同
四七	改良修繕水管	一	同	同
四八	貯水槽車	一	同	同
四九	組真綿	一	同	同
五〇	急造擔架	一	同	同
五一	火先係携帶器具	二	同	同
五二	水道木管	二	同	同
五三	繩	一	同	同
五四	金	一	同	同
五五	金	一	同	同
五六	擔	一	同	同
五七	高	一	同	同
五八	旗	一	同	同
五九	旗	一	同	同

第二類 現ニ使用セル消防用品

番號	品名	數量	出品者住所氏名	所屬署名
一	筒先係防火器	一	西馬音内消防組西馬音内	同
二	鐵骨ツツケ製運搬桶	一	同	同
三	布製堰止メ	一	同	同
四	糸瓜底紐付鷹匠	一	同	同
五	足止メ	一	同	同
六	消防用喇叭	一	同	同
七	改良修繕水管	一	同	同
八	改良修繕水管	一	同	同
九	貯水槽車	一	同	同
一〇	組真綿	一	同	同
一一	急造擔架	一	同	同
一二	火先係携帶器具	二	同	同
一三	水道木管	二	同	同
一四	繩	一	同	同
一五	金	一	同	同
一六	金	一	同	同
一七	擔	一	同	同
一八	高	一	同	同
一九	旗	一	同	同

出品總目錄

一五二	頭巾	同	下郷消防組	一七六	火防諸入費請拂簿	同	同上第八部
一五三	神天	同	同	一七七	新庄消防組後備役員帳	同	同上
一五四	織製作憑口	同	同	一七八	假上木賣拂證券外書類	同	同上第九部
一五五	水道圖面	同	同	一七九	消防警察規程	同	同上
一五六	組規程書類	同	同	一八〇	被褥	同	同上
一五七	消防組配役人名簿	同	同	一八一	袴	同	同上
一五八	消防組申合規則	同	同	一八二	頭巾	同	同上
一五九	同	同	同	一八三	被褥	同	同上
一六〇	消防組配役人名簿	同	同	一八四	頭巾	同	同上
一六一	消防組規約	同	同	一八五	被褥	同	同上
一六二	消防組規約	同	同	一八六	被褥	同	同上
一六三	消防人數取調簿	同	同	一八七	被褥	同	同上
一六四	消防組細則	同	同	一八八	被褥	同	同上
一六五	火防器具調査簿	同	同	一八九	頭巾	同	同上
一六六	火防器具調假帳	同	同	一九〇	頭巾	同	同上
一六七	消防組記録簿	同	同	一九一	城新組旗	同	同上
一六八	火防組張出役割	同	同	一九二	火防人役割帳	同	同上
一六九	火防規則	同	同	一九三	消防組順列日記	同	同上
一七〇	日誌	同	同	一九四	消防組勢揃	同	同上
一七一	旗持人選舉外數種	同	同	一九五	同組立順列	同	同上
一七二	築館消防組規則	同	同	一九六	消防規則決議案	同	同上
一七三	元町消防組設立	同	同	一九七	館町火防組組織	同	同上
一七四	器械掛外書類五葉附屬	同	同	一九八	消防組組織人名簿	同	同上
一七五	規約運署帳	同	同	一九九	用書綴	同	同上

出品總目錄

二〇〇	聯合消防組申合規約	同	同	二二三	腰帶	同	同
二〇一	火防手續書綴	同	同	二二四	頭巾	同	同
二〇二	制手續調印簿	同	同	二二五	腹當	同	同
二〇三	消防組組織人名簿	同	同	二二六	赤頭巾	同	同
二〇四	消防私見附諸令達	同	同	二二七	赤羽當	同	同
二〇五	隨感隨筆消防小言	同	同	二二八	青頭巾	同	同
二〇六	秋季消防演習假設計畫	同	同	二二九	青羽當	同	同
二〇七	兜頭巾	同	同	二三〇	青羽織	同	同
二〇八	前掛	同	同	二三一	青羽織	同	同
二〇九	水道布設圖	同	同	二三二	青羽織	同	同
二一〇	水道設計書	同	同	二三三	羽織	同	同
二一一	古代火消用胸當	同	同	二三四	床機	同	同
二一二	頭巾	同	同	二三五	袴	同	同
二二三	腹當	同	同	二三六	脚絆	同	同
二二四	袴	同	同	二三七	水利圖	同	同
二二五	脚絆	同	同	二三八	馬口	同	同
二二六	陣笠	同	同	二三九	皮頭巾	同	同
二二七	羽織	同	同	二四〇	蒸氣唧筒寫真	同	同
二二八	皮製羽織	同	同	二四一	御用文字拜領願出控	同	同
二二九	皮製羽織	同	同	二四二	火防方記録	同	同
二三〇	皮製羽織	同	同	二四三	火防方規則並記録	同	同
三二一	皮製頭巾	同	同	二四四	火防方規則並公文書	同	同
三二二	陣笠	同	同	二四五	組頭儀式用服裝	同	同
三二三	同	同	同	二四六	同上出場用服裝	同	同

出品總目錄

二四七	御用文字染抜羽織	一	同	同	同	二七一	水	一	同	同
二四八	鐘樓圖面	一	同	同	同	二七二	火事羽織	三	同	同
二四九	倭組書類	一	同	同	同	二七三	頭巾	三	同	同
二五〇	鳥嘴	一	同	同	同	二七四	前當	一	同	同
二五一	水燭	一	同	同	同	二七五	急救藥	一	同	同
二五二	蠟燭	一	同	同	同	二七六	石炭	一	同	同
二五三	蠟燭	一	同	同	同	二七七	灰汁	一	同	同
二五四	蠟燭	一	同	同	同	二七八	オレイ油	二	同	同
二五五	蠟燭	一	同	同	同	二七九	具眼鏡	一	同	同
二五六	蠟燭	一	同	同	同	二八〇	糊類	三	同	同
二五七	蠟燭	一	同	同	同	二八一	糊類	三	同	同
二五八	手帳	一	同	同	同	二八二	脂類	一	同	同
二五九	水燭	一	同	同	同	二八三	石炭酸	一	同	同
二六〇	高張	一	同	同	同	二八四	硼酸	一	同	同
二六一	印形	一	同	同	同	二八五	アミン油紙	一	同	同
二六二	消防人名簿	一	同	同	同	二八六	グリソリン	一	同	同
二六三	火災豫防注意書	一	同	同	同	二八七	硝酸銀液	一	同	同
二六四	火災豫防注意書	一	同	同	同	二八八	ワセリン	一	同	同
二六五	演習現場隊形圖	一	同	同	同	二八九	撥架類	一	同	同
二六六	演習現場隊形圖	一	同	同	同	二九〇	副木類	一	同	同
二六七	消防水利掛圖	一	同	同	同	二九一	救命袋	一	同	同
二六八	消防水利掛圖	一	同	同	同	二九二	醋酸鉛液	一	同	同
二六九	水利圖面	一	同	同	同	二九三	アンモニア液	一	同	同
二七〇	應援區域圖	一	同	同	同	二九四	甘硝石槽	一	同	同
二七一	大團扇	一	同	同	同					

二九五	赤酒	一	同	同	同	一	炬燵安全格子	一	同	同
二九六	コンニャク	一	同	同	同	二	風呂蓋	一	同	同
二九七	人工呼吸法圖	一	同	同	同	三	風呂蓋	一	同	同
二九八	絆創膏類	一	同	同	同	四	附木及燐寸入	一	同	同
二九九	ボイター液	一	同	同	同	五	水災豫防及衛生手拭	一	同	同
三〇〇	自明治四十年火災度數及其被害統計	一	同	同	同	六	組頭及部長用手斧	一	同	同
三〇一	至大正二十一年火災度數及被害統計	一	同	同	同	七	大森式輕便唧筒	一	同	同
三〇二	一ヶ年間火災燒失戸數郡市別比較表	一	同	同	同	八	輕便唧筒	一	同	同
三〇三	同上火災度數表	一	同	同	同	九	洋燈安全器	一	同	同
三〇四	同上被害額	一	同	同	同	一〇	金馬簾	一	同	同
三〇五	火災原因別比較表	一	同	同	同	一一	安全ランブ	一	同	同
三〇六	火災原因別比較表	一	同	同	同	一二	煙突煤煙防止器	一	同	同
三〇七	消防組未設置町村表	一	同	同	同	一三	繩梯	一	同	同
三〇八	秋田市水道圖	一	同	同	同	一四	火災豫防警報用赤札	一	同	同
三〇九	大正二年度各町村警備費消防平均	一	同	同	同	一五	警火告示	一	同	同
三一〇	大正二年度各町村警備費平均一戸	一	同	同	同	一六	小頭用斧	一	同	同
三一〇	當表	一	同	同	同	一七	大島式足踏ポンプ	一	同	同
三一〇	最近七ヶ年間ノ平均縣内火災度數及	一	同	同	同	一八	四號腕用唧筒	一	同	同
三一〇	其損害額月別一覽	一	同	同	同	一九	雞印粉末消火器	一	同	同
三一〇	消火唧筒設備ナキ消防組	一	同	同	同	二〇	キルフアイヤー殺火粉	一	同	同
三一〇	大正二年度警備費郡市別表	一	同	同	同	二一	輕便消火唧筒	一	同	同
三一〇	秋田市水道市街配水管線路之圖	一	同	同	同	二二	森田式輕便唧筒	一	同	同
三一〇	秋田市水道市街配水管線路之圖	一	同	同	同	二三	森田式ニツケル横口唧筒	一	同	同
三一〇	秋田市水道市街配水管線路之圖	一	同	同	同	二四	同博廻消火器	一	同	同

第一類 新規考案ニ關スル消防用品
並現ニ使用セル消防用品

番號 品名 數量 出品者住所氏名 府縣名
一 火防用復燭器 一 三輪商會 宮城縣

二七一	水	一	同	同	同	木村寅松	福島縣
二七二	火事羽織	三	同	同	同	鈴木伊勢太郎	同
二七三	頭巾	三	同	同	同	小池宇吉	同
二七四	前當	一	同	同	同	弘前警察署	青森縣
二七五	急救藥	一	同	同	同	高西勝三郎	同
二七六	石炭	一	同	同	同	大森種次郎	岩手縣
二七七	灰汁	一	同	同	同	龜井與四郎	宮城縣
二七八	オレイ油	二	同	同	同	野村養作	同
二七九	具眼鏡	一	同	同	同	阿部兼吉	福島縣
二八〇	糊類	三	同	同	同	朝倉辰治	同
二八一	糊類	三	同	同	同	笹中平造	同
二八二	脂類	一	同	同	同	須藤佐之助	同
二八三	石炭酸	一	同	同	同	伊藤京作	同
二八四	硼酸	一	同	同	同	谷山成章	同
二八五	アミン油紙	一	同	同	同	高西勝三郎	同
二八六	グリソリン	一	同	同	同	鈴木仙次郎	栃木縣
二八七	硝酸銀液	一	同	同	同	清水彌七	東京府
二八八	ワセリン	一	同	同	同	火防商會	同
二八九	撥架類	一	同	同	同	京阪唧筒製作所	大阪府
二九〇	副木類	一	同	同	同	火防協會	同
二九一	救命袋	一	同	同	同	同	同
二九二	醋酸鉛液	一	同	同	同	同	同
二九三	アンモニア液	一	同	同	同	同	同
二九四	甘硝石槽	一	同	同	同	同	同

第二類 參考品

重なる出品物の説明

二五	手引水管巻車寫真	一	清水彌七	東京府	三〇	清水唧筒製作所工場寫真	同
二六	消防用バンド唧筒寫真	一	同	同	三一	殺火粉證明書額面	二 堀田商會 大阪府
二七	同上三號形	一	同	同	三二	消防救命之圖	一 松井知事 愛知縣
二八	蒸氣唧筒水功試驗寫真	一	同	同	三三	消防ニ關スル繪葉書	二 同
二九	消防用蒸氣唧筒寫真四號形	一	同	同	三三	消防ニ關スル繪葉書	二 同

第一、縣内出品

- 一、新規考案に關する消防用品 四四
 - 二、現に使用せる消防用品 五二
 - 三、參考品 二一六
- 第二、縣外出品
- 一、新規考案に關する消防用品並現に使用せる消防用品 二四
 - 二、參考品 九
- 合計 三百四十五種 四百八十五點

第二、重なる出品物の説明並其内容

一、機械器具其他ノ物品

口繪第十一圖參照

(第十一圖及第十二圖各號ニ付テハ口繪ヲ參照セラルベシ)

第一號 壓迫消火等

湯澤消防組出品

此等の柄は空洞にて其内に水を満たしてあるから使用に方り上部の蓋を開くと共に發條を振れば下部の嘴の口開き水は自然に迸り出で、穂先を潤はすが故に消火用として卓效あるものである此消火等は平素室内の掃除用に使ひ一旦失火あらば直ちに消火用に供するものであるが其使用方法簡便で價格亦低廉なれば火災豫防用として各戸に一本づゝ備へ付くるがよろしからん

第二號 輕便鍵梯子

湯澤消防組第二部出品

此鍵梯子は一端にある鍵を高所に引つ掛け置き用ふるものにて現に使用せられつゝあるものなり

第四號 分水管

横堀町 小山田八兵衛出品

此管は筒先を二本に分ち兩方面の火焔を防ぎ其効果を大ならしめんが爲め作製したるものである

第五號 消防提灯

(口繪圖解參照) 湯澤消防組出品

迅速機敏の目的に副ふべき消防器具の要求は尤も緊急の事である輕便提灯の如きは蓋し此要求を満たすものゝ一であらう此提灯には燐寸を取り付くる所一定しをり其一端を開くときは抑壓せられたる發條の彈力で自然に蠟燭が飛び出すべき仕掛けとなつて居るから暗夜でも容易に點火することが出來て頗る便利であるし豫備として尙一本の蠟燭を貯へ得ることゝなつて居るから蠟燭が不足して困ることはない

第六號 水管車及唧筒用極模型

岩手縣和賀郡 江釣子消防組出品

車輛を櫓に替へて雪の上の運搬に便にし唧筒を置く臺には轉回機がついてゐるから此櫓を用ふるときは方面轉換が自在で冬期に於ける唧筒並水管車の運搬には最も便利である

第七號 輕便刺授

阿氣消防組出品

重なる出品物の説明

此刺杖は尖端の金具を取外すし得ることとなり居れば金具のみ携帯し火災現場に於て有り合せの木又は竹の先に取り付け使用し得る特色がある

第八號 炬燵安全格子

福島縣若松市外柳橋本 木村 廣 松出品

炬燵の矢倉と爐との間に用ふるものであつて此格子は木製であるから子供等が火傷する虞なく又火の上に格子あることなれば失火を豫防するに適當である

第九號 煙突煤煙防止器

青森縣青森市大町二丁目 田中 平 造出品

圓筒の周圍に圓い溝があつて之に水が入れてあるから煙突から出た火の子が此溝に落ち込む仕掛となり従つて此防止器は完全に火の子や煤を防止するもので取付方は至極輕便であるも使用上亦極めて堅牢なれば普通民家の煙突に取付くるに適當のものである

第十號 風呂竈蓋

福島縣石城郡窪田村 鈴木伊勢次郎出品

ブリキ製のもので風呂の竈口を奄ふ様に出来てを是は出品人が十有餘年間實驗の上製作したもので能く防火の目的を達するのみならず燃料を節約することが出来るから頗る經濟であるし又若し湯が沸き過ぎたときには此蓋を閉づればよいのですと火が自然に消えるのである

第十一號 洋燈安全器

福島縣伊達郡飯坂村 阿部 兼 吉出品

針金でホヤと洋燈の口金とを結び付けて動かぬ様にしてあるから此安全器は火災豫防の目的に副ふことホヤの損ぜざること洋燈落下の虞れなきこと洋燈の爲め何人にも怪我なきこと等の特色があるし價格も僅々五錢である

第十二號 火防用複燭器

仙臺市二日町 三輪 商會出品

此複燭器は金屬製であつて蠟燭の轉落を防ぐ爲め中央に蠟燭オサエを設け又中心には蠟燭を立てる心を造り下部に皿を設け蠟燭の燃焼に従ひ流下したる蠟は心の作用で再び吸ひ上げられ蠟燭に

燃焼と同時に全部燃焼する仕掛であるから普通の提灯に於ける如く蠟燭の蠟が殘留積滯することがないから頗る清潔で且安全である尙此器を用ふるときは蠟を全部燃焼し盡くすから蠟燭の燃焼時間永く頗る經濟である

第十三號

應急水管布
水管修組真綿

湯澤消防組 出品
土崎消防組

火災現場に於ける水管の漏水は放水の力を殺ぐこと多大である故に或は繩を捲き或は手拭にて抑ふるなど種々の應急處置を試むるが如きも尙遺憾の點が少くないから茲に此水管布並真綿が考案せられたので其使用方法簡單で而かも効果は的確である

應急水管布はズック製でネジ釘で止める様になつてゐる長さ五寸位で漏水のヶ所に之を當て、釘で止めておくのである

第十四號

新案燐寸挿入器

横手消防組 出品

此燐寸入れは横手消防組第一部小頭椎名常太郎の考案したもので専ら子供の弄火を防がんが爲めに造られたのである此容器に燐寸を入れ子供の手の届かない所に掛け置くと共に子供が竿、物指し等にて之を突き落さんとするを防ぐ爲めバナ様の仕掛で燐寸箱を此器に固着せしむる様に出來てゐる尙は燐寸の大小によりバナを加減することが出来るからどんな燐寸でも挿入器に密着して落ちることがない本縣の如き子供の弄火に因り出火すること多き地方には最も適切な考案である

第十五號

水管保護器模型

横手消防組 出品

是は平鹿郡横手町齋藤三藏の考案に係るものである木片二枚を以て水管を狭む様に作つてあるから車輪も木片の上を走り水管を傷けることはない凡そ火災に方りては家財を荷車に積み運搬する避難者が多いから十字街路などに延びた水管は住々是等荷車の爲め損壞せらるゝことがある此保

護器は此髪を除かんが爲め案出せられたもので是により保護するときは水管は毫も毀損せらるゝことなくして能く車馬を通行せしむることが出来るのである

第十六號 消防用輕便鷹匠 下郷消防組副小頭 佐々木金造出品

此鷹匠は出品者の考案したるものにて紐を用ふることとしてあるから暗夜にても迅速に穿ち得る様仕立てたるを特色とす尙普通のものゝ區別する爲め外側に消防章を附したり

第十七號 トタン屋根破壊器 土崎消防組出品

トタン葺の建築は現在に於ても少なからざるのみならず將來益増加せんとする状態にあるがトタン葺の建造物が一朝火を失するときは消防甚だ困難にして常に全焼の不幸を免かれない土崎消防組頭越中谷定次といふ人茲に見る所ありて此器を考案したるものにして鉄様の形をなしをり其破壊力強く効果著大である

第十八號 小山田式鳶口消火器 横堀町 小山田八兵衛出品

此消火器は出品者の新案に係るものにして鳶口と容水具の二部に分れ其使用方法は鳶口の一端を容水具の孔に嵌合し鳶口が容水具に固着する様螺子を締め置き鳶口の柄の上端を持ちて水を注ぎかけ消火するのである但し鳶口のみを使用する場合には容水具を取り外すし其發條(容水具に附着小金具を)を腰に引き掛けて携帯するものとす

第十九號 越中谷式防火扉 土崎消防組出品

管槍持は最も火焰に接近して動作せざるべからざれば此防火扉を用ひ活動するものとす

第二十號 貯水槽車模型 土崎消防組出品

運水車又は玄蕃桶等にて唧筒に水を注入する時は勢搖桿手の手を休止せなければならぬ貯水槽車は此不便を除かんが爲に考案せられたので是れに吸水管を投じ使用するのである

第二十一號 要 心 鎌 北秋田郡矢立村白澤 遠藤福次郎出品

是は同地方に消防組設置前中流以上の生計を營む家に於て平素鴨居に掛け置き非常用に具へたのであるが今回之に改造を加へ出品したのである

第二十二號 改良 鳶口 北秋田郡 山瀬消防組出品

従來の鳶口は牽引の用をなすのみにて押倒す用を爲さず本器は此の不便を補はんが爲案出せられたのであつて鳶口と固形のもの柄の尖端に備へあり

第二十三號 護 謨 平 套 土崎消防組出品

火災に方り電線を切斷する必要ありとするも素手にて爲すは甚だ危険であるから此護謨製手套を使用するのである

第二十一圖

第二號 水道 木 管

此木管は由利郡松ヶ崎村水道に使用せられたるものにして松材を用ひ内部を剝り抜き徑三寸位の穴を通し水を通せしむるのである此材料は松であるから安價で出来るし且耐久性に富むから頗る經濟である

第三號 編 藻 着 衣 南秋田郡五城目町 渡邊松太郎出品

是は筒先係又は纏持の着用するもので此藻は燃焼する虞なければ是を着用するときは猛火の裡にても自由に活動し得るのである

第四號 非常 報 知 機 秋田市 木内雜貨店出品

此報知機構成の主要部は押卸、警鐘電鈴、非常報知機(以上口繪第四十四、四十五圖参照)報知受信機(同第四十六圖参照)にして此各種の器械を電線を以て接続し電池及附屬彈條、繼電器等

により働作するものであつて頗る巧妙なる装置である尙ほ本機は連絡電線を利用して電話通信を爲し得るを以て其便頗る多きものなり詳細の説明は口繪に就き爲したれば茲に贅せず

第五號 防火桶

湯澤消防組出品

火災消防の完全なる効果は一に放水猛烈にして且多量なると之れを掌る者の敏活なる動作とに俟たねばならぬされど管槍係は身鐵石にあらざれば朦々たる黒煙燻々たる猛火の前にては充分の活動をなすことが出来ぬ依つて此防火桶を用ひ火煙を遮斷し管槍係の動作に便ならしむるのである

第六號 筒先係防火器

西馬音内消防組出品

此防火器は天幕様に作られたるもので平常梯子に結び付け置き梯子と共に現場に持ち運び筒先係が猛火に接して活動する際火の子焼木瓦壁等の落下に因る危険を防かんが爲め使用するものである

第七號 昇進唧筒

葛西商店秋田分店出品

尙此防火器は水に浸したる後使用するのであるから容易に燒毀することなきのみならず南京米袋の廢物を利用して造りたれば價格甚だ低廉である

第九號 火災方向信號機

岩手縣 米澤消防組出品

此機械は夜間火災の方向を告知する爲火の見櫓其他公衆の眼に觸れ易き高所に設置し置き電氣仕掛にて四個の燈(此四個の燈は着色により東西南北に區別し豫め公衆に周知せしめあり)を點滅し火災の方面を知らしむるのである尙口繪参照せらるべし

第十號 防火簾

湯澤消防組出品

本縣の如き木造家屋多き地では延燒の危険甚だ多く一旦火を失するときはさしたる風無くとも直ちに延燒して見る々々間に五六戸は燒け落ちるといふ有様である防火簾は延燒を防ぎ類燒の虞を除かんがため案出せられたるものでトタン製であるから火災にあり此簾の一端を隣接したる家屋の庇等より垂れ下げ防火壁として消防の力と相俟つて延燒を防ぐのである

第十一號 大正式消防梯子

湯澤消防組出品

此梯子の構造は口繪に詳かなれば茲に贅せず

第十二號 水運兼救助囊

五城目町 渡邊松太郎出品

此救助囊はツツク製のものであつて水運車の代用を爲すと同時に人命救助の用を兼ねるものである
元來水運車は水を満たすに多大の時間を要すると運搬中の振動の爲め幾分水の散逸する缺點あるも此囊は之を水中に投ずれば直に口を開き瞬く間に水は囊に滿つると共に運搬の途中水の散逸すること絶對になし

又此囊は病傷者の運搬に用ひ得るものである即ち救助を要する者階上等にあるときは之を此囊中に收容し豫め付したる綱を以て徐々に下降せしめ其身體を震動せしむることなくして救助し得るのである

第十三號 水止ツツク

湯澤消防組出品

火災消防に際し吸水不足を告ぐる場合に小川等を堰き止め給水を計る必要あること多し水止ツツクは此の目的の爲めに造られたるものにして尙ほ鐵の棒を付しあれば川の廣狭に應じ堰止むること自由である

第三十八號

金具付鷹匠

秋田市

高井直吉 出品
吉田久治

第三十九號

金具付藻布團

同

上出品

此鷹匠の底には針が附ゐてゐるから冬期雪や氷の上で活動するに便利である
此藻布團は使用頗る便利にして火災に際し防火用具として卓效あるものである此藻布團を家屋の上下に張付け水を掛ければ如何なる暴風に際しても大事に至ることなく火に耐ゆること土塀以上である又針金を以て組立てたれば永く使用することが出来る
尚ほ前掲第十號防火簾と對照せられたし

第四十號

消防用藥囊

土崎消防組出品

五城目消防組渡邊松太郎

火災に際し傷病者などの醫療を要する事例に乏しくないが混雜の場合直ちに醫藥を得る能はざる不便が尠くないから茲に此藥囊の考案を見たので此中に急救藥、ガーゼ繻帶等を入れ標旗又は標燈持か或は消防夫に携帶せしめ應急手當の用に供するのである

第四十一號

消防用竹梯子

南秋田郡馬川消防組々頭

館岡千里之助出品

此梯子は馬川消防組頭の考案に係り其の特色は横這りを防ぐにあるのである即ち梯子に縦に棧間繩が附着してゐるから家屋の廂等に梯子を掛けたる際横這りして危険を生ずる虞なし

第四十二號

山

鉋

北秋田郡矢立村

遠藤福次郎出品

矢立村字白澤の周圍は全部國有材にして屢々山火事に遭遇するも山中の爲め防火器具を使用する能はざれば此の山鉋を使用して灌木雜草等を薙り取り迅速に防火線を造るのである

第四十三號

唧筒運搬車輛

岩崎消防組々頭

村上太夫出品

火災に方り山間僻地に唧筒を運搬するは實に難事である此運搬車輛は特に堅牢に造られあると其兩端の間隔甚だ狭ければ之を用ふれば如何なる片田舎の狹隘な道路でも唧筒を運搬し得るのである

第四十四號

ヅック製運搬桶

西馬音内消防組出品

第四十五號

絲爪底紐付鷹匠

同

上出品

此鷹匠は丈夫にして夏より秋にかけ消防夫の屋根渡りに使用し迂る虞なく尙爪掛鷹匠に比し履き易き便あり

第四十六號

足止

同

上出品

第四十七號

金串

川連消防組出品

此金串には細引附屬しをれば金串を屋根等に刺し細引を腰に結び付け屋上を自由自在に駆け廻り消防に盡力するもので或は煙に捲かれ或は猛火に包まれ進退自由ならざる時は細引を傳ひて地上に降下し危険を避くるのである

第四十八號

太ロープ付大鍵

葛西商會秋田分店出品

是は火災により燃焼しつゝある家屋を引き倒す爲めに使用するものとす

第四十九號

義字掛物

秋田市

藤田治助 出品

此二軸は明治天皇明治十四年東北行幸に方り豫め學事視察として來縣したる文部省屬官佐々木高行氏が秋田消防組に書き與へたるもので當時組頭たりし前記治助及吉右衛門が是を消防組の爲め

永遠に保存せんとして秘藏し來つたのである

第五十號 大團扇

龜田消防組出品

右大團扇は巾四尺縦七尺柄の長さ二間にして天和年間（今を去る約三百年前）火災の際火を煽き消す爲め用ひたるものにして大なるは巾一間餘小なるも巾三尺位あり

第五十一號 火災豫防及衛生手拭

弘前警察署出品

此手拭は同警察署の考案にして一般火災豫防及衛生思想普及の爲め製造したるもので汎く販賣又は贈與する由なり

第五十二號 大森式輕便唧筒

岩手縣 大森種次郎出品

此唧筒は使用手輕なれば應急消火器としては最も理想のもので放水量は一分時間約一斗に及ぶ尙本器は消毒撒水の用にも適し使用後は下部の栓を開きて排水するのである

第五十三號 輕便唧筒

宮城縣本吉郡柳津町 龜井與四郎 野村養作 出品

此唧筒は水壓の抵抗充分にして噴水力三丈五尺以上に及ぶを以て防火は勿論家屋消毒又は園藝等の用に供し有效なると加ふるに吸口徑一寸二分放口徑二分の細管なれば女子供にても容易に使用することを得尙其價格低廉である

第五十四號 佐藤式安全洋燈壺

青森縣 笹 巳之松出品

此壺は堅牢無比にして如何に顛落するも破壊の虞なし而して玻璃製であるから金屬製油壺の如く壺下の暗きことなく石油の注入にも便利である

第五十五號 繩梯子

川連消防組出品

是れは明治十四年川連消防組編成當時の製作に係るものであつて梯子の上部にある木串を屋上に

刺し置き昇降に使用するのである

第五十六號 火災豫防警報用赤札

青森縣 伊藤京 作出品

此札を受けたるときは左の事項を直に執行すること

- 一、火氣の取扱を一層注意すること
- 一、天水桶又は手桶等に水を容れ軒先に出し置くこと
- 一、溢に焚火せざること
- 一、火の番を嚴重にすること

此札の表面には風力強し火災豫防上警戒すべし

此札は最終に受けたる者より火災豫防組合長に返戻すべしとあり

右は火災豫防警報用赤札にて凡そ暴風の際は弘前警察署より火災豫防組合長に對し警報を發することとなつてゐるが組合長此警報を受けたるときは組合員に注意を喚起せしむる爲め順次隣家より隣家へ迅速機敏に此赤札を回送せしめ火災を豫防せしむるのである

第五十七號 大島式足踏唧筒

栃木縣 鈴木仙次郎出品

此唧筒は全部鋼鐵製にして防腐劑を塗抹しあれば堅牢無比にして腐融破損の憂なく數十年の使用に耐へ加ふるに體裁甚だよろし

此唧筒の使用法は鐵製踏板上に乗り片手に筒先を取り片手の把手を握り交互に踏むものとす

此唧筒の水勢は七十尺に及び間斷なく噴水し一分間三石以上を噴出す又之に噴霧器を付すれば夏時の撒水又は室内消毒用に適す

第五十八號 四號腕用唧筒

東京 清水彌 七出品

此腕用唧筒の特色はピストンか玉製なる爲圓筒の昇降を滑らかにし磨損の虞なきと蓄水管に二個の活栓ありて残水排泄に具へたるとにあり南秋田町太平消防組に於て此唧筒を金百三十五圓八十

錢にて購求したり

第五十九號 殺火粉

大 阪 堀 田 商 會 出 品

此殺火粉は防火用として卓效あるものにして其使用法は容器の下端を握り強く引き罐の口を開き内部の粉劑を火焰の下部に向つて投げ掛くるのである

第六十號 輕便消火唧筒

大 阪 京 阪 唧 筒 製 作 所 出 品

此唧筒は構造堅固にして永年の使用に堪へ得るのみならず藥品の力による消火器の如く腐蝕又は危険の憂なし其注水には經二分五厘昇騰力五十尺以上に達し三分間一石の水を注出し防火用のみならず平時道路屋上庭園等の掃除用農業用傳染病消毒用等にも使用せらるゝものである

第六十一號 繩

福 島 縣 朝 倉 辰 次 出 品

此繩の馬簾は白色の革を以て造られ纏頭は櫻花に形取り金泊を塗り加ふるに金モール製の馬簾二條を付したれば頗る美麗である由利郡平澤消防組は開會早々此繩を金三十圓にて購求せり

第六十二號 森田式輕便唧筒

火 防 商 會 出 品

此唧筒は輕便を旨とし女子供にても容易に使用することを得るものである其筒身は鉋金製ニッケル鍍金にして長さ四尺三寸、放水口は徑三分にして放水距離八間以上に達し一分間に於ける放水量は約四斗にして防火の效力偉大である而して從來の輕便唧筒に比し特色とする所は管槍が器の上部にあつて上下左右自由自在に廻轉し得る點と長さ約三尺の護謨製吸管が器の底部より約一尺の處に取外し得る様装置しある點とである従つて意の如く放水し得るのみならず適宜の水利を擇みて吸管を投じ置くことが出来るのである尙此器の底部の木葉狀鐵片は足にて踏み付くる爲めのものにして從來手にて把持したる勢力を省く故大に活動力を増すのである

第六十三號 消防被服掛

湯 澤 消 防 組 出 品

出火に際し消防員をして迅速に出場せしむるは尤も緊要の事にして出場の遲速は防火上大なる關係のあるものであるから消防員をして平素より被服を調へ置かしめ以て非常の際に敏速の上にも敏速を期せしめなければならぬ此被服掛は普通の洋服掛を改良したるもので能く此目的を達するのである尙材料には針金を用ひたれば價格低廉である現に湯澤消防組は各組員に之を配付し消防被服を散逸せしむるが如き不都合なからんことを期してゐる

第六十四號 扁平殘火替口

湯 澤 消 防 組 出 品

火災鎮火後殘火の處置は尤も苦心すべき處で殊に烈風にて火の子飛散する場合に於て然りであるされば普通の管槍による放水は却つて火粉を飛ばすのみならず效力一局部に止まるの不便あれば本器は此缺點を補ふ爲め使用するもにして管鎗口に扁平な金屬片を附着せる爲是れを用ふるときは放水の射力を稍緩和するから火の子を飛ばす虞なく且放水は扁平であつて約三十五尺の距離に達するから消火の力甚だ大である

第六十五號 竹 長 持

土 崎 港 町 遭 難 救 護 會 出 品

此長持は火災其他の事變に當り家財運搬の用に供するものである
遭難救護會は此他種々の出品をなし其數十個に上れり抑土崎遭難救護會は明治四十二年八月十五日土崎港町本山町越中谷定治外數名が遭難者を救護する目的にて設立したるもので會長一名、副會長二名、會員二十七名より成り會員は會費として毎月五錢つゝ醸出し諸般の費用に充て居たるが明治四十五年以來毎年金五十圓つゝ町の補助を受けたるを以て茲に漸く會員に應匠足袋を給し併せて諸般の器具を準備するに至つた而して今回展覽會に出品したるは其備付器具の一部である今土崎遭難救護會の活動の最も目覺ましきものを同會の記録より拔萃すれば次の様である
一、明治四十三年六月七日より同十四日迄當港へ軍艦三笠艦寄港の際觀覽の爲め秋田中學校生徒端

艇にて消き来りしに土崎河口に於て轉覆遭難せるに際し即時出場し生徒三名の死體搜索に従事す

一、大正三年五月三日土崎鐵工場内より出火の際出場す其他火災の爲め出勤數二十七回に上る

第六十六號 消防巡廻簿

湯澤消防組出品

湯澤消防組にては火災警戒を嚴重にせざれば災害を未然に豫防する能はずとし組員は警察署長と協議の上毎夜十一時より翌午前三時まで各部より(湯澤消防組は第一部より第三部まであり)消防手一名づゝ出し義務巡邏を爲さしめたのである而して各町(二十三町)に此消防巡廻簿を備へ置き巡廻したる消防手に認印せしめ正確に巡廻したることを證明せしむると共に組頭以下の役員には監督巡視を爲し認印したるものであるが實行後未だ一回だも夜間の火災を見ないのは全く此計畫實行のお蔭である

第六十七號

警 火 告 示

青森縣下北郡川内村長 谷 山 成 章 出品

是は火災豫防の爲出品人が特に印刷に付し村内各戸に配布したるものであるが興味あれば左に之を掲げん

警 火 告 示

火の元取締に就ては、かねて注意してある通り、年中心掛けてゐねばなりません、春秋の風荒むときはことに大事なことです鳥渡家一軒やくといふと、二千三千の金が煙になります昔羅馬のアリストテレスといふ人は、「我は人なり人間の事とし聞けば善きも悪しきも餘所事とは思はれず、そゝろに我心を躍らしむ」といつたやうに私は曾つて火災に罹つたので火事があつたと聞けば近くても遠くても、直ぐその時の苦痛が胸を衝きます、ことに火の用心許りは誰も彼も一致せねば駄目です、左にかゝげてある一ツトセ節は、俗な語ではあるけれども、をんなや子供でも理解しますから、よく見える所へ貼つて置いて、皆んなが一つ心になつて用心せねばなりません

せぬ

大正三年三月三日

○火の用心一ツトセ節

- ▲一ツトセ 火の元大事にうちまもり、不時の騒ぎを出さぬよに、たがひ／＼に氣をつけよ。
- ▲二ツトセ 風呂場の屋根うら掃除して、火の粉が飛んでも附かぬよに、必ず火の笠さけておけ。
- ▲三ツトセ 水はいつでもあるやうに、池や堰へも引き入れて、火事の用意にするがよい。
- ▲四ツトセ 夜は燈や風呂の火を、よく消やしてやすむよに、必ず皆んなが氣を付けて。
- ▲五ツトセ いつでも石油は土間におけ、早くランプは掃除して、石油に火の氣を寄せぬよに。
- ▲六ツトセ 庭物置その外に、必ず提灯わすれるな、燈明つけたら始末せよ。
- ▲七ツトセ なんは燃えても石油の、火には水などかけぬよに、砂や土でも消えますぞ。
- ▲八ツトセ 屋根には天永たくはへて、薬の水箒そへておき、不意の場合に備へてよ。
- ▲九ツトセ 炬燵の粗忽から家をやき、子供を焼いたるためしあり、金網かけるが安泰ぢや。
- ▲十オトセ 取り灰置場をよくふらび、薪やわら乳種物置を、遠く離しておくがよい。
- ▲十一トセ いづれ火災は不注意と、油斷がもとにて起るぞよ、すこしも油斷はしてならぬ。
- ▲十二トセ 日中はもちろん夜中にも、焚火をするなら傍にゐて、外出を第一氣をつけよ。
- ▲十三トセ 寒いからとて子供らに、外で焚火をさせぬよに、これが自然のならばしぞ。
- ▲十四トセ 柴やかんながら藁屑は、かまどとゐるりの傍らに、必ずおいてはいけませんぞ。
- ▲十五トセ 子供にマツチや投げ玉や、その他おもちゃの花火など、危険ものだよ氣をつけて。
- ▲十六トセ 論より證據硝子製の、油壺をば使ふまい、落せば必ず火事となる。
- ▲十七トセ 直に火鉢をかさぬな、熱さむるまで並べおけ、物を火鉢へかけまいぞ。
- ▲十八トセ はだか火吹殺火事のもと、火の粉がちらける火がおつる、風にその火があふがれて。
- ▲十九トセ 國の寶も時の間に、灰となるのも火事の爲め、地震雷火事親父。
- ▲二十トセ 日夜心にかけおいて、火事は決して出さぬよに、皆さん火の元御用心。

重なる出品物の説明

二、消防用装束

出品せられたる消防用装束の内には維新前の使用に係るものあり其後の使用に係るものあり維新後に使用せられたる装束に付ては特に説明する必要なく維新前使用に係るものに付ては口繪石版の部に圖解説明したれば更に茲に贅せず

三、火災記録并消防關係書類

(イ) 維新前の火災記録並消防關係書類

出品せられたる維新前火災記録並消防關係書類の中にて或は往時の大火の好箇の記念品にして一讀坐るに當時の慘憺たる光景を追想するに足るものあり或は往時の消防制度の一斑を窺ふに足るものあり興味津々たれば左に之れを抜萃掲載せん

第一號 寛延御火消方御用書留

此書物は今去百六十三年前佐竹藩士三枝仲の手に成りたる火消方の記録にして甚だ珍らしきものなり

本文中口印あるを蝨蝕して書體判明せざるに由る

秋田市 東山多三郎 出品

寛延四年未九月廿日

一 去年江戸表に而私共御内々に申上候者火事消御道具之内龍堂水と申物御拵等有之三四挺も出来申候得者御防ぎ御益々相成候得共此時節年寄共へ私共申談候而も中中相成兼候儀と奉存候依之

御下國之上大木屋に而御在物に而御拵爲致可申奉存候其御思召をも被仰出候様仕度奉存候段内々申上候所に左候は、御下問之上早々大木屋等吟味可申旨御意に御座候仍而御供に而罷下大木屋役近藤喜兵衛杯えも申渡内々御拵等之儀爲積候而見候所に此方に第一椋の木無之候而御拵出来兼申候仍而喜兵衛杯申候者椋の木上方より御下し御拵等に候得者大方一挺四百目位に出来申候新規上方へ被仰付候得ば壹挺是又四百目位に而相下り候由申聞候事則同役共へも右之段相談仕候而申上候者江戸に而申上候龍堂水之儀此方に而御拵に而者却而御物入にも相成候兎角上方より御下し之方御益之段申上候然者火事防も御用にも相成候事故御意之趣年寄共へ申談候而見可申由被仰出當夏中同役又左衛門長右衛門仲御年寄中御列座え罷出候而御意之次第申渡候所に何邊御財用奉行杯えも申付候上御請可被仰上旨御申故其段御前にも申上置候

一 四五日過候而仲御年寄中御局え御催促被仰上候は先日被仰出候龍堂水四挺上方え御拵申付指遣候間此旨御請に申上候様年寄中御申に付則御前様え罷出候而申上候所に御領に而在之候私共迄大悦仕候段申上候而相濟

一 近日御火消方御用に取掛候に付定物書丹生喜八郎壹人に而は相成兼前々より加勢物書壹人申付候に付組頭共へ申渡齋藤甚十郎御火消方世話役等數年相務候而功者故加勢物書申渡候

一 此間より御火消方御用金之間に而取掛り候に付右御座鋪並御用箆筒等指上候並御火體たばこ盆共に御掃除坊主共指出候様に兼而被仰渡被下度御用人中に前以廉申談候尤御用箆筒も御茶屋口より金之間迄毎度之通り坊主共に指上候様被仰渡被下度旨申談候而指置候

一 九月廿六日今日より同役又左衛門長右衛門爲申合候而御火消方に取掛り候に付四ツ時より登城致候物書兩人ともに罷出候御用箆筒は仲と長右衛門方より指上御茶屋口より坊主共指上候金之間役所に持參致候火體炭之儀は御臺所役へ私共罷越右御用に而請取候間坊主共參候而請取候は、

被相渡候様對談致候而爲請取候事

一先づ當分御用之紙墨筆之儀御膳番江申斷候而は今日より御火消方御用に取掛候に付毎度之通御茶屋より請取候段申談候而物書御膳番局へ指遣候而爲受取候事
今日先づ左之通爲受取候

- 一 大 施 五 帖
- 一 半 紙 壹 束
- 一 卷 紙 三 本
- 一 筆 二 對
- 一 墨 貳 挺

此末御用入り次第前々方より請取候事

同十月十日

一今日御火消方御用私共三人御窺申上度旨申上候所御納戸え罷出候様に被仰渡三人共に罷出候而申上候者御火消方去年中之通り上野並に淺草同増御火消共御相圖並御條目等共に外に思召にも無之候哉左候は、段々清書等に取掛り候而出來次第當年中にも御物頭共始御圓印奉行共も可申渡旨申上候所に外に去年中之通思召も無之御相圖等も先少々思召も可在之候得共先當分右之趣に仕立候様に御意被遊候段々去年中御相圖御條目共に上野淺草増御火消共に三通り心掛持參仕候而御伺申上候所左之通被仰出候左候は、段々出來候上は御覽にも入置可申旨申上置候
一御序而私共申上候は去々年中より毎々被仰出候御 事等も被相止候而不被仰出候然者右御細事は明年一通り被差出候而可然御義に奉存候第一前々罷登候者杯は格別兎角御手配り之儀は御細事能々拜見仕不申候而は御手支に相成可申候別而明春は初心之ものも多く御座候事故被指出候

而可然旨申上候所に左様に可致旨被仰出候左様に御座候得者御馬廻之者共に兼而評議御手支等之儀も申合指置候事故御手支等も宜敷可在之奉存候仍而御細事も一通清書爲致候而御覽にも入置候筈に致相談候

一右御窺相濟候事故今日上野淺草御増火消御書付左之通御祐筆に爲書候而近々指上候様に大小姓頭荒川筑後に申渡候而下書相渡申候

- 一 上野御役場櫓御相圖 一 冊
- 一 上野御役場防御用掛馬面々え被仰渡御條目 一 冊
- 一 同惣御人數に被仰渡御條目 一 冊
- 一 増御火消之節御相圖 一 冊
- 一 同駄馬之面々え被仰渡御條目 一 冊
- 一 同惣御人數え被仰渡候御條目 一 冊
- 一 櫓張出し御増火消御役場共 二 本
- 一 御厩張出し 一 本
- 一 屯小屋張出し 一 本

此外は此方御書物に御細事御行列帳等は爲相調候事に御座候
右之通今日見拔候而相渡申候

同十四日

一昨十三日又左衛門長右衛門仲揃罷出御年寄中御局へ罷出候而申上候は明春御火消御道具御拵段々當暮より御修覆物等御拵不仕候得は罷成不申候其上近年迄無理成 御繕計致指置候事故別而明春は新規御拵も多く有之候段江戸同役源四郎方よりも申遣候仍而彌々明春御役場御心掛に而

重なる出品物の説明

御拵可致旨被仰候仍而近日源四郎方にも可申遣申合候
 一昨日御年寄中私共へ被仰談候は此間御前より被仰出候は去々年中御減少被成置候朱本筋組御
 人数又々被立置度旨被仰出候然者段々被仰出候儀御尤千萬に奉存候得共第一去々年中此方より
 も御檢之儀申上候處に御聞濟之上御手元より右御人数も不少被立置候昨今被仰□□間□□□
 又候被立置候儀何共□□相障り候儀有之候其上御物入にも相成候事故被仰出候趣に難相成仍而
 近々相成兼候段御年寄中被仰上候然者拙者共御火消方か、り之事故此段被仰知候萬一御前御尋
 等も候は、此旨申上候様に被仰候委細被仰合候趣承知仕候萬一御尋等も御座候は、被仰知候趣
 可申上旨私とも御挨拶致候

同十月二十一日

一御用所より同役又左衛門仲御催促に而罷出候所 年寄中御局に而御列座に而被仰合候は此度朱
 二本筋組御人数従前之通り被立置度旨被仰出候得共此御時節之事故相成兼候様に手前共可申上
 に付此間各々方にも内々其段申談若御尋に而候は、其趣申上候様猶又各方御火消第一之勤之
 事故然心得御尋も有之べく哉と申談候所に又候御用人御膳番を以被仰出候は右二本筋いか様に
 も已前之通り不殘相成兼候は、全體御人数少々にも被成候而御武頭壹人被指登候而百之御人数
 に候も其内半分位にも被立置度段被仰出候仍而是又□務之儀に而全體去年中□無理成儀申上候
 而去々年中計り御減少之趣にも申上候而御減少之事故御尤之御儀に奉存候故若上野御役場被仰
 蒙候は、半分程に被遊候而被立置候様に御請申上候尤淺草御藏に而は御場所も違候事故是は不
 立置候筈に御座候兎角いか様とも二本筋被立置候間左様に相意得各御火消之儀はか、り之事故
 猶又御人数等之配り致候様に被仰談仍而私共御年寄中に申上候は然は以前朱二本筋組之儀者御
 人数難兵百人程に而御座候左候得者如何程之御人数積りに指配り御前にも可申上候哉と申上候

所百之物に候は、七十位にも相成候得は能く御座候御物頭も壹人被指登候筈に被仰出候由御年
 寄中被仰候御圓印奉行は江戸に而被仰付候趣に被御談仍而私とも申上候は左様に御座候は、尙
 又相談致候而御人数配り等指考ひ可申段申上候猶又御年寄中被仰候者御用人半藏御膳番左中杯
 にも御取合候而何分にも各御人数配り之儀相考候様に被仰候左候は、兩人へも取合御人数配り
 等致候而御前も申上猶以各様方えも可申上よし申上候

一右之通り之事故則同役相寄候而相談致候而ケ様に被仰候而可然哉と一冊御行列帳御人数配り共
 に致候仍而同二十三日長右衛又左衛門仲四ツ時より登城致候而鈴木平藏大島左仲えも取合段々
 年寄中被仰合候儀も在之候故ケ様にも御人数配り可在之哉と私共指考候而御行列帳御人数配り
 共に致候趣申談候所に兩人中心程各方御考之通り此上有之間敷被申候依之今日右御人数配り御
 行列帳共清書致候而御納戸へ私共三人共に罷出而段々此間年寄共申合候次第とも申上候てケ
 様に可有之哉と委細に申上候所に大方此通りにて可然被思召候乍去能々御覽被遊候而御思案も
 可被遊旨御意被遊候

右御行列帳御人数配り左之通

朱二本筋組御行列帳

- | | | | |
|-------|-----|------|------|
| 圓印高挑灯 | 御圓印 | 中間壹人 | 階子印 |
| 同高挑灯 | 御圓印 | 肩替 | 高挑灯 |
| 四間階子 | | 自分紋 | 同高挑灯 |
| 圓印奉行 | | 水高印 | 同手挑灯 |
| 同水溜籠 | | 内二小籠 | 同手挑灯 |

菴貳拾枚に相成候事付札に而直し事御足輕貳拾貳人に相成候所小者拾人に相成候事同茶せん竹
 重なる出品物の説明

止候事直し可申事

丹後籠壹組

水手 中 間

茶せん竹

箕拾枚

庭拾枚

小者局頭壹人

手挑灯

世話役手二付

高挑灯

同世話役御步行

足輕

足輕小頭自分紋

同同同同同同

同同同同同同

拍子木

同同同同同同

高挑灯

手掛灯

武頭

右御人數配り

内壹人御武頭

内壹人御圓印奉行

一騎馬貳騎

但し壹人上下八人宛

一御步行貳人

世話役

一御足輕拾七人

内小頭壹人

内二人御圓印持

一御中間三人

同一人水手裁判

同一人御屋頭同五人

一小者貳拾五人

同一人手明小者同壹人

同二人部屋頭同二人

雜兵合六拾三人

同二人同二人同二人

同二人同二人同二人

右之通御行列帳は帳面にて指上候御人數配り之儀達にて而申上候

御道具覺此方控

一御圓印

壹本

一四間階子

壹挺

一小旗

貳本

一水溜籠

一通り

一丹後籠

一組

一釣瓶

貳本

一箕

拾枚

一蕨

拾枚

一茶筥

七本也

同十月二十四日

一昨二十三日御前指上候通りに朱二本筋組御行列帳竝に御人數配り一冊相調候而御年寄中御局

へ私共三人罷出候而御行列座へ申上候は朱二本筋組之儀過日被 合候通り大方右之御人數積り

に致候而御前にも昨日指上申候所に御思案可被遊旨被仰出候仍而右御帳面各様方へ御覽に入置

候壹冊御年寄中へ指出候所被見候而隨分之御人數配りに而御座候由御披見之上右御帳面御返し

被成候

同月二十五日

一今日御火消方御用に付又左衛門長右衛門内催促致候而御前に罷出候様々被仰出候仲事當番にて

則長右衛門方へ申遣候間長右衛門揃候而御前へ罷出候於御納戸朱壹本筋先日私共指上候御帳面

之儀又々手明小者御足輕等御ふやう其外頭々御人定等被仰出候而右御帳面先づ拙者共え御付札

等被成置候而被相渡申候

一今日御年寄中御局より御催促に而罷出候所に澁江宇右衛門殿御月番に而被仰候者先頃被仰出候

龍堂水京都那珂忠兵衛方迄四挺御拵之儀申遣候所に段々龍堂水大中小之注文外に龍堂水と申火

重なる出品物の説明

消道具御利用之註文も指遣申候間何れに御伺申上候而龍堂水大中小之御望も可在之其外龍堂水に而も被仰付候儀も可有之候間右忠兵衛方より參候注文御覽に入御伺可致旨被仰候仍而則御納戸え罷出候御伺申上候所在候は、龍堂水先四挺之内二挺大に而御拵可被仰付候間早々忠兵衛方に可申遣候龍生水と申ものは又右利用竝仕掛様共に能々承りに遣候様注文被下御覽に入置可申候其上に而跡之二挺龍生水に而も龍堂水に而可被仰付候間早々其段申候様こと仲を以御寄申え被仰出候仍而右之京都へ參候注文者寫し候而指置本書は御年寄申え相渡し申候

龍堂水直段附

- 壹 番長サ三尺九寸 高サ 一尺七寸 代銀六百三十拾目
- 二 番長サ三尺六寸 高サ 一尺六寸五分 代銀六百六拾目
- 三 番長サ三尺二寸 高サ 一尺六寸 代銀五百目

右之通極上に御座候右之寸法被下直々拵も仕り差上申候御用之節者御詔被遊可被下候一龍生水之義は御用次第大小を以直段相極め申候御用之節隨分下直に仕立指上可申候以上

大坂阿波座細工人 田中源右衛門

京都龍吐水寸法

- 大長四尺五寸 高二尺一寸
- 但し車仕附
- 小長三尺七寸 高二尺車なし

右書附平本才藏殿より相渡申候前條有之候通寫し取候繪圖左之通

十一月五日

一今日御火消方御細事竝に惣體御相圖迄不殘出來致候に付私共三人罷出候而御前え指上御細事等

之御手配り等置候様被成に申上候所に於御前御納戸に而御直に御指圖御座候而御馬廻り御細事御人割等被仰付候而相直し申候其上に而能々御熟覽被遊候而御返可被通旨被仰出候隨分指上候通りに而可然被思召候
御前え今日指上候御書附左之通

覺

- 一 御増火消之方 一通り
- 御行列帳 一通り
- 櫓御相圖 一通り
- 火消方惣人數に被仰渡 一冊
- 増御火消御細事 一冊
- 同御歩行より末え被仰渡御細事 一冊
- 一 御役場之節
- 上野淺草御行列帳 一通り
- 櫓御相圖 一通り
- 騎馬之面々え被仰渡 二冊
- 上野淺草火消方惣人數え被仰渡 二冊
- 御役場上野淺草御細事 二冊
- 外に
- 御火消方御了簡働思召被仰渡 一冊
- 櫓張出し 一本

重なる出品物の説明

厩張出し
屯小屋張出し
右之通指上申上候

一本
一本

右者皆々御祐筆所に而張出し並被仰渡御書附相調候事に候得共御祐筆手合も無之事故御増火消騎馬の面々え被仰渡其外張出し之分計爲書申候而其外は此方物書に爲相調候事元來此方に而者御細事御行列帳計相調候而外は御祐筆所に而爲書候事に御座候

同 七日

一同役長左衛門方に而御用寄合罷在候所に急々兩人爲申合罷出候様御催促に付又左衛門仲罷出候所に御納戸え被爲召候而此間差上置候御火消方御書附不殘御披見之上此度被立置候朱二本名目輪違組等に被成置候儀被仰合候而右御用相濟候

同 十日

一今日拙者事當番に而罷在候所兩人揃候而可罷出旨被仰出候に付長右衛門仲罷出候所に御納戸に先日指上置候御火消方御書附御相濟候而御細事御人數割等御付札にて役割等被仰出候外御細事之内にも少々思召在之候而被仰出候皆々御書付惣體下ヶ置候今日被仰出候分直し候は、又候御覽に入置候様に被仰渡候其外は随分宜被思召候段被仰出候

一今日御序而に朱二本筋組之御足輕之所え相立候高挑灯去々年一張御減少被成置候所に一張に而殊の外くらく御座候而は人數も見得兼候に付其節も何も御武頭共願も申上候得共御聞濟無御座候何卒一張之事故被指出候様に仕度候一張之事故被仰出候趣を以年寄共へ可申談候哉之旨年寄共へ可申渡旨被仰出候仍而今日御休日故明後十二日御用御座候而可申談申合候事

同 十二日

一今日四ツ時又左衛門長右衛門仲登城致候而一昨日被仰出候朱二本筋組御挑灯一張増被置候儀御年寄中罷出候而御意之段申談候處に御尤之御儀奉畏候旨御年寄中被仰上候に付其段則罷出申上候而右御挑灯立方等之儀も御伺申上候所に御足輕之中え相立候様に被仰付候而右之趣相濟申候

同 十三日

一今日同役又左衛門御催促に而御年寄衆被仰渡候は此度被仰 候は明年上野御役場被仰蒙候得は彌々朱二本筋組御人數被立置候段被仰渡候御跡登御歩行之儀も相心得候様に被仰候
一今日私共三人揃候而御年寄中に局え罷出候而明年御供山方内匠殿え申上候得者御火消方被仰渡御書付も惣體出來候段申上候仍而前々御覽に入候惣御人數え被仰渡候已前之大御條目之代り惣御人數え被仰渡御書付一冊此度段々私共え被仰付候而御文言等相直り候分御増火消之節二冊同御役場被仰蒙候得者被仰出候上野淺草之分二冊宛御覽に入り候彌々御熟覽之上近日惣體御火消方か、り之ものえ被仰渡候御日限御極其上にて私共を以御前え被仰渡候儀御伺被仰上候而被仰渡候様に仕度旨申上候御承知之由にて右御書付者御熟覽之上委細惣體え被仰渡候儀も可被仰旨御申にて御座候

一今日御序に御年寄中へ申上候は昨日被仰渡候朱二本筋組被立置候儀は御武頭え御足輕之儀御中間頭えは御中間之儀渡部善右衛門えは御馬割可在之儀故被仰渡候而可然御儀に御座候御足輕御中間等御人數割之儀は私共へ問合候様に被仰渡可然御事に申上候

一今日御年寄中に申上候は此度被立置候朱二本筋組名目者輪違組名目を朱二本筋組に被成置候而唯今迄之輪違御人數者直々朱二本筋組御人數に被成置候此度被立置候朱二本筋組御人數者輪違組御人數者輪違組御人數に被成置候旨被仰出候段爲御知申上候

同 十八日

一當十六日金之間え罷出候節御物頭眞崎長右衛門罷出候而朱二筋組明春上野御役場被仰蒙候得者被立置候段被仰渡候御足輕御人數等之儀各様へ承合候様に被仰渡候由申聞仍而御足輕人數左之通書付候而相渡候

覺

一御足輕

二十二

内壹人小頭

同壹人世話役手付

同二十人平御足輕

一御中間頭田所彌三郎儀も右之通り被仰渡候由にて罷出候故左之通書付相渡候

覺

一御圓印持御中間

二人

一水手御仲間

一人

右之通相渡申候

一寶曆二年正月十四日御用所に御催促故罷出候所に御財用奉行平元茂助申聞候は先達而被仰付候而上方へ龍生水と申御火消御道具拵方右御利用共に那珂忠兵衛方に申遣承り候而可申上旨被仰付候右申遣候所に此度那珂忠兵衛方より申遣候は尤御利用に者相成候御道具に者御座候得共中々愈々御用立候儀も相成不申其上川杯え仕掛候道具故急に火事之御用に難相立旨申來候故仍而注文等も相下し申不旨申遣候此段被仰上候様に御年寄中被談直々拙者各方へ得御意様に御年寄衆御申之由に而申談候仍而仲於御納戸委細に申上候所に御聞届被遊候左候は、秋中年寄共龍起水四挺指下候筈之所に先二挺被仰付残る二挺は龍堂水之注文次第に可被仰付候左候は、今二挺

龍堂水早々申遣都合四挺に被遊候段年寄共へ可由渡被仰出候故則御年寄中御局へ罷越候而上意之段申渡候所に畏候段御請被仰上候尤先達而被仰付候龍生水は御參府前江戸表え相通り候筈に御座候外二挺は唯今申遣候故御參府已後御間も可有之大方五六月之頃には江戸表え相通可中旨に御座候此段も御内々申上候

三月二日

覺

御役場之無節

一銀拾貫五百目手明小者三拾五人壹ヶ年御給但壹人壹ヶ月貳拾五匁之積り

一同八貫四百目右三拾五人壹ヶ年御給但壹人壹ヶ月貳拾目之積り

前拾貫五百目より引残り銀貳貫百目外に

一銀三百五拾目被渡下候鼠色半てん三拾五ノ代但一ツニ付拾匁之積り

〆貳貫四百五拾目御徳料

御役場有之節

一銀拾九貫五百目右小者六拾五人壹ヶ年御給但壹人壹ヶ月貳拾五匁之積り

一同拾五貫六百目右六拾五人壹ヶ年御給但壹人壹ヶ月貳拾目之積り

前拾九貫五百目より引残り銀三貫九百目外に

一同六百五拾目被渡下候半てん六拾五ノ代但一ツニ付拾匁之積り

〆四貫五百目御徳料

一銀三百目右小物壹人分拾二ヶ月但壹ヶ月貳拾五匁之積り

一金三兩壹歩三匁右同人御扶持拾貳ノ月分但壹石九斗八升之代壹日壹人ニ五合五匁積り

重なる出品物の説明

右貳筆合八兩一步三匁

但米相場一兩に六斗積り金壹兩六拾目替にして

右之通御益筋も有之候事故御年寄中えも御内々相役中えも申談候而小組之様に相成候筈に相極申候

一 四月三日仲長右衛門御伺申上候は此度手明小者に被成置候に付名目手明小組と可申候哉立場札も小明小組と相印可申哉之段御伺申上候處に尤手明小組と此末可申唱被仰出候向々へも被御合申渡候

一 出火之節以前被仰出候通り御馬廻り之ものへ手挑灯被持置可申哉之段申上候處に左様に可致被仰出候向々へ左之通申渡候大小姓方へ貳張表御小姓壹張御假小姓へ壹張大番へ壹張都合五張御茶屋より受取候様に申渡候御役場有之候得者前々拾張に相成候御役場無之節は右之通御座候

一 四月二十六日此度小組小頭被立置候に付角繫組輪違組小組拾人之外に小頭御行列に被立置候等仍而此段年寄中に私共を以被仰出候並右小頭に波羽織被爲着置候香圖紋付け濃茶波裾に白く碇模様波付置候筈に被仰出其段則小道具役へ申渡新規御捨御財用奉行へ申立候仍而右之趣世話役御步行共へも内々申渡候而指置候

一 五月朔日此度小組小頭被立置候に付角繫組輪違組小組十之外に小頭御行列に被立置候等仍而此段年寄中へ私共を以被仰出候並右小頭へ波羽織 火鎮候而御人數引取り申候御人數罷歸消口之次第申上候火事場御見廻り彦坂大膳様御使番松平主殿様にも御届申上候而引取候段申上候惣御人數も無滞相揃申候

一 被仰出候者今曉消口甚宜被思召候に付小七郎藤九郎御格段思召も有之候先早速消口も取候而御満悦に被思召候段可申渡被仰出候其段申渡候外御步行より以下働之趣致吟味明日可申上旨被仰

出候

一 此方御人數消掛り候内右働之次第見届罷歸候様に被仰付御刀番布施要人被仰付罷出則罷歸候而此方御人數計に而消口に而手に合候段申上候

一 今日御武頭羽石小七郎御圓印奉行南部藤九郎其外御步行世話役共よりも段々働之次第吟味之上申聞候に付右之通書付致候而仲長右衛門致出殿被申上候

覺

世話役御步行

安土勘四郎
貴志幸之丞

右者御人數早速引纏罷出候而水之手繰惣御人數世話致方手繰宜相働且水汲小籠等損し候而御手支に可相成處に則御屋敷に申越爲取寄候に付御手支ともに宜御座候段小七郎藤九郎申聞候而聞候而此段申上候何分思召を以御褒美被成下度奉存候

世話役手に付御足輕

壹人

同手に付御中間

壹人

小組小頭

多兵衛

同小組平不殘御道具附部屋頭

壹人

物持小者之内

藤九郎

文治郎

勘左衛門

庄之助

南部藤九郎草履取

壹人

右者惣御人數一同と相働候併右之内此者共別而相働候趣申聞候此段申上候以上

一五月朔日右之通申上候所に私共を以年寄中え被仰出候は二十九日火事之節別而此方之御人數計にて消口取御満悦に被思召候依之御物頭御圓印奉行え上意可申渡被仰出候小七郎には御内々より御上下被下置候藤九郎え者御帷子被下置候

一御歩行世話役兩人え者別而火事場之御道具等不足之所早速心付候而御屋鋪え爲取寄候段別而働に被思召候依之頭を以上意被仰渡少分にて銀子にて被下度段思召之旨被仰遣候其外小者共前々御褒美之通に應被下候様に思召候乍去別而此度は辛勞致何も衣類等も汚し候事故前々よりは余計に被下度思召候尤も右之書斥別而相働候者も段々右に准し可申渡段仲を以山方内匠へ被御渡候内匠畏候段御請申上候

一五月二日御夕飯後龍起水御庭に而御試可被遊被仰候則仕掛候所に殊之外宜上へ水上り候而四五丈脇へ開き候事十四五軒にて随分有之候右龍生水御前え入候所無之に付仕掛候而二挺共に此末御役場之節一本二本御道具入候處明ヶ候而居候間入置候様に小道具世話役御歩行えも申渡候

一同三日同役長右衛門御催促に而罷出候所に御年寄衆を以被仰出候は自分共組御歩行世話役貴志幸之丞安士勘四郎二十九日火事に働宜御満悦に被思召候仍而爲御褒美上意被成下竝に壹人に金百疋宛被下候右金子被下候儀は御用達を以被仰渡候則兩人催促致候而仲方にて申渡候御歩行より以下被下置候御褒美左之通 (各額略之)

一六月六日昨夜七時半時谷中通出火三ツ半鐘之御相圖に而一番手立場え相揃候御物頭小野崎源左衛門御圓印奉行小田部新一郎則出板に而出張致候然者火本見御小姓原主鈴被遣候所に日暮里御屋鋪より御足輕を以注進申上候依之輪違組御人數に而も被指出可申哉御伺申上候所に輪違之内

左之通被差遣候

御足輕六人 手明小者五人 階子一廷 水溜籠一通 丹後籠一通

一外に同役小野崎造酒被仰付候而日暮重え口越口消方等世話致御屋鋪火之用心も爲致候様に被仰付候而罷越申候尤火事之様子も具サ吟味上野幸右衛門杯え承候而罷歸候様に被仰付候而參候

右火事御屋敷御門竝左右御長屋表之方不殘燒失致候
一日暮里より御人數不足之由申來候而又候輪違之御人數一組不殘指遣候尤御焚出し申付候而日暮里御屋鋪え指遣申候右人數程世話致候而遣候

一寶曆二申年唯今迄高桃灯手桃灯共にとふさ引に被仰付候得共とふさ引にては蟲の法清み出來御用立不申此末油引に被仰付可然奉存候
但とふさ引油引共に御直段等も同様之由併油引にては全體御桃灯赤張に而惡敷候に付とふさ引に被成置候得共此末は白張に致置候而精細吟味之上御用之節四五日以前にも油引御用立候は可然奉存候

一唯今迄階子竹壹尺一二寸廻りに見得候付小組小頭共も相尋候得者左様程竹多く無之候とも可然段申上候四間階子之竹九寸廻り三間階子之竹八寸廻りても随分御手支可然由申候是又右階子竹之義は御作事方吟味も有之事故大小に而御益にも可相成奉存候

第二號 明和四年大火記録

是は去今百四十七年前の秋田市大火記録なり

秋田市 米澤新五郎出品

覺

重なる出品物の説明

明和四年丁亥六月四日夜九つ時茶町菊之丁見上新右衛門大阪屋元右衛門兩家之庇合より出火いたし折節風出し下りに而殊之外強く仍而丁内半分も焼不申内に下龜之丁上米町二丁目下米町二丁目右三丁共に風下た之通真直に焼行淨願寺本堂屋根へ火飛候而見上新右衛門と同時に焼上る此時類焼家數間惣人数寺焼失數焼死人類焼町數並御上より被下物御炊出し五日晝より同九日夕飯迄朝夕兩度宛被下置候御町所前に御公儀様より行間九尺梁間掛間之假小屋三つ被掛置當分小屋掛不相成又は諸親類無之立寄申方無之者等え被貸置候間右小屋へ入候様にと被仰觸候仍而右類之者六日朝より入不申候遅く罷越候者は入兼申候

町數二十五丁

- 一大町一丁目 一同二丁目 一同三丁目 一茶町菊之丁
- 一同扇之丁 一同梅之丁 一上通町 一中通町
- 一大工町 一上肴町 一上龜之丁 一下龜之丁
- 一田中町 一柳町 一本丁四丁目 一上米町一丁目
- 一同二丁目 一下米町一丁目 一同二丁目 一御社務小路
- 一川反一丁目 一同二丁目 一同三丁目上角より
- 一戸島町東側上角より一八日町東側上角より十二軒内四軒潰家
西側上角より十二軒内四軒潰家
- 一本家九百六十八軒内三軒潰家
- 此小間數二千九百九十二軒半
- 此人數五千三百九人
- 一長屋借屋八百九十四軒内三軒潰家
- 此人數三千八拾九人

本家長屋借屋とも

惣竈數合千八百六十軒

惣人数八千三百九十八人

一土藏八十四 一穴藏五つ

燒死人十九人

寺數十四ヶ寺

一乘院 泉藏院 普傳寺 央王院 法花寺 釋迦堂 當福寺 西善寺

淨願寺 鱗勝院 聲鉢寺 來迎時 蓮住寺

外に脇寺十五ヶ時觀音堂二ツ

一保戸野鐵砲町表丁北浦町共ニ家數都合百五軒但表丁南側上角より四軒殘ル

其外小路ノ小橋十二ヶ所燒る通用難相成

一町々番所共に四拾二ヶ所小路番所七ヶ所不明門三ヶ所但番所共に

川村庄右衛門扱

本家九十六軒 但此小門四百七十間

此人數七百九十三人

長屋借屋百七軒此人數四百二十壹人

惣人数合千二百十四人

井上作兵衛扱

本家九十八軒 但此小間四百四十八間半

此人別八百九十五人

長屋借屋百十二軒此人別三百九十二人

重なる出品物の説明

重なる出品物の説明

惣人数千二百八十七人

武田五郎兵衛扱

本家二百九十三軒 但此小間八百四十八間

此人數千四百四拾六人

長屋借屋二百五十間

此人數九百三人

惣人数合二千三百四十九人

石黒三郎右衛門扱

本家四百五十七軒内三軒潰家同三軒痛家但此小間千百五拾五間

此人數二千四十九人

長屋借屋四百五軒此人數千三百二十八人

惣人数合三千三百四拾六人

船木喜兵衛扱

本家二十四軒内六軒潰家但小間六十八間

此人數百二十六人

長屋借屋二十軒内三軒潰家

此人數七拾四人

惣人数二百人

燒藏之覺

一土藏八ッ大町一丁目

二同十二同二丁目

一同一ッ同 三丁目

一同七ッ茶町扇之丁

一同三ッ中通町

一同一ッ上肴町

一同ニッ川反一丁目

一同ニッ上龜之丁

一同三ッ上米町二丁目

一同一ッ田中町

合八十四

外に 穴藏二ッ大町一丁目

同 三ッ茶町菊之丁

合五ッ

燒死人數

一大町三丁目加賀谷勘右衛門借家

一茶町菊之町

一同

一同

一同

一同

一同

重なる出品物の説明

一同十九茶町菊之丁

一同六ッ上通町

一同六ッ大工町

一同一ッ本丁四丁目

一同三ッ下龜之町

一同三ッ上米町一丁目

一同五ッ下米町一丁目

一同一ッ御社務小路

惣 四郎
藤林 久右衛門

同人

同人

同人借家

久

善

女

玄

母 久右衛門

善 右衛門

女 右衛門

玄 房

重なる出品物の説明

一同

女房
おひさ
家内下男一人

合六人

一茶町菊之丁

津國屋清兵衛
木村半兵衛

一同

一同
一中通町若狭や長兵衛借屋

一上肴町大野久松借屋

一下龜之丁工藤太左衛門

一柳町大工

一同丁大工

惣合十九人

石川西島
作新左衛門
右衛門

御米百五十石

本家長屋割合人数高八千三百九十六人

法一七八六六

一二十一石六斗八升九合

川村庄右衛門

扱此人数千二百十四人

一二十二石九斗九升三合

井上作兵衛扱

此人数千二百八十七人

一四十一石九斗六升七合

武出五郎兵衛扱

此人数二千三百四十九人

一五十九石七斗七升九合

石黒三郎右衛門扱

此人数三千三百四十六人

一三石五斗七升三合

船木喜兵衛扱

此人数二百人

百五十石

菊筥一萬枚

内千七百八十八枚右は長や借屋八百九十四軒分
引残而八千二百拾二枚

本家小間數合二千九百九十二間半

法二七四四

一千二百九十枚

川村庄右衛門扱

此小間四百七十間

一千二百三十壹枚

井上作兵衛扱

此小間四百八十八間半

一千二百卅五枚

此小間八百五十一間

一千三百六拾九枚

石黒三郎右衛門扱

此小間千百五十五間

一百八十七枚

船木喜兵衛扱

重なる出品物の説明

此小間六十八間
八千二百十四枚

右之通に御座候

當年類焼に付町々殊之外怪敷もの立廻り候由にて内町外町共に御武頭衆御廻番有之右組下御足輕
え六丁より供歩夫毎夜二人つゝ被仰付候右は七月五日より八月末方まで相務其後右御用相廻候段
被仰付歩夫共に相止申候

一此度類焼に付二十五丁え四間家一間に付御材木八本宛被下置候段被仰付候

惣小間二千九百八十九間半

右之内え三千二百七十九本六月八月兩度に被下置相残り追々被下候筈

一同年二十五丁類焼に付山王宮神主より惣丁え御祭禮之儀願上候乍然右惣丁之内三扱に而山々少
々宛も出し吳候様に申出候故仍而惣丁相談之上五丁目扱城町扱馬口勢町扱候申通し三扱より山
々少々出し申候

一明和四年亥十月三日左之通願上る

乍恐啓上書奉願上候御事

當六月四日夜類焼に付大町茶町六丁必止と相潰歩傳馬御用相務り兼候事故一丁限りに御銀拜借之
儀數度奉願上候所八月中御米三百石右六丁え御手宛被成下候段被仰渡重疊難有仕合に奉存候
一右御米三百石之内二百石は當秋中被下置残り百石は來秋中被下候段被仰渡候然は先達而奉申上
候通六丁共に歩傳馬相務り兼候得共右御救之事故日々他借等仕御用相務罷在候得共段々返済不仕
得者不相成事に御座候得ともいか様とも手繰に相及兼日々催促に預り迷惑至極に奉存候且此末右
之仕合に御座候得は他借等も罷成必止と御用相務り兼申候依之恐至極に奉存候得共右御米二百

石御慈悲を以何卒當十五日頃迄に拜領被仰付彼下置度奉願上候

右願之通御憐愍を以宜被仰上當十五日頃までに右御米拜領被仰付彼下置候は、重疊難有仕合奉
存候以上

明和四年亥十月三日

大町 三丁
茶町 三丁

右之通相認茶町庄屋井上作兵衛殿へ差出候

第三號 文化元年火消方控書

此控書は去今百十年前佐竹藩に於て制定せられたるものにして御學館とは藩の大學校を云ひ
今の女子師範學校の邊に建築しありたり特に興味あるは眞切仲伴といふものを置きし事なり
蓋其は火に密接の關係あれば其を切る者をして直ちに火消方たらしむべしといふが之を置き
たる趣旨なるが如し

秋田市 東山多三郎出品

御學館より火消仲間申渡覺

一方限之内出火之節早速驅附表御門より可罷通若御門未不開候節は火消仲間驅附候趣御番人江申
談御門爲開候而可罷通事

一驅附之節は御腰掛江相詰可罷有事

一四拾人之内拾人に付壹人つゝ頭立置き若一組之内越度有之候は、其頭江屹度御たゝし被成候事

一風並により方限之外たりとも早速驅附事

一驅附之節小役人共之内江相届猶鎮火に及退出之砌壹人宛名前申開帳面江附之上退出可致事

重なる出品物の説明

- 一 火消方驅番之者四拾人に付弓張提燈四張持參可致被仰渡候
- 一 看板紋印水之字に仰付候看板之染色勝手次第に被仰渡候
- 一 四拾人外に頭之者壹人罷出候に付願によつて弓張提燈壹ツ都合五張之事に被仰渡候

莫切仲伴之事

此度莫切仲伴六拾壹人仲伴六置度旨願申出候に付仲伴被立置商判被相渡候但此末六拾壹人之外被増置間敷候事

但右商判相讓度者候は、役所江可申出名前書替可被相渡候

一 右に付出火に節四拾人宛早速相詰可申爲目印半臂手元入料を以仕立置申度旨申立候依之此末出火之節長野より土手長町迄之内出火之節者御學館江四拾人相詰驅番帳に付可申候其外之出火は火事場へ直々罷越御町奉行纏有之候所江相詰兩町奉行並に取次役庄屋之内へ名札相渡消防可致候鎮火之上御町所に罷越帳面に附退出可致御萬一未々怠候は、仲伴被相止候間可得其意候

此度申渡候提書之外仲伴申合杯と申なし直段引上或は一統之休日相立或は出入之もの引替候不相成杯之申合を始惣して提書之外に仲伴申合堅く被相禁自然提書之外に相定度儀も候は、役所江申出吟味之上提書江追加可被度下候

自然相談之儀所々打寄候とも多勢打寄候儀可致延引拾人へ壹人宛役前立置右六人會談之上殘人數へ可申觸候事により惣人數打寄不申候へば不相成儀候は、前廉丁所へ可相伺候其節失墜に相成候儀堅く被相禁候間失墜無之様可申合候

此度願に寄仲伴被立置候得共追々諸人之迷惑に相成候儀有之候得者御引揚被成候間銘々心を以諸人迷惑不相成様に可致候切賃之儀は左之通

新古莫一斤に付切賃拾三文外に葉取賃四文

同下一斤に付切賃拾壹文外に葉取賃三文但不掃

仙臺切上一斤に付拾九文外に葉取賃四文

同下拾斤に付拾七文外に葉取賃三文

かこち壹斤に付貳拾一文外に葉取賃五文

のわら一斤に付貳拾一文外に葉取賃五文

但先方之扶持に候は、平均一斤二文下けに可致候

手元に而たば切賣致候ものは仲伴之外誰元ども勝手次第たるべし尤右商賣之者に不限銘々一家之たばこ自分に而切候儀は是迄之通勝手次第之事

大町一丁目五丁目に不限煙草店に御領内之者手代に差置たば粉爲刻候而他之稼不致者は勝手次第に候他領者等手代と申なし暫之口過に差置候儀者被相禁候

但御領内之者手代に指置候儀は莫切共之内江弟子に致手代に差置べく候尤物入の間敷儀致間敷候

已來切賃高下願之儀に限り五丁目大町一丁目添書を以可申立候

(ロ) 維新後の消防關係書類

維新後に於ける消防に關する各種の規約其他の書類に就き興味ある記事を抜載すれば

第一號 由利郡館町消防規則(明治十五年申合) 矢島消防組出品

第二十三條ニ於テ消防ニ臨ミ左ノ諸件ニ盡力シタル者ハ左ノ定期ニヨリ相當ノ賞與アルモノトシ

一、出火ノ號鐘ヲ撞キタル者ハ金五錢ヲ給ス

一、身ノ危險ヲ顧ミセ拔群ノ働ヲナセシ者ハ其功勞ニヨリ金五錢ヨリ二十五錢迄ヲ給ス

重なる出品物の説明

一、玄蕃桶持ハ一名ニ付二錢ヨリ五錢迄ヲ給ス
とせり物價頗る低廉なりし當時とは言へ五錢乃至二十五錢甚しきは二錢位の給與に満足せしは全く當時人情諒朴にして比較的恬淡寡欲なりしに由るものならむ

第二號 田中町消防組申合規則(明治十九年申合)

矢島消防組出品

第十八條 左の件々を犯す者は事實取調の上三日以上十五日以下自身番に付す

一、本則ニ違背スル者

一、命ヲ待タスシテ消口札ヲ立ツル者

一、水手ヲ擅ニシテ他ノ組ノ便ヲ妨クル者

一、謂レナク持前ノ要具ヲ携帶セサル者

一、鎮火ノ後濫ニ退散スル者

一、消防組總取締及ヒ正副頭取各組長ノ差圖ニ違フ者

一、徒ニ諸器械ヲ破毀シタル者

一、猥リニ看板ヲ私用スル者

一、喧嘩口論ヲ爲ス者

一、無届ニテ現場へ出張セサル者

第二十二條 消防組ニ慰勞トシテ酒肴ヲ賜フコトアルトキハ其度ヲ定メ斟酌シテ長居セサルモノトス但シ大火ニ罹リタル町村ヨリ慰勞金等ヲ仕向ケラル、トモ決シテ申受ケサルコト

第三號 消防警察規程(明治二十三年四月申合)

矢島消防組出品

火災鎮火ニ至レハ正副頭取ハ引上ケ合圖ヲ爲スコシ此場合ニ於テ消防組内ノ者假令最寄ニ親戚ノ者アリト雖モ本隊ヲ離レ見舞杯ト稱シ自儘ニ廻行スルコトアル可カラス違約スル者ハ歸着ノ上本

會總會ノ決議ニ依リ相當ノ處置ヲ爲スコシ

第四號 大館消防組規約(明治二十四年申合)

大館消防組出品

第一條 大館村火防年令ハ滿十七歳以上三十歳以下トス但滿十四年以上十七年未滿ノ者ハ小廻ト

ナシ火防ノ便役ニ供ス

第十二條 火防鎮ニ及ヒ歸家アルトキハ頭長ハ一聲呼ヒ歸ルモノトス

第十三條 事故ナクシテ火災現地ニ出テサル人ハ連名申合ノ上重科ニ處スルモノトス

第五號 築館消防組規則(明治二十四年申合)

矢島消防組出品

第十二條 現場ニ於テ傷疾ヲ受ケタル者ハ其疵ノ輕重ニ依リ療治料トシテ金五十錢以上五圓以下ノ金圓ヲ給ス尙死亡ニ至リタル者ハ各弔祭扶助料トシテ金五圓以上十圓以内ノ金額ヲ給與スルモノトス

第十三條 現場ニ臨ミ身ノ危難ヲ顧ミス拔群ノ働キヲ爲シタル者ハ其功勞ニヨリ金五錢以上二十

五錢マテノ金圓ヲ賞與スルモノトス

第六號 新莊消防組後備役員帳

矢島消防組出品

此帳簿は明治廿四年中調製せられたるものなるが當時同消防組に於ては後備役員制と云ふ興味ある制度ありたるものにして今此制度の概略を述べんに同消防組員たりしものにして老年病氣其他の原因に依り消防現役に従事すること能はざるに至りたる者其他町内の有志者を以て一團を組織し火災豫防として夜番をなし火災に際し非常報知、禁出し、家財の運搬機械器具の手入消防員の使用達し等を爲し消防員を補助せり而して後備役員は總て無給なるも消防上功績あるものに對しては特に一定の賞與を與ふるものにして其經費は寄附に依るものとす而して總取締一名取締二名ありて之が監督を爲すものとす此制度を巧みに活用するときは効果著しからん

第十號 火災豫防注意書(大正三年五月作製)

湯澤消防組出品

湯澤消防組第二部に於ては消防研究會なるもの設けあり消防員を以て組織し小頭會長となり毎月一回小頭の宅に集合し消防に關する事項を研究しつゝあり此注意書も同會に於て作りたるものにして町内の店頭又は軒下に掲げ置くものなり重なる出品物として第一號に説明したる壓迫消火等を此研究會に於ける研究の産物なりとす

火災豫防注意

- 一、神佛ノ燈明ハ參拜後直ニ消スベキ事
- 一、焚火ノ傍ニ夜具ヲ出シタル時ハ改メテ取仕舞フ事
- 一、提灯ノ火ハ使用後直ニ消スベキ事
- 一、炬燵ヲカケ又ハ焚火ノ儘留守セザル事
- 一、小屋又ハ馬屋等ニ火ヲ焚キタル時ハ番人ヲ置ク事
- 一、子供ニマツチヲ弄セザル様又ハ煙突焚尻消炭等常ニ注意スル事
- 一、水屋ノ水及天水桶ノ水ハ常ニ絶タザル事
- 一、點火セルランプヲ戸障子ニカケザル事
- 一、石油ニ火ノ入りタル時ハ砂又ハ灰ヲカクベキ事
- 一、暴風ノ時ハ階子ト水ヲ門エ出シ置クベキ事
- 一、雇人ヲシテ火ヲ使用セシメタル時ハ家内ノ人特別ノ注意ヲナスベキ事

湯澤消防組第二部消防研究會

第十一號警備費基金造成計畫書

北秋田郡矢立村に於ては警備費基金造成の計畫を建てあり今參考の爲之を掲げん

北秋田郡矢立村警備費基金造成計畫書

矢立消防組出品

本村は警備の完全を期し活動を敏ならしむる目的を以て警備費基金を造成せんとす其計畫左の如し

一、現金積立二百五十圓

寄附金を蓄積す

二、造林

イ、植栽面積

五町一反九畝參歩

内

杉植栽面積

三町五反歩

ニセアカシヤ同

一町六反九畝參歩

ロ、施業地

本村大字白澤字寺澤上八段百十八番ノ貳

三町一反九畝參歩

同大字粕田字男神四十六番ノ一

貳町歩

ハ、施業年次の豫定

大正元年度

參町一反九畝參歩

大正貳年度

壹町歩

大正三年度

壹町歩

ニ、施業方法

一町歩に對する植栽本數杉四萬五千本

重なる出品物の説明

ニセアカシヤ四萬本
 地拵植付及下刈蔓切の手入等一切の人夫は夫役賦課を以て之れに充て植付後の保護管理は
 造林地々元部落の住民をして爲さしめ其報酬として伐採収入の一割を給與するものとす
 ホ、収入豫想

杉植付面積參町五反歩之れを五十年毎に伐採す
 此収入金高壹萬五百圓(一反歩三百圓の見込)
 ニセアカシヤ植付面積壹町六反九畝參歩之れを二十五年毎に伐採す
 此収入金高八拾四圓五十錢(一反歩五圓の見込)

但此収入金を積立て利殖を爲す

右現金を大正二十五年まで五分利付にて蓄積せば元利合計金八百六圓十錢を得之れに造林ニセアカシヤの伐採収入金八十四圓五十錢を合算すれば八百九十圓六十錢となり一ヶ年利子四十四圓五十三錢を得るを以て大正二十六年より利殖を停止し警備費用に支辨するものとす更に大正五十年に至れば杉伐採収入金一萬五百圓及ニセアカシヤ第二期伐採収入金八十四圓五十錢を得るを以て之れを通算せば一萬千四百七十五圓十錢となり利子一ヶ年度分にて五百七十三圓七十五錢に達するを以て此の時期に至らば大々的經營施設を爲し得る見込なり

警備費基金蓄積年次表 (年利五分)

年次	元金	年度内利子	元利合計	年次	元金	年度内利子	元利合計
大正元年度	二五〇,〇〇〇	—	二五〇,〇〇〇	同 三年度	二六二,五〇〇	一三,一二〇	二七五,六二〇
同 二年度	二五〇,〇〇〇	一二,五〇〇	二六二,五〇〇	同 四年度	二七五,六二〇	一三,七八〇	二八九,四〇〇

附 録

金馬簾使用認許狀授與式概況

大正三月八月十三日秋田縣公會堂に於て金馬簾使用認許狀授與式を舉行したるが知事の臨場警察部長保安課長各警察本分署長各消防組頭多數の來賓其他有志者の參列あり其數三百餘人に上り頗る盛大なり當日金馬簾使用認許狀に添へ一條の金馬簾を受與せられたる名譽ある消防組を擧ぐれば左の如し

- 一、由利郡 石澤消防組 第一部
- 二、同 同 第二部

附 録

同 五年度	二八九,四〇〇	一四,四七〇	三〇三,八七〇	同 十八年度	五四五,六三〇	二七,二八〇	五七二,九一〇
同 六年度	三〇三,八七〇	一五,一九〇	三一九,〇六〇	同 十九年度	五七二,九一〇	二八,六四〇	六〇一,五五〇
同 七年度	三一九,〇六〇	一五,九五〇	三三五,〇一〇	同 廿年度	六〇一,五五〇	三〇,〇七〇	六三一,六二〇
同 八年度	三三五,〇一〇	一六,七五〇	三五一,七六〇	同 廿一年度	六三一,六二〇	三一,五八〇	六六三,二〇〇
同 九年度	三五一,七六〇	一七,五八〇	三六九,三四〇	同 廿二年度	六六三,二〇〇	三三,一六〇	六九六,三六〇
同 十年度	三六九,三四〇	一八,四六〇	三八七,八〇〇	同 廿三年度	六九六,三六〇	三四,八一〇	七三一,一七〇
同 十一年度	三八七,八〇〇	一九,三九〇	四〇七,一九〇	同 廿四年度	七三一,一七〇	三六,五五〇	七六七,七二〇
同 十二年度	四〇七,一九〇	二〇,三五〇	四二七,五四〇	同 廿五年度	七六七,七二〇	三八,三八〇	八〇六,一〇〇
同 十三年度	四二七,五四〇	二一,三七〇	四四八,九一〇	同 廿六年度	八〇六,一〇〇	四〇,五〇〇	八四六,六〇〇
同 十四年度	四四八,九一〇	二二,四四〇	四七一,三五〇	同 廿七年度	八四六,六〇〇	四四,五三〇	八九〇,一三〇
同 十五年度	四七一,三五〇	二三,五六〇	四九四,九一〇	同 廿八年度	八九〇,一三〇	四九,〇〇〇	九三九,一三〇
同 十六年度	四九四,九一〇	二四,七四〇	五一九,六五〇	同 廿九年度	九三九,一三〇	五三,〇〇〇	九九二,一三〇
同 十七年度	五一九,六五〇	二五,九八〇	五四五,六三〇	同 三十年度	九九二,一三〇	五七,〇〇〇	一,〇四九,一三〇

- 三、同 平澤消防組 第七部
 - 四、同 象潟消防組 第三部
 - 五、北秋田郡大館消防組 第二部
- 而して當日知事警察部長の告辭式辭あり大久保秋田市長は祝辭を述べられたり今左に當日の告辭式辭を掲ぐれば

告 辭

茲に本日を下し第二回金馬簾使用認許狀授與の式典を擧ぐるを得たるは本官の最も満足とする所なり

惟ふに消防事務の整否は人命財産に對し至大の關係を有し率て國家經濟に影響する所鮮少ならず然るに世運は日進月歩底止する所なく人口は益々増加し家屋は日々接觸密集して建造せらる茲に於てか消防の必要更に切實を感ずるに至れり諸子宜しく其の職責の大なるものあるを思ひ機械器具の整備規律節制行動技術技能の訓練に力を致し其責務を盡すに就て遺憾なからんことを望む聊か一言を述べて告辭と爲す

大正三年八月十三日

秋田縣知事正五位勳五等 阪 本 三 郎

式 辭

第二回金馬簾使用認許狀授與式を擧げ其功績を表彰せらるるに至りたるは本官の欣幸に堪えざる所なり

抑も消防組の任務たる一朝火災の起るや挺身勇往し黒煙猛火と戦ひ公衆の生命財産を保護するの職務なれば其任務の重且大なるは恰も軍隊の戦場に於けるに異らず隨而消防組員には勇敢の氣象敏捷なる動作並嚴肅なる紀律あることを要す之に兼ねるに精巧なる機械と精銳なる器具と之れに對する技術熟練を以てして消防の職務始めて完きを得べし
然るに其組が今日の光榮に浴したる所以は其の功績優秀なるに由ると雖も名譽の存する所亦責任の之れに伴ふは勿論にして諸子の責任一層重きを加へたることを忘るべからず冀は將來益々消防事務の爲に盡瘁し本日の榮譽を失墜せざらんことを聊か一言を述べて式辭と爲す
大正三年八月十三日

秋田縣警察部長正七位 川 上 親 俊

大正四年八月十二日印刷
大正四年八月十七日發行

秋田縣警察部保安課

東京市神田區錦町三丁目二十四番地

印刷者 村上永之丞

東京市神田區錦町三丁目二十四番地

印刷所 大正印刷株式會社

326
109

終